

2019年度 社会福祉法人多摩福社会事業報告

2020年6月6日

1. 中期計画、50周年事業

50周年記念事業を核とした10年間の法人事業計画の検討を開始したが策定することができなかった。多摩市による永山駅前保育所事業公募に対しては、検討の結果、新型コロナウイルス感染防止のため3月理事会に諮ることを断念した。

法人50周年に向けた法人史作成は50年誌編集委員会での案が固まり執筆準備に入った。

2. 評議員・役員及び経営

(1) 評議員・役員

定時評議員会のほか臨時評議員会を3回行った。予算決算、事業計画、事業報告等の審議を行った。評議員の退任に伴い評議員1名を評議員選任・解任委員会にて選任した。

理事会は6回開催し、うち第6回理事会は新型コロナウイルス感染防止対策のため理事全員の同意を得て決議の省略を行った。本部規程、就業規則、賃金規程等各種規程、2020年4月開設の多摩市貝取小学童クラブ運営受託の審議と決定を行った。

理事、監事の退任に伴い、新理事6名（うち重任4名、新任2名）、新監事2名（2名新任）を評議員会にて選任した。理事会において理事長、常務理事の再任を決定した。

監事は、法人全体の日常運営経営と保育内容に関して監査を実施した。

一部理事監事の交代があったが、全体として評議員会・理事会で活発に議論し法人経営を発展させることができた。

(2) 経営会議の定期的開催

経営会議を設置して7年、法人本部を設置して6年が経った。2019年度は13回の経営会議を行い、保育情勢、人事採用・人事異動、処遇改善、予算、決算、事業計画、研修事業等の審議決定を行った。5拠点の施設長交替を見据えて日常的な法人事業の意思決定を行うことができた。会議で新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインを急遽策定した。

(3) 施設長人事、施設長会議

2020年4月の多摩市貝取小学童クラブの新規受託、退職、異動による5拠点の施設長交替に備え、準備を行った。施設長交替を見据えた人事が2018年に行われており、5拠点の施設長交替とそれに伴う引き継ぎをスムーズに行うことができた。

施設長会は、各自自治体の保育情勢の交換、各施設運営の問題共有と意見交換を行い、

施施設運営の改善に反映することができた。

(4) 本部体制

経営会議議題整理のため経営会議前に法人本部事務局会議を行った。経営会議と本部事務局会議メンバーが重なるので本部事務局会議の位置づけとメンバーを検討する必要がある。

法人本部は欠員状態が続いていたが1名を採用し2020年3月より3名体制となった。法人全体の要として、評議員会、理事会、経営会議の動きに対応した実務を確実に行うことができた。また、什器を新調し法人本部の資料備品の整理を行った。

(5) 法人内各種会議

・ 事務担当者会議

事務処理、経営処理について意見交換を行い、経営会議に提案することができた。

・ 研修委員会

給食部会、保健部会と共同して法人合研、新人研修など研修事業を充実させ、専門職の能力向上を図った。

・ 賃金規程細則及び休暇規程細則制定委員会

年度内に4回の委員会を開催した。賃金規程細則の作成及び休暇規程細則の更新について議論を行った。

・ 広報委員会

年4回の法人ニュースを発行することができた。

・ 50年誌編集委員会

法人史作成案が固まり、執筆の準備にとりかかった

・ リクルート委員会

計画的に採用活動を行い、2020年度採用が充足した

・ 中堅層研修委員会

3回の学びの場を設け、交流を深めるとともに法人への理解を深めることができた。

・ 役員報酬検討委員会

12月18日に委員会を開き、役員の報酬について検討を行った

3. 人事計画、人事管理

(1) 職員採用・人事異動

新版のリクルートパンフレットの作成、ホームページのリニューアルの他、就職説明会参加・ハローワーク・リクナビ活用などを積極的に行い、ほぼ予定通り採用することができた。5法人共同リクルート事業はそれぞれの法人の状況が異なり意思一致するこ

とができなかった。

施設長交替の他は積極的な人事異動は行わなかった。

(2) 職員処遇

処遇改善については、保育園及び法人本部については前年度を踏襲した。学童クラブについては、人員配置の見直し及び新規事業の受託を行い、財務状況を見直したことにより、保育園と同等の処遇改善を行った。

(3) 労働組合協議

処遇改善、三六協定、各種規程等について協議をすすめ、合意を得ることができたが、労働時間の統一と健康管理休暇導入については一部拠点で合意にいたっていない。

4. 法人財政

(1) 各拠点の財務分析・財務計画

各拠点の財務分析を行い長期的に安定した事業を行うために、財務計画を策定する議論を開始した。

(2) 法人全体の施設整備計画の検討

施設整備にかかる費用について試算を行った。

5. 職員研修

(1) 第5回多摩福祉社会合同研究集会

第5回多摩福祉社会合同研究集会が2019年10月26日にJTBフォレスト及びこぐま保育園を会場に開催された。「子どもに学ぶ」をテーマとし全体会、レポートをもとにテーマ別の分科会を行った。充実した分科会での報告によって掘り下げた議論ができた。

(2) 新入職員研修

2月予定して準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

6. 広報、IT化

(1) 法人ニュース発行体制を確立し内容の充実を図った。

(2) ホームページの充実を図るため、業者の見直しを行った。

(3) 法人現況を知らせ法人事業への協力を訴えるための方法について検討を行った。

(4) 実践記録等を過去の資料についてデータ化を行った。

7. その他の取り組み

(1) 民主的社会福祉法人全国組織結成準備会参画

結成に協力してきた社団法人権利を守る社会福祉法人全国会議（仮称）が2020年5月に結成する運びとなった。3月理事会で同社団に加盟を決定、理事長が理事就任予定。

(2) 他団体への役員派遣、学会などでの発表

日本学童保育学会（代表理事）、総合社会福祉研究所（理事）、自治労連地方自治総合研究機構（運営委員）、全国保育団体連絡会（副会長2名）、全国保育経営研究懇話会（副会長）、東京保育経営懇話会（役員）にそれぞれ役員を派遣した。

全国保育団体合同研究集会、東京合研集会、雑誌『ちいさいなかま』で発表を行った。

2019年度 こぐま保育園事業報告

2020年6月6日

1. 児童状況

- (1) 認可定員：211名
- (2) 保育年齢：産休明け～就学前
- (3) 保育時間：7：00～19：00
- (4) 年齢別定員状況（4月1日現在）

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	21	35	38	39	39	39	211
在籍児童	21	35	38	38	41	39	212
新入児童	20	16	5	2	0	0	43
市内	21	35	38	38	41	39	212
管外	0	0	0	0	0	0	0

* 管外の地域—0名

(5) 新入園児状況

- * 入園経過
0歳：遊ぼう会より3名 育休復帰2名
1歳：遊ぼう会より3名
2歳：他園より2名 ちいくまより1名 一時保育より1名
3歳：認証より1名 ちいくまより1名
- * きょうだい関係 ・ 0歳：9名 ・ 1歳：7名 ・ 2歳：1名
- * 延長対象児
- * 困難・配慮家庭 2家庭
- * 配慮児 1名
- * アレルギー対応児 0歳：2名 1歳：1名

2. 職員状況

- (1) 正職員(在籍：47名)
内訳 正職員：46名 再雇用職員：1名

①正職員配置状況

園長	副園長	主任	保育士	事務長	看護師	栄養士	調理員	丸早専	合計
1	1	4 (保育士3 保健1)	33	1	1	4	1	1	47

- ② 新規採用者 7名
- ③ 産休・育休取得者 4名
- ④ 育休復帰者 3名
- ⑤ 他施設より 異動職員 2名 他施設へ異動職員 1名
- ⑥ 退職者 正職員 5名 有期職員 10名

(2) 有期契約職員

①有期契約職員配置状況

	にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり	給食	ちい くま	環境 衛生	事務	土曜	合計
人員	5	4	4	3	6	4	5	2	2	1	2	38

②有期契約職員新規採用者及び退職者

退職者 9名

新規採用者 4名

③一時・定期利用保育事業

定期利用：4名 一時保育：2名 6名定員

常勤：1名 非常勤職員：2名

(3) 嘱託医：3名

- ・小児科医：1名（高瀬 真人 日本医科大学永山病院小児科医局長）
- ・産業医：1名（入江 幸子 桜ヶ丘記念病院）
- ・歯科医：1名（三上 直一郎 三上歯科医院 医師）

(4) 嘱託対応協力者・協力機関

- ・スピーチセラピスト：1名（北川 多美子 セラピスト）
- ・療育センター巡回指導 年間2～3回
（島田療育園・施設巡回指導、臨床心理士・医師・発達支援室）
- ・臨床発達心理士 石堂 志津子（事例検討・職員研修・相談・個人面談）

- ・市・健康センターよりの保健指導、子ども家庭支援センターへの相談と連携
- ・都保健所保健指導、児童相談所発達相談等の援助・協力
- ・産業医との連携 市内の精神・神経科医

(5) 講師

- ・わらべうた (勝又 希子)

3. 今年度の園運営の重点課題に対する取り組み

1 職員1人1人が園運営や保育内容充実を考えていく主体者として考え、行動できるようにしていきます。職員が自分の可能性を見出し、生き生きと働きがいのある職場づくりをめざします。夫々の個性を認め合い、自信をもって仕事に向かえるような職場にしていきます。

→退職者が多く新しい7名の仲間を迎えてスタートしましたが、皆で考え実践していけるような職場作りを大切にしてきました。今年度の新入職員は何にも積極的に行動的だったので学びも充実していました。2年目・3年目～の職員も自分の経験値や勤続年数に応じて、果たす役割を考え後輩を育てる立場で頑張れたと感じています。集団の質としてお互いを認め合い尊重しあう関係性を重視してきました。

2 保育をめぐる情勢の変化で、見通しを持った運営が厳しい状況ですが、こういう時だからこそ、子ども像を明確にして“こんな保育がしたい”“厳しいけれどピンチをチャンスに”という前向きな姿勢で保育が出来るような深めあいをしていきます。

→1期の総括では子どもの捉え方の基本である人権と尊厳について”子どもの意見表明権“の資料を基に学びました。0歳児でも笑ったり顔の表情を変えたりすることで、自分の意見を表明する力を持っていることをおさえ合いました。

乳幼児一人一人の表情を読み取り、声かけや共感をし、子供が安心できる保育をしようとスタートしました。

2期では夏の保育の振りかえりをおうち毎に行い、各自がどう考えて保育してきたかの思いを共有でき、信頼関係を深めることが出来ました。責任者会議でどういう総括にしたいか論議したところ、おうちの話し合いをじっくりしたいという意見が多く取り入れられました。(ゆっくり時間をかけて保育を語り合いたいというのが切実な願いです)現場の職員の気持ちとぴったり合致し、心地よい集団になれました。分散会ではおうちの代表として話し合ったことを伝えるため、若い職員は緊張しつつも頑張りました。

3期は全体会は園長の話のみとし、おうち会議をたっぷり行ないました。子どものこと、保育のことがしっかり話せてよかったと皆元気になれました。最後の全体会で5分間スピーチで各おうちの状況報告を行いました。毎回5分間スピーチをしているので、完結にまと

める力量が皆についてきました。

4期は退職者からのメッセージを全体会で行ないました。分散会では1年の振りかえりをしました。皆大変だったけれど頑張ったねの確認ができました。

3 こぐま保育園は何故異年齢保育に移行したのか1900年代の子どもや父母・職員の姿、社会状況等の学びなおしをしていきます。学びを通して今の保育を深めることにつながっていくようにできれば良いと考えます。異年齢保育の実践の歴史や現在の状況把握を共有し合い、課題を明確にした深めあいをしていきます。同時に背伸びをせず今の自分たちでできる保育をしていくなかで、保育士からの発信や創意・工夫が生まれ、自分たちでつくる異年齢保育を大事にしていきます。

→十分に出来ませんでした。職員からは話を聞きたいという思いが沢山聴かれましたがその他やる事が沢山あり、後回しにせざるをえず、残念でした。

本格的にやろうとするなら、日常保育運営の範囲では難しいと考えます。多摩合研や幹部研修等別立てのところで語ったことを、こぐまの職員対象で行なうにはどうしたら良いかが宿題として残りました。

4 父母と共に子育てを考えていきます。子どもたちにどんな力を培っていきたいのか、懇談会に学習も加えながら、共に深めていきます。

こうなってほしい、こういう力をつけて欲しいという父母の願いを共有しながら異年齢保育で育ち合う姿、ついていく力を分かりやすく伝えていきます。職員も父母との伝え合いを通して成長できるようにします。

→父母との運営委員会中心に懇談会の内容検討、交流会の成功に向けて等一緒に作りあってこられたと思います。

5 運営機構を変えていきます。園長、副園長1名、事務長1名、主任4名を幹部職員として位置づけます。今年度は主任を4名おき、複数のおうちの運営に責任を持つと共に、園全体の運営にも関わっていきます。主任が在籍するおうちには、職員配置を1人補充して、より力が発揮できるようにします。各おうちに責任者をおきます。

保育主任、乳児主任、保健主任と職域からの主任をおき、様々な観点から子どもの成長・発達を支援します。

今まで行ってきた月2回の主任会議を1回に、2回目は各おうちの責任者との合同会議とし、保育内容、子ども状況、父母状況、職員状況等の情報の共有を行い、みんなで考えあっているようにします。

→構想は充分でしたが、運営充実は非常にきついものがありました。主任は前期・後期で変化させていく予定、責任者会議は保育内容を深めることを中心に異年齢保育も盛り込んでいく予定でした。病休代替や産休代替の必要性に対して求人をかけても誰も来ない状況で、結局主任が対応し安定をはかりました、連動して責任者会議を一日かけて行なう余裕もな

くなり、現場も事務室も少しでもより良い保育をと必死で踏ん張ってきた1年でした。

- 6 子育てひろば事業・一時保育事業・永山学童クラブや児童館との連携を密にして永山地域一帯を子どもたちが生活しやすい地域にします。

高齢者の参加、小学校から高校生までの居場所づくりも視野にいたした連携も目指します。

→例年通り行なってきました。今年度は新型コロナウイルスとの関係で出来ないことが増えてしまいました。今後どうなっていくか動向をさぐりながら計画を立てる必要があります。

- 7 一時保育・定期利用保育事業、“ちいくま”もすっかり園に定着し、在園児との交流保育も行ってきました。異年齢のおうちに遊びに行く時の笑顔がかわいい子どもたちです。模索しながら実践を積み重ねて来ましたが、さらに充実・発展させます。

→例年通り行なってきましたがコロナウイルスとの関係で2・3月は特別な状況となりました。

- 8 学童3施設との交流、保育内容の充実、連携を深めていきます。

→関係者がこぐまに来てくれ、話し合いや計画、反省等行ないました。交流も出来ましたがコロナウイルスとの関係でとりやめになる事が多く残念でした。

- 9 働く環境づくりを2～3ヵ年計画で検討し今年度は最終の3年目です。

職員の層が結婚、出産と重なる時期をむかえ産休・育休取得希望者が多くなっています。保育士確保が難しいなか人材を少し潤沢に採用し、安定した運営を目指します。

実労働時間や土休、短時間職員の契約時間等の検討を行います

処遇改善についての学習を行ないます。

→検討の3ヵ年が終わりました。4月からあらたな働きかたでスタートできるよう努力してきましたが、検討課題が解決できずのスタートとなります。実際に月ごとに労働時間や土休を変えて働いてどうだったのかの検証も行なったのですが、一致点が見出せず現在に至っています。

- 10 研修計画

全国・東京経営懇研修会・セミナー

合同保育研究集会

東京都、行政説明会

東社協・日保協主催研修会

保育協議会 保育士会・ハンディキャップ・栄養士会・看護師会

法人内研修会

→予定通り実施できました。

11 修繕計画

空調整備

不審者に対応すべく鍵の工事

→昨年度より取り組んできていた空調工事は本格的な暑い季節を迎える前に完了することができました。(6月22日完了)。

不審者に対応すべくカギの工事を検討しましたが、現行の設備での確保が見通せたため工事は行いませんでした。

一方、施設全体の様々なところに故障箇所や修繕が必要な箇所、機器の故障等が発生しています。早急に対応必要な点について対応を行いつつ、長期修繕計画の見直しを次年度の課題としていきます。

2020年度実施分については以下の通りとします。

- ・食器洗浄機及びシンク入れ替え工事
- ・通信機器入れ替え工事
- ・ICTシステム導入
- ・クロークドア修繕（台風被害による）
- ・建具・門扉・その他多種修繕
- ・空調設備工事
- ・火災報知器入替

2019年度 こぐま保育園 参加研修一覧（出張）

正職員										
NO.	役職・クラス		研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
1	責任者・かぜ		幼児保育研究会	東京経営懇	保育プラザ	5月15日	幼児教育の意義	○		○
2	にじ		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	5月15日	実践報告・質疑			○
3	やま		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	5月15日	実践報告・質疑			○
4	そら		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	5月15日	実践報告・質疑			○
5	かぜ		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	5月15日	実践報告・質疑			○
6	もり		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	5月15日	実践報告・質疑			○
7	うみ		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	5月15日	実践報告・質疑			
8	主任・保健		保健部会	保育協議会	多摩市役所	5月15日				○
9	にじ		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	5月21日	意見交換			○
10	やま		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	5月21日	意見交換			○
11	そら		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	5月21日	意見交換			○
12	うみ		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	5月21日	意見交換			○
13	かぜ		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	5月21日	意見交換			○
14	もり		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	5月21日	意見交換			○
15	うみ		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	5月21日	意見交換			
16	やま		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	5月21日	食べる機能について1			○
17	かぜ		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	5月21日	食べる機能について1			○
18	主任・保健		保健部会	保育協議会	多摩市役所	6月5日				○
19	にじ		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	6月5日	清水先生の講演			
20	やま		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	6月5日	清水先生の講演			○
21	そら		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	6月5日	清水先生の講演			○
22	うみ		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	6月5日	清水先生の講演			○
23	かぜ		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	6月5日	清水先生の講演			○
24	もり		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	6月5日	清水先生の講演			○
25	うみ		春の連続学習会	三公保連	国分寺労政会館	6月5日	清水先生の講演			
26	主任・保健		プール研修	保健所		6月11日				○
27	主任・もり		プール研修	保健所		6月11日				○
28	主任・うみ		乳児保育研究会	東京経営懇	保育プラザ	6月12日	乳児保育の意義	○		○
29	副園長		乳児保育	保育プラザ	保育プラザ	6月15日	意義・関わり・保育内容	○		○
30	副園長		乳児保育	保育プラザ	保育プラザ	6月16日	関わり・環境・指導計画	○		○
31	責任者・かぜ		幼児保育研究会	東京経営懇	保育プラザ	6月19日	幼児教育の環境	○		○
32	責任者・やま		乳児保育リーダー研修	保育協議会	恵泉女学園	6月19日	乳児保育の意義	○		○
33	主任・事務室		乳児保育リーダー研修	保育協議会	恵泉女学園	6月19日	乳児保育の意義	○		○
34	責任者・やま		乳児保育リーダー研修	保育協議会	恵泉女学園	6月20日	保育内容・環境	○		○
35	主任・事務室		乳児保育リーダー研修	保育協議会	恵泉女学園	6月20日	保育内容・環境	○		○
36	責任者・やま		乳児保育リーダー研修	保育協議会	恵泉女学園	6月21日	関わり・指導計画～評価	○		○
37	主任・事務室		乳児保育リーダー研修	保育協議会	恵泉女学園	6月21日	関わり・指導計画～評価	○		○

正職員										
NO.	役職・クラス		研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
38	責任者・そら		幼児教育リーダー研修	保育協議会	大妻女子大	6月25日	意義・関わり・保育内容	○		○
39	責任者・うみ		幼児教育リーダー研修	保育協議会	大妻女子大	6月25日	意義・関わり・保育内容	○		○
40	責任者・そら		幼児教育リーダー研修	保育協議会	大妻女子大	6月26日	指導計画～評価・接続	○		○
41	責任者・うみ		幼児教育リーダー研修	保育協議会	大妻女子大	6月26日	指導計画～評価・接続	○		○
42	主任・保健		保健部会	保育協議会	多摩市役所	7月3日				○
43	責任者・かぜ		幼児保育研究会	東京経営懇	保育プラザ	7月16日	発達に応じた保育内容	○		○
44	やま		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	7月16日	食べる機能について2			○
45	かぜ		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	7月16日	食べる機能について2			○
46	主任・うみ		乳児保育研究会	東京経営懇	保育プラザ	7月17日	発達に応じた保育内容	○		○
47	事務長		公定価格の基本分単価と無償化に関する研修	東京都民間保育園協会	なかのゼロ	7月25日				○
48	事務長		同一労働同一賃金学習会	法人本部	本部	7月25日				○
49	かぜ		保幼小合同研修	保育協議会	総合福祉センター	7月30日				○
50	主任・事務室		保幼小合同研修	保育協議会	総合福祉センター	7月30日				○
51	主任・保健		保健部会		ペルブホール	8月7日	食物アレルギーの知識と対応			○
52	事務長		マネジメント	保育プラザ	保育プラザ	8月26日	意義・組織目標の設定・環境	○		○
53	事務長		マネジメント	保育プラザ	保育プラザ	8月27日	環境・人材育成・リーダーシップ	○		○
54	責任者・もり		しょうがい児保育	保育協議会	島田療育センター	8月29日	講義・指導計画、記録・評価	○		○
55	責任者・にじ		しょうがい児保育	保育協議会	島田療育センター	8月29日	講義・指導計画、記録・評価	○		○
56	責任者・もり		しょうがい児保育	保育協議会	島田療育センター	8月30日	講義・環境・OT・連携	○		○
57	責任者・にじ		しょうがい児保育	保育協議会	島田療育センター	8月30日	講義・環境・OT・連携	○		○
58	園長		夏季セミナー	東京経営懇		9/1.2	格差のない保育を			○
59	主任・保健		保健部会	保育協議会	多摩市役所	9月4日				○
60	主任・保健		保健衛生・安全対策	保育プラザ	保育プラザ	9月6日	事故防止・健康管理	○		○
61	主任・保健		保健衛生・安全対策	保育プラザ	保育プラザ	9月7日	保健計画・感染症ガイドライ	○		○
62	主任・保健		保健衛生・安全対策	保育プラザ	保育プラザ	9月8日	保健計画の作成と活用	○		○
63	責任者・給食		食育アレルギー	保育協議会	島田療育センター	9月8日	アレルギー対応	○		○
64	責任者・かぜ		幼児教育研究会	東京経営懇	保育プラザ	9月11日		○		○
65	主任・うみ		乳児保育研究会	東京経営懇	戒城つくしんぼ保育園	9月12日	見学	○		○
66	責任者・給食		食育アレルギー	保育協議会	島田療育センター	9月12日	栄養・食事提供	○		○
67	責任者・給食		食育アレルギー	保育協議会	島田療育センター	9月19日	食育計画作成・活用	○		○
68	やま		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	9月24日	つまづきある子の見立て			○
69	かぜ		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	9月24日	つまづきある子の見立て			○
70	責任者・もり		しょうがい児保育	保育協議会	島田療育センター	9月27日	指導計画～評価・接続	○		○
71	責任者・にじ		しょうがい児保育	保育協議会	島田療育センター	9月27日	指導計画～評価・接続	○		○
72	主任・保健		保健部会	保育協議会	多摩市役所	10月2日				○
73	やま		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	10月15日	感じてなんだろう			○
74	かぜ		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	10月15日	感じてなんだろう			○
75	主任・にじ		乳児保育研究会	東京経営懇	保育プラザ	10月16日	乳児への適切なかわり	○		○

正職員										
NO.	役職・クラス		研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
76	そら		中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	10月23日				○
77	責任者・やま		中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	10月23日				○
78	責任者・うみ		中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	10月23日				○
79	責任者・かぜ		中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	10月23日				○
80	責任者・もり		中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	10月23日				○
81	責任者・給食		中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	10月23日				○
82	副園長		中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	10月23日				○
83	主任・もり		マネジメント	保育協議会	恵泉女学園	10月25日		○		○
84	主任・保健		保健部会	保育協議会	多摩市役所	11月3日				○
85	やま		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	11月12日	つまづきある子の見立て			○
86	かぜ		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	11月12日	つまづきある子の見立て			○
87	責任者・かぜ		幼児教育研究会	東京経営塾	こぐま保育園	11月12日	見学	○		
88	主任・にじ		乳児保育研究会	東京経営塾	保育プラザ	11月13日		○		○
	責任者・そら		園長会主催研修	園長会	稲城プラザ	11月13日	保育環境評価スケール			○
	そら		園長会主催研修	園長会	稲城プラザ	11月13日	保育環境評価スケール			○
91	そら		園長会主催研修	園長会	稲城プラザ	11月13日	保育環境評価スケール			○
92	もり		園長会主催研修	園長会	稲城プラザ	11月13日	保育環境評価スケール			○
93	主任・もり		マネジメント	保育協議会	恵泉女学園	11月15日		○		○
94	責任者・そら		中堅層研修	多摩福祉会	上くま	11月16日				○
95	うみ		中堅層研修	多摩福祉会	上くま	11月16日				○
96	主任・もり		中堅層研修	多摩福祉会	上くま	11月16日				○
97	副園長		中堅層研修	多摩福祉会	上くま	11月16日				○
98	給食		中堅層研修	多摩福祉会	上くま	11月16日				○
99	そら		見学交流会	保育協議会	みどりの保育園	11月8日	3.4歳児			○
100	かぜ		見学交流会	保育協議会	桜ヶ丘第一	11月14日	2歳児			○
101	ちいくま		見学交流会	保育協議会	あすのき保育園	10月30日	一時保育			○
102	主任		見学交流会	保育協議会	みどりの保育園	11月8日	一時保育			○
103	もり		見学交流会	保育協議会	ゆりのき保育園	10月23日	2歳児			○
104	うみ		見学交流会	保育協議会	かしのき保育園	10月30日	3.4.5歳児			○
	主任・保健		保健部会	保育協議会	多摩市役所	4月3日				○
106	主任		マネジメント	保育協議会	恵泉女学園	12月6日		○		○
107	主任・そら		中堅層研修	法人本部	こぐま保育園	12月11日				○
108	にじ		中堅層研修	法人本部	こぐま保育園	12月11日				○
109	主任・にじ		中堅層研修	法人本部	こぐま保育園	12月11日				○
110	責任者・もり		中堅層研修	法人本部	こぐま保育園	12月11日				○
111	責任者・やま		中堅層研修	法人本部	こぐま保育園	12月11日				○
	責任者・うみ		中堅層研修	法人本部	こぐま保育園	12月11日				○
	責任者・給食		中堅層研修	法人本部	こぐま保育園	12月11日				○

正職員										
NO.	役職・クラス		研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
	副園長		中堅層研修	法人本部	こぐま保育園	12月11日				○
115	主任・かぜ		幼児教育研究会	東京経営懇	保育プラザ	12月11日	小学校までの接続	○		○
116	主任・にじ		乳児保育研究会	東京経営懇	保育プラザ	12月18日	指導計画・記録・評価	○		○
117	主任・保健		保健部会	保育協議会	多摩市役所	12月4日				○
118	やま		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	1月14日	感覚運動発達～不器用さ			○
119	かぜ		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	1月14日	感覚運動発達～不器用さ			○
120	事務室		栄養士会研修	多摩市栄養士会	ベルブホール	1月20日	子どもの咀嚼と嚥下			○
121	給食		栄養士会研修	多摩市栄養士会	ベルブホール	1月20日	子どもの咀嚼と嚥下			○
122	給食		栄養士会研修	多摩市栄養士会	ベルブホール	1月20日	子どもの咀嚼と嚥下			○
123	責任者・給食		栄養士会研修	多摩市栄養士会	ベルブホール	1月20日	子どもの咀嚼と嚥下			○
124	にじ		栄養士会研修	多摩市栄養士会	ベルブホール	1月20日	子どもの咀嚼と嚥下			○
125	主任・保健		保健部会	保育協議会	多摩市役所	2月5日				○
126	やま		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	2月18日	つまづきある子の見立て			○
127	かぜ		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	2月18日	つまづきある子の見立て			○
128	やま		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	3月10日	感覚運動発達～姿勢・運動			中止
129	かぜ		ハンディキャップ研修	保育協議会	島田療育センター	3月10日	感覚運動発達～姿勢・運動			中止
130										
131										
132										
集計					#REF!					

2019年度 自主研修

NO		氏名	研修名	研修日時	
1	事務室		全国保育団体合同研究集会	8/3 (4) .5	
2					
3			社会福祉会計簿記	9/4.5	
4					
5	にじ		全幼教	7/27	
6			子どもの文化	8/25	
7			全国保育団体合同研究集会	8/3 (4) .5	
8			全国保育団体合同研究集会	8/3 (4)	
9			全幼教	7/27.28	
			田中研究所	8/21	
10			新乳幼児教育セミナー	7/26	
11			全幼教	7/27	
12					
13	やま		田中研究所	7/24	
14			田中研究所	8/21	
15			笹田哲先生講演会	8/24	
16			笹田哲先生講演会	8/24	
17			全国保育団体合同研究集会	8/3 (4) .5	
18	そら		田中研究所	7/26	
19			全国保育団体合同研究集会	8/3 (4) .5	
20			発達協会	8/7.8	
21			田中研究所	8/20	
22			笹田哲先生講演会	8/24	
23	うみ		全国保育団体合同研究集会	8/3 (4) .5	
24			保育プラザ研修	11/10	
25			田中研究所	8/18	
26			田中研究所	8/24	
			田中研究所	9/7	
27			全国保育団体合同研究集会	8/3 (4) .5	
28		田中研究所	8/7		
29	かぜ		全国保育団体合同研究集会	8/3 (4) .5	
30			田中研究所	7/25	
			田中研究所	8/19	
31			夏の芸術教育学校	7/26	
32			田中研究所	8/20	
33			笹田哲先生講演会	8/24	
34	もり		全幼教	7/27.28	
			子どもの文化学校	8/30.11/8.12/6.12/20	
			全幼教	1/19	
		35		夏の芸術教育学校	8/8
				さとやま農学校	10/10~3/12
		36		全幼教	1/19
		37		田中研究所	8/21
		38		田中研究所	8/20
39		全国保育団体合同研究集会	8/3 (4) .5		
40	給食		食べもの文化 (東京)	7/13.14	
41			全国保育所 (三重)	11/16.17	
42			臨床栄養学Ⅰ (横浜)	7/6	
43			全国保育団体合同研究集会	8/3.(4).5	
44			食べもの文化 (東京)	7/13.14	
45	保健				
46	○早		全国保育団体合同研究集会	8/3(4).5	
47	ちいくま		子どもの文化	8/24	

2019年度 向山保育園事業報告

2020年6月6日

1. 児童状況

(1) 認可定員：120名 運用定員：124名

(2) 保育年齢：8か月～就学前

(3) 保育時間：7時00分～20時30分

(4) 年齢定員・在籍状況（2019年4月1日現在）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
運用定員	9	19	22	24	25	25	124
在籍数	9	19	22	24	25	25	124

(5) 児童状況の特徴

- ①退園児：2名
- ②中途入園児：2名
- ③障がい児の状況：3名
- ④アレルギー配慮児の状況

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
4月	0	3	1	1	1	1	7
3月	1	3	1	0	1	1	7

⑤延長保育（継続利用児童数）

	朝延長 (7:00～7:30)	夕①延長 (18:30～19:30)	夕②延長 (18:30～20:30)
4月	10	6	2
3月	10	12	3

*他にスポット利用があり、年間利用人数は延べ1,397名、継続利用を含めると延べ4,901名の利用があった。

⑥休日保育（登録児童数）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
定員	0	4	4	定め無し			30
4月	0	4	4	10	4	7	29
3月	0	4	4	10	4	7	29

- ※対象：①同居している保護者全てが就労している家庭の児童
 ②練馬区内に在住し、認可保育園に在園している児童、または練馬区外に在住し、練馬区内の認可保育園に在園している児童
 ③休日保育の利用月の初日に1歳の誕生日を迎えている児童

2. 職員状況

(1) 正職員

	園長	副園長	主任	看護師	保育士	栄養士	調理師	環境衛生	事務	合計
4月	1	1	1※ <small>(職域3名)</small>	1	22	3	2	1 ※※	1	33
3月	1	1	1※ <small>(職域3名)</small>	1	20	3	2	1	1	31

※記入は保育主任、括弧内は栄養士、環境衛生、看護師(重複の為括弧付け)

※※…早番専任兼務

- ①育児休業職員：3名
- ②病休職員
 保育士 1か月
 保育士 2か月
 看護師 1か月
- ③新規採用職員：保育士4名 栄養士1名
- ④異動職員：3名
- ⑤退職職員：保育士1名

(2) 有期契約職員

- ①保育補助 23名

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	給食	環境衛生	土曜専任	嘱託	合計
前期	2	4	2	3	1	2	3	1	1	4	23
後期	2	4	2	3	2	2	2	1	1	4	23
退職	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	3

- ②調理補助 3名
- ③環境衛生補助 1名

(3) 嘱託医 3名

- 園医 戸田喜文 (戸田クリニック)
- 歯科医 安藤浩徳 (安藤歯科医院)
- 産業医 田中美緒 (田中医院)

(4) 講師 4名

樋渡美和子 衛生管理者業務に従事

北相模美恵子 巡回相談(明星大学准教授)

ねりじょはうす LUNA 性教育(年長児・全保護者・職員対象)

鈴木典子 課業(わらべうた)職員指導(コダーイ芸術研究所)

(5) 練馬区巡回指導

障がい児 岡田 瞳 (公社)発達協会

湯汲 英史(公社)発達協会

熊丸 高雄 NPO 法人発達支援研究所 スプラウト

個別配慮児 都立特別支援学校 年1回

3. 保護者状況

(1) 機関との連携家庭

①子ども家庭支援センター：5家庭

(2) 保護者との関係

①保護者会(年行事：夏祭り、総会)

②運営委員会(練馬区保育計画調整課・保護者・保育園)：年1回(11/29)

③意見交換会(父母の役員等・保育園)：年1回(9/27)

④懇談会 クラス懇談会…乳児：年2回、幼児：年2回

その他懇談会…お泊まり保育(年長)

⑤個人面談 全家庭対象、年1回以上実施

⑥保育参加、プール参観

⑥保護者参加行事：入園式、4,5歳見てねの日、運動会、卒園式、幼児誕生会(毎月・希望者)

4. 施設面(練馬区修繕)

①空調交換工事(リース契約)

②正面玄関柵交換工事(鉄製からアルミ製に交換)

③園庭外階段手すり補修

④各クラスのサムターン不具合調整、戸車調整

5. 地域交流

月	事業名	事業内容	参加者数
4月	お休み		
5月	おひさま広場	23日「わらべうた遊び」 30日「身体計測」	0名 5名
6月	おひさま広場 保育園見学	28日「七夕飾りを作ろう」	1名 6名
7月	おひさま広場 保育園見学	9日「笹焼き」18日「栄養相談・離乳食講座」	2名 5名
8月	お休み		
9月	おひさま広場 保育園見学	18日「お庭で遊ぼう」25日「身体計測・健康相談」	16名（10名近隣保育園） 14名
10月	おひさま広場 保育園見学	5日「運動会」17日「栄養相談・離乳食交流会」 24日「お庭で遊ぼう・ふれあい給食」	25名（11名近隣保育園） 13名
11月	おひさま広場 保育園見学	14日「焼き芋」21日「栄養相談・離乳食交流会」	12名 15名
12月	おひさま広場 保育園見学	13日「身体計測・健康相談」19日「栄養相談・離乳食交流会」24日「おもちつき」	1名 1名 4名
1月	おひさま広場	9日「お囃子」22日「栄養相談・離乳食交流会」	2名
2月	おひさま広場	3日「豆まき」	3名
3月	お休み		

- ① おひさま広場（園開放・交流）：67件
- ② 施設見学（入園希望）：62件
- ③ 認証保育所の運営委員会参加：年2回
- ④ 行事等（太鼓・お泊まり保育・餅つき）の挨拶文配付
- ⑤ 苦情対応 地域からの苦情はなかった。

6. 委託園長会主催行事等への参加

：プークの観劇（年長）、学習会、副園長主任会への参加

委託園長会主催の学習会…9月17日「一人ひとりに向き合う保育」夜の研修だが園からも9名の参加があった。

ブーク観劇…午前午後とで10園毎に観劇する。団員に感謝の作品（花束）を送り子どもたちも満足していた。

副園長主任会…副園長が保育に入ることも多く参加することが難しかった。

7. 運営の重点課題

① すべての職員がいきいきと働き、経験を積んでいくための取り組みを進めていきます。

・職員体制

常勤35名定数で確認した2019年度運営体制だったが、職員が充足できず33名でスタートする。加えて、0歳児クラスには短時間正職員、2歳児クラスに7月からの産休予定者、3歳児クラスには障がい児2名と配慮児が多いクラス、4歳児に障がい児1名に妊婦1名、5歳児は担任2名(確認時は3名)とどのクラスも例年の体制より配慮が必要な体制だった。

職員が充足できない中、環境衛生主任が2歳児クラスに遊具・環境設定、クラス運営のアドバイスで関わりを増やして安定できるように配慮した。幼児クラスは副園長が年長の勤務補充に入り、病休者が出た時はクラス間連携を密にとり、各クラスクラス運営を安定させていくことができた。不安定要素もあるが、それぞれが力を発揮しながらしっかり運営することができ、退職職員も少なく、いい形で次年度を迎えられると感じる。

一方で、当初確認した職員定数を下回る運営であったが、基本的に国や区の基準を大きく上回る人員配置をしており、そこに有期契約職員も多く在籍している。加えて、休暇時の職員補充をすべて行うが故、正職員、有期契約職員共に時間外労働が多くなり、人件費が膨らんだこともあった。長年そのような体制補充を行ってきたが、今後は国や都の基準に合わせた職員配置で保育を運営していくことを職員の中で考えていく課題がある。

・保育内容と総括

保育主任、副園長で乳・幼児の会議に必要な応じて参加していき、クラスの保育内容充実にあたってきた。保育内容充実をするにあたり、保育主任と環境衛生主任が保育に積極的に関わり、クラスと相談しながら、保育環境充実に努め、より保育が充実することができたことはよかった。しかし、主任に頼りすぎるところもあったので、自分たちでクラスの事を、子どもたちの事をどのように考え、見通しを持った主体的なクラス運営をしていくかが次年度の課題である。

総括内容は保育内容会議の中で各クラスのリーダーの意見を反映し、1期受け入れ期、

2期水遊び・プールといった夏の保育、3期戸外遊びと運動発達、4期室内遊びと環境設定という内容で行ってきた。これまでは、総括でおさえたことが年度内に反映されても、次年度以降の保育内容に位置付けられず、保育内容の積み重ねとしては希薄であった。2019年度はその反省に立ち、各期総括で到達と課題を整理して表や書面にまとめ、年度末に次年度の各期の保育方針を確認して、2020年度の保育ができるようスタートができるように進めてきた。2020年度は前年度の各期総括で確認したことを土台にして保育実践していき、総括で到達と課題を職員みんなで確認し合いながら、保育実践を積み重ねることを大切にしていこう。

・運営機構

運営機構を運営会議とし、園長、副園長、保育主任、保健主任、給食主任、環境衛生主任が参加しての会議を行ってきた。多角の視点からの話と、報告ができる良さがあった。しかし、会議を運営する、園長、副園長の打ち合わせが足りなかった中で、会議がうまく進まないこともあった。また、職員会議の内容を運営会議案とするだけでは、視点や意見が足りないこともあり、議題によっては保育リーダーの力を頼る必要があった。ここ2年は現場から出た、「先輩の背中を見て学びたい」という意見の中から、なるべく保育リーダーを現場から抜かないようにしていたが、運営面により力を借りていく必要もある。次年度は会議構成、運営は見直していく。

② 異年齢保育の準備を進めていきます。

- ・幼児クラスでの異年齢を、今年の積み上げに立って積極的に行ってきた。5月以降月に3、4回異年齢保育の日を作り実践を行った。異年齢クラスの会議を適宜行う中で、子どもの姿の共有と、どのような保育がしたいかがより話すことができ、実践と結びつくことが出来ている。まだ、“異年齢保育が特別な日”となっていることがあるので、どのようにしたら日常となっていくかが課題である。

また、2歳を中心に、乳児クラスと幼児クラスの日常での交流も積極的に行っている。朝の受け入れをきょうだい児と一緒にする中で安心して登園できたり、夕方異年齢で過ごす中で、様々な姿が見られた。幼児クラスの異年齢の関わりと朝夕の1、2歳を含めた異年齢の関わりを土台にした生活づくりを意識的に進めていく。

- ・練馬区との懇談は民間委託の意向を積極的に伝えていった。しかし区として民営化の方向がある事は示唆しながら、具体的なテンポは提示しないまままだ。園として見通しのない中で自分たちの保育実践をどうしていくか、運営面の課題をどのように乗り越えていくか、そしてそのことを区にどのように発信していくかを検討していく。

③ 地域支援

- ・おひさま広場では、仲良しグループで児童館感覚で遊びに来る保護者達もいれば、身体計測に参加した保護者から育児の悩みを聞く事もあった。「誰かと話がしたい。」というワンオペ育児の実態もあり、子育ての話をしながら保護者の気持ちに寄り添い心が少しでも気持ちが軽くなるように対応していった。離乳職交流会に参加したある保護者は「食べないから食べさせていません。」という意見があり、離乳食の進め方を伝える大事な場になっていることを改めて感じた。育児書やインターネットで何でも検索出来る世の中ではあるが、相談できる場所が少ない実態もあるので、おひさま広場が保育園とつながり、保護者同士がつながりあえるようなコミュニティの場となるようにしていきたい。内容面でも来年度は離乳食交流会を保護者参加型にしていく等、実態に合った形にしていく。
- ・見学者は入園の要綱が出る10月前から需要が高まる。9月から見学回数を増やして対応していったが、予約が始まる日にあつという間に見学予定者が埋まる実態がある。加えて、保護者の予定が合わなかったり、お子さんの具合が悪くなったりしてキャンセルせざるを得ないことも多々あった。見学日と人数に限りがあり、対応策としておひさま広場に誘って園内の見学はできないが、その中で必要な質問には答えていった。来年度は今年度の実績をもとにおひさま広場の中でも希望者は園見学ができるようにして保護者の需要に応えるようにしてく。

④ 職員研修計画

- ・園内研修：わらべうた(クラスわらべうた、職員指導)、北相模さんの巡回(クラスの気になる子を見てもらい、アドバイスをもらう)、救命講習、ドル平、ドル平に関して外部講師を頼むか検討。

園内研修は次年度に向けてどのような人を呼んで、どのような研修が必要となるかを検討していく。

・園外研修

練馬区：乳児研修、障がい児研修、実践交流会

経営懇：乳児、障がい児、延長保育、幼児

法人内：法人合研、中堅研修、新人研修 各種部会

キャリアパス研修受講に向けて…対象となる人と研修内容は課題

現状は区立のため直接関係ないが、法人内異動、民営化に向けて検討

・個人研修・自主研修

個別の研修計画がまだできていないので次年度は行っていく。個人の計画と園全

体で年間通しての学び(研修)のテーマが連なっていくようにしていく。研修受講後の園全体への還元への仕方を検討していく。

2019年度 向山 保育園

参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
1	2歳	2019年度本気で学びたい方の特別支援講座	こどもの心を育むネットワーク練馬	東京	4月19日～10月18日	①特別支援の基本、支援の現状 ②子どもの発達、診断と発達評価など		○	計6回
2	3歳	2019年度本気で学びたい方の特別支援講座	こどもの心を育むネットワーク練馬	東京	4月19日～10月18日	①特別支援の基本、支援の現状 ②子どもの発達、診断と発達評価など		○	計6回
3	4歳	2019年度本気で学びたい方の特別支援講座	こどもの心を育むネットワーク練馬	東京	4月19日～10月18日	①特別支援の基本、支援の現状 ②子どもの発達、診断と発達評価など		○	計6回
4	4歳クラスリーダー	2019年度本気で学びたい方の特別支援講座	こどもの心を育むネットワーク練馬	東京	4月19日～10月18日	①特別支援の基本、支援の現状 ②子どもの発達、診断と発達評価など		○	計6回
5	4歳	障がい児保育研究会	東京民間保育園経営懇話会	東京	5月28日～2月4日		○		計4回
6	1歳	乳児研究会	東京民間保育園経営懇話会	東京	6月12日～12月18日		○		計6回
7	1歳	気になるこの理解と保護者支援	練馬区	東京	7月2日			○	
8	2歳	気になるこの理解と保護者支援	練馬区	東京	7月2日			○	
9	4歳	気になるこの理解と保護者支援	練馬区	東京	7月2日			○	
10	5歳	気になるこの理解と保護者支援	練馬区	東京	7月2日			○	
11	5歳クラスリーダー	気になるこの理解と保護者支援	練馬区	東京	7月2日			○	
12	3歳	実践交流会	練馬区	東京	7月10～11日	発達評価			計2回
13	0歳	全国幼年教育研究協議会第57回全国研究集会	第57回全国研究集会実行委員会	埼玉	7月27日～28日	子どもの健康と身体発達		○	
14	4歳	就学相談講習会	東京都	東京	7月31日	支援をつなぐ就学相談の在り方			
15	0歳クラスリーダー	第51回全国保育園団体合同研究集会in愛知	第51回全国保育園団体合同研究集会実行委員会	愛知	8月3日～4日	おいしく楽しく食べることはなぜ大切か		○	
16	0歳	第51回全国保育園団体合同研究集会in愛知	第51回全国保育園団体合同研究集会実行委員会	愛知	8月3日～5日	子どもの発達と給食A		○	
17	1歳	第51回全国保育園団体合同研究集会in愛知	第51回全国保育園団体合同研究集会実行委員会	愛知	8月3日～5日	0・1・2才児のあそびと生活		○	
18	3歳	第51回全国保育園団体合同研究集会in愛知	第51回全国保育園団体合同研究集会実行委員会	愛知	8月4日	3歳児保育A		○	
19	5歳	第51回全国保育園団体合同研究集会in愛知	第51回全国保育園団体合同研究集会実行委員会	愛知	8月3日～4日	遊びたがる子どもは遊びたがる大人から		○	
20	5歳クラスリーダー	第51回全国保育園団体合同研究集会in愛知	第51回全国保育園団体合同研究集会実行委員会	愛知	8月3日～4日	子育ての大変さ大切にしたい子どもの育ち		○	
21	園長	第51回全国保育園団体合同研究集会in愛知	第51回全国保育園団体合同研究集会実行委員会	愛知	8月3日～5日	より良い保育と園長の役割		○	
22	副園長	第51回全国保育園団体合同研究集会in愛知	第51回全国保育園団体合同研究集会実行委員会	愛知	8月3日～4日			○	
23	事務	第51回全国保育園団体合同研究集会in愛知	第51回全国保育園団体合同研究集会実行委員会	愛知	8月3日～4日	あたたかな保育はあたたかな大人同士の関係から		○	
24	事務	保育所会計研修	東京都社会福祉協議会	東京	8月6～7日	会計基礎研修B			
25	1歳クラスリーダー	田研セミナー	幼児期の遊びと学び	東京	8月21日	保育の質をあげるとは どういうことか		○	
26	保育主任	中堅職員研修	保育プラザ職員研修	東京	9月9日～1月20日	乳幼児期の子どもの権利とは	○		計3回

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
27	事務	労働保険講習会	東京社会保険協会	東京	9月10日	労働保険・雇用保険の基礎知識事務			
28	園長	一人ひとりに向き合う保育	練馬区委託園長会	東京	9月17日	ハンガリーのたっぷり遊び 就学を見通した保育から学ぶ		○	
29	0歳クラスリーダー	一人ひとりに向き合う保育	練馬区委託園長会	東京	9月17日	ハンガリーのたっぷり遊び 就学を見通した保育から学ぶ		○	
30	1歳	一人ひとりに向き合う保育	練馬区委託園長会	東京	9月17日	ハンガリーのたっぷり遊び 就学を見通した保育から学ぶ		○	
31	1歳	一人ひとりに向き合う保育	練馬区委託園長会	東京	9月17日	ハンガリーのたっぷり遊び 就学を見通した保育から学ぶ		○	
32	3歳	一人ひとりに向き合う保育	練馬区委託園長会	東京	9月17日	ハンガリーのたっぷり遊び 就学を見通した保育から学ぶ		○	
33	事務	一人ひとりに向き合う保育	練馬区委託園長会	東京	9月17日	ハンガリーのたっぷり遊び 就学を見通した保育から学ぶ		○	
34	5歳クラスリーダー	気になる子及び 保護者への具体的対応	練馬区	東京	10月9日			○	
35	事務	社会保険の基礎知識	東京社会保険協会	東京	10月16日	社会保険の基礎（全般/一般）			
36	事務	社会保険の基礎知識	東京社会保険協会	東京	10月18日	社会保険の基礎（詳説/中級）			
37	保育主任	第一回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	10月23日			○	
38	0歳クラスリーダー	第一回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	10月23日			○	
39	2歳クラスリーダー	第一回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	10月23日			○	
40	3歳クラスリーダー	第一回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	10月23日			○	
41	5歳クラスリーダー	第一回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	10月23日			○	
42	給食	第一回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	10月23日			○	
43	事務	出産・育児・介護休業制度	東京社会保険協会	東京	10月25日	出産・育児・介護休業制度 健康保険の給付			
44	2歳クラスリーダー	東京保育団体 合同研究集会	第31回東京合研 実行委員会	東京	11月10日	保育と憲法 いつまでも元気で働く為のからだ??		○	
45	1歳	東京保育団体 合同研究集会	第31回東京合研 実行委員会	東京	11月10日	保育と憲法 いつまでも元気で働く為のからだ??		○	
46	副園長	東京保育団体 合同研究集会	第31回東京合研 実行委員会	東京	11月10日	保育と憲法		○	
47	保育主任	東京保育団体 合同研究集会	第31回東京合研 実行委員会	東京	11月10日	保育と憲法		○	
48	給食	東京保育団体 合同研究集会	第31回東京合研 実行委員会	東京	11月10日	保育と憲法 生きる力を育む食育		○	
49	事務	東京保育団体 合同研究集会	第31回東京合研 実行委員会	東京	11月10日	保育と憲法 いつまでも元気で働く為のからだ??		○	
50	保健主任	保育園児の食べる力を育てるために	練馬区保健連絡会	東京	11月14日			○	
51	2歳	保育園児の食べる力を育てるために	練馬区保健連絡会	東京	11月14日			○	
52	5歳クラスリーダー	保育園児の食べる力を育てるために	練馬区保健連絡会	東京	11月14日			○	
53	給食主任	保育園児の食べる力を育てるために	練馬区保健連絡会	東京	11月14日			○	
54	給食	保育園児の食べる力を育てるために	練馬区保健連絡会	東京	11月14日			○	

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
55	事務	保育園児の食べる力を育てるために	練馬区保健連絡会	東京	11月14日			○	
56	0歳	保健衛生学習	練馬区	東京	11月15日			○	
57	保育主任	主任セミナー	全国民間保育園経営研究懇話会	滋賀	11月27日			○	
58	園長	第二回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	11月16日				
59	副園長	第二回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	11月16日				
60	保育主任	第二回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	11月16日				
61	1歳	第二回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	11月16日				
62	保育主任	第三回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	12月11日				
63	0歳クラス-	第三回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	12月11日				
64	1歳クラス-	第三回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	12月11日				
65	1歳	第三回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	12月11日				
66	2歳クラス-	第三回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	12月11日				
67	3歳クラス-	第三回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	12月11日				
68	5歳クラス-	第三回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	12月11日				
69	給食	第三回中堅層研修	多摩福祉会 法人研修委員会	東京	12月11日				
70	給食主任	自閉症・アスペルger症児の 感覚と運動の問題の理解	ジャパンライム株式会社	東京	12月22日			○	
71	2歳	多様な子どもたちの 発達支援を考える	練馬区	東京	1月7日			○	
72	2歳	多様な子どもたちの 発達支援を考える	練馬区	東京	1月7日			○	
73	園長	多様な子どもたちの 発達支援を考える	練馬区	東京	1月7日			○	
74	4歳	多様な子どもたちの 発達支援を考える	練馬区	東京	1月7日			○	
75	給食主任	発達が気になる子への 生活動作の考え方		東京	2月16日			○	
集計				75					

2019年度 向山保育園

参加研修一覧

有期職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	自主研修 対象	備考
1	3歳	発達支援ファシリテータ認証講座	一般社団法人 チャイルド・フットボール	東京	8月17～18日		○	
2	3歳	多様な子どもたちの 発達支援を考える	練馬区	東京	1月7日			
3	2歳	多様な子どもたちの 発達支援を考える	練馬区	東京	1月7日			
集計				3				

2019 年度 砧保育園事業報告

2020 年 6 月 6 日

1. 児童状況

- (1) 認可定員：76 名
- (2) 利用定員：85 名
- (3) 保育年齢：産休明け～就学前
- (4) 保育時間：7：15～22：15
- (5) 年齢別定員状況（4月1日現在）

年齢	0才	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	6	12	12	14	16	16	76
利用定員	6	13	15	17	18	17	86
新入児童	6	7	2	4	0	0	19

- (6) 新入園児状況 19名 17世帯 (2019年4月1日現在)

- ①認定 全員 標準時間認定
- ②入園経過育児休業 12名、認可保育所 2名、認証保育所 4名、
- ③きょうだい関係0歳児 1名、1歳児1名、
0歳児と3歳児のきょうだい2組
- ④延長対象児 1時間延長 1名 (月10回以上登録 0名)
2時間延長 2名 (月10回以下登録 1名)
- ⑤困難・配慮家庭 1家庭
- ⑥障がい児 0名
- ⑦アレルギー食対応児 2名 (3歳児)
- ⑧健康面配慮児 0名

- (7) 在園児状況

- ①世帯数 66世帯
- ②保育時間認定 全員 標準時間認定
- ③きょうだい関係 20組
- ④アレルギー配慮児 4名
- ⑤発達要観察配慮児 4名
- ⑥配慮家庭・関係機関対応 3家庭

- ⑦延長対象児 1時間延長 15人 (月10回以上登録 11名)
 2時間延長 5人 (月10回以上登録 2名)

(7) 休日保育状況

- ①登録人数 39人
 ②利用定員 1日10名程度
 ③利用時間 7:15~18:15
 ④保育体制 正職員3名(保育士2名、調理1名) 有期雇用職員2名

2. 職員状況

(1) 正職員

職種	園長	副園長	事務長	主任	保健師	保育士	栄養士 調理師	合計
人数	1	2	1	3	1	19	5	32

(2) 正職員状況

- ① 新規採用者：3名(保育士：2名、看護師：1名)
 ② 法人内異動者
 こぐま保育園より 保育士1名
 向山保育園より 保育士2名
 向山保育園へ 調理師1名
 法人本部より 事務職1名
 ③ 産休・育休者：3名
 ④ 育児のための時間短縮勤務者：1名
 ⑤ その他時間短縮勤務者：1名(4月のみ)
 ⑥ 退職者：5名(4月1名、8月1名、12月1名、3月31日2名)

(3) 有期契約職員

- ① 新規採用者：5名(うち土日専任2、夏季パート2名、平日1名。)
 ② 保育士：10名(不定期2名、週3日…2名。週4日…1名 週5日…1名、
 土日専任3名)
 ③ 保育補助：1名 週3回就労
 ④ 調理補助：2名(週3日1名、不定期1名)
 ⑤ 退職者：1名

(4) 嘱託医、講師

- ① 嘱託医：橋本 倫太郎小児科医、三上 直一郎歯科医
- ② 講師：ウラベイク（造形） 西山裕子（わらべうた）
pilchard astrid(異文化交流)

3. 2019 年度 重点課題に対する取り組み

(1) 職員一人ひとりが主体的に園運営にかかわることを目標としました。

《事業計画で目標として設定したこと》

- ① 砧保育園の歴史を引き継ぎ、運営が安定していくように職員が力を合わせていきました。そのために副園長・主任など運営委員がおうちの状況をつかみ運営に反映させることを目標としました。
- ② 保育園運営を推進する幹部の育成に長期的な視野で取り組むことを目標としました。
砧の職員層の現状から複数の幹部が交替しながら継承し、また、子育てと仕事を両立させながら幹部の任を皆で担っていく必要があるため、今年度も新たな主任を運営委員のメンバーに加え運営に取り組みました。
- ③ 2 名の新入職員、3 名の法人内異動者、1 名の育児休業復帰者を迎え、新入職員や異動職員から学び意識的、主体的に園運営や保育内容について参加できる運営をめざしてきました。
- ④ 子育てしながら働きつづけられる労働環境づくりを皆で検討し実践することを目標としました。

2019 年度は育児休職復帰者が 1 名加わり、子育て中の職員が 8 名となりました。

《とりくみのまとめ》

法人の人事計画でもある 2020 年度の園長の異動、長年勤務した副園長の定年延長の終了による交替など幹部体制の若い層へのバトンタッチに備え、砧保育園や法人の財産の継承に重点を置いた運営を心がけてきました。産休発生や予期せぬ退職などがあり、年度途中の現場人員の不足への補充の必要があり、幹部への引継ぎは充分とはいえませんが、ことあるごとに一人一人の幹部が大切にしている点を運営会議などで出しあい、2020 年度の幹部の役割分担を意識して検討し幹部の育ちあいが実践できたと思います。

職員については、昨年度に引き続き今まで経験していない年齢セクションの保育を順次経験することで、保育の視野を広げ、どの年齢セクションの事も頭に入れて園運営を考え

あえるよう目指してきました。各おうちの保育を深めあい、職員集団づくりに皆で1歩1歩取り組んできました。

≪労働環境の充実をめざしつつも雇用困難の状況のなかで≫

産休育休対応も含み全体で正職員1名増員、有期雇用職員5名（不定期就労、土日専任含む）の増員を行い、職員全体の労働環境の改善に取り組みました。それにより昨年度に引き続き職員全体の休日保育の出勤回数を軽減するとともに、子育て世代については時間短縮（2名）や希望者の休日祝日保育勤務の軽減を行うことを可能としました。

しかし、年度途中退職者が2名発生しました。健康状態が理由の1名については昨年度から管理職中心に相談を行い、業務軽減などに取り組んできましたが、残念な結果でした。補充についても採用の努力を行いましたが見事に実現に至らず職員給食休止という形で現場に大きな影響を与えました。自己都合の1名については年度途中ということで、8時間の補充職員の雇用は困難が予測され、乳児フリーの職員がグループ担当に移行し、マイナス部分については有期雇用職員や全体体制で補充を行うかたちをとり取りました。

給食現場の労働環境としては休日保育の実施などによる土日出勤シフトの多さが課題でしたが、正職員の年度途中退職でさらにシフトの荷重が増加しました。対策として保育士が休日の給食提供をできる工夫を行うとともに、土曜出勤可能な有期雇用職員を導入することができ改善に努力しました。

職員の減員が発生しても年度途中の雇用は短時間職員も正職員も大変困難です。その中でも力を貸してくれる有期雇用の職員を確保することに努力し、その職員からも「働きやすい」と評価を受け、力を発揮してもらえ関係性を築くことができました。危機的な状況が生まれても今まで培ってきた現場の一人一人の職員の力と職員集団の力で窮状をのりこえてきたことは評価されると思います。

（2）子どもの自発性、主体性が発揮される保育を目標としました。

① 個々の子どもの特性を理解し、子どもの気持ちに寄り添った保育を目標としました。

昨年度に引き続き、臨床心理士を交えたクラス単位のケース検討会議をおこない実践を深めてきました。困難なケースについて子どもを理解する視点の角度を変えたり、「イアーマフ」や「一人で入れるテント」など具体的な援助を新たに導入していただくことで、こどもが暮らしやすくなるケースが生まれました。「誰でも使ってもいいよ」という導入の仕方などで回りの子どもたちが普通のこととして受け止める姿が見られました。

言語聴覚士による個別練習はコミュニケーションの部分に困難を抱えるこどもについて行いました。こどもとともに保育士も日常の援助を検討する点で大いに助けら

れました。言語聴覚士による保護者面談も希望があれば行い、個別練習の様子を伝える子どもの特性が理解できるよう働きかけを行うことで、「子どもを理解して援助する」という点で園とともに考えあうことにつながりました。

② 異年齢保育を深め発展させることに取り組みました。

3～5 歳児の異年齢保育の蓄積を生かし、2016 年度から行っている異年齢クラスと 1. 2 歳児との交流はその後 2 年は、日常生活の中で個別の要求に基づいてたくさん触れ合う実践を積み重ねこどもの成長を保育総括会議などで確認してきました。2019 年度は砧保育園の施設条件の中で何ができるのかについて考えながら、異年齢保育の実践を積み重ねることを目標としました。法人内の他園の見学研修計画から主任の見学研修をへて実践検討に結びつき、食事場面の生活場面で子どもの主体性を引き出すという援助について検討できた点は財産となりました。

また、2 歳児と異年齢クラスの子どもたちの交流については、後半期、2 歳児クラスの子どもたちを 3 つの集団に分けて柔軟に対応しつつ主な交流クラスを設定していくことに取り組みました。こどもの気持ちや自己主張にこたえつつ、緩やかにおこないましたが、2020 年度には 2 歳児のグループ編成を 1 グループ 5 人ずつの 3 グループ編成にしていく選択へとつながりました。実践の中の子どもの姿から担当制や異年齢保育という点で検討し、「こどもにとって」という観点で選択できた点は大きかったと思います。

③ 延長保育、早朝保育の内容を充実させて子どもの主体性を引き出すことを目標としました。

延長保育においては昨年同様に専任職員を配置するとともに、有資格者有期雇用職員を 1 名増員し、体制と内容の継続性を図ってきました。昨年度後半に専任となった職員が引き続き専任を担当することで保育内容が充実しました。延長保育月案を立て、運営責任者会議で保育計画を共有することに取り組みました。変更の多い夕食児童の確認システムが確立したり、内容検討を行う中で初めての夕食クッキングの取り組みでは、夕食を必要とする児童の減少でちょっとさみしくなっていた夕食場面が 2 歳児を含めてうれしい体験につながりました。

早朝保育については今年度は専任者を置くことはできませんが、2018 年度の早朝合同保育内容の担当主任が継続して担当しました。週 3 日早番を担当する早番主担当保育士を立て、早朝合同保育月案を立案し、保育内容に一定責任を分担するなど具体化しました。

- ④ 幼児定員の弾力運用については 2019 年度から 3 年で解消し、本来の定員に戻すことを計画しました。

砧地域は幼児については待機児童がほぼいない状況が続いているために計画しましたが、区の認識としては「2021 年度以降については定員を 85 名より減少させることについては無償化の影響や地域状況を見て相談していく」という確認で進んでいます。

- ⑤ 新保育指針については、自分たちの保育実践と照らし合わせ、砧保育園の指針を持つことを目標とし、主任の外部研修に取り組みました。園独自の保育指針づくりが必要となっています。

- ⑥ 世田谷区休日祝日保育事業を充実させるよう努力してきました。

正職員の専任者は配置できていませんが、引き続き、有資格の有期雇用専任職員を 2 名配置し、利用児童が安心して生活できるように配慮しています。利用者はやや減少しています。

- ⑦ 1 月末から新型コロナウイルスの問題が発生し、病態が解明されていない状況の中で、保健を中心に感染症予防対策を強化し、父母にもたくさんの協力を求めました。密接にかかわることなしに保育はできないので、換気や消毒、手洗い、食事場面の環境の変更などできる対策をとりこどもとも考えあいました。普段できることがだんだんできなくなってくる中、やりたい、やってあげたいという気持ちだけでは解決できない思いを「大切なのは子どもの命」という点に立ち戻り、ひとつひとつ考えあって 3 月の締めくくりの保育をこどもたちが年齢なりの締めくくりができるよう考えあいます。

- ⑧ 台風災害への対応が新たな局面となりました。計画運休が実施される中で登園自粛や土曜の休園、休日保育の午前中止など、行政の判断を仰ぎつつ行いました。子どもの安全を中心としつつと職員の安全も判断し、前日には管理職が宿泊するなど対応が必要になりました。大震災などを想定し今後密集住宅地での対策が必須となっています。

(3) 地域に必要とされ、異年齢保育という特色ある保育園として地域に根付くよう努力しました。

担当してきた副園長の年度末退職に備え、地域支援活動担当チーム内の引き継ぎを

行い地域要求に応える活動が継続できるよう努力しました。0歳を中心にしたひろば、園庭遊びなどの子育て支援活動を実施しました。また、近隣の保育園とは年長の学校訪問で交流していましたが、獅子舞の日に招待し交流しました。

姉妹園の上北沢こぐま保育園とは餅つきやプーク人形劇場観劇で交流しました。昨年度は少なかった年長児が14人の集団になって公共交通機関を使って訪問してくる姿、もっと交流したかったという職員の感想に触れ、法人が世田谷区に根ざしてきた姿を感じました。今後いっそう互いに力を発揮しあえればと感じました。

お隣の高齢者ホームへの年長の訪問なども大変喜ばれています。この高齢者ホームでは車のブレーキの踏み違いによる施設への突っ込みがあり、子どもたちの安全が脅かされていること、地域の協力で子どもを守る力を高めていくことがますます求められていることを感じました。

今年度は行事や植木選定などの時に直接挨拶に出向くなどご近所との関係づくりも努力してきました。その中で普段思っていることなどが出され改善にもつながりました。災害の時など困ったときに力を貸していただけるよう日常のつながりを今後も作っていきたいと思います。

(4) 施設整備計画を立てることを目標としました。

1995年に新築された園舎ですが、老朽化が目立ち、壁面もクラックが見られ、3年点検で「要修繕」という結果になっています。躯体部分が区の管轄になっていますが、修繕要望を出しても雨漏り以外は「予算が取れない」という返答でずっと見送りになっています。屋根や外壁についても修繕計画がないと老朽化につながるため、区に問い合わせを行いました。しかし、「公立施設は順番に改修実施の状況なので砧保育園はまだです。」という返答でこの先この建物の安全性が守られない状況になることが危惧されます。(同じ委託園で築45年の園が来年度解体部分の予算が付いた状況)

今後区の方針を引き出すことと、修繕の長期計画を作るためにどう動くかを検討していく必要があります。空調の不調は給食室で激しく、室外機のベルト交換でのり切りでしたが、計画を詰めていく必要があります。

- ・区への要望箇所 中門付近排水の改善工事。鉄部塗装。
- ・今年度修繕実施箇所 給食空調室外機ファンベルト交換、

(5) 保護者と共に歩む努力を行ってきました。

- ① 各おうちの懇談会や保育参加については新型コロナウイルス感染防止のため2月に予定していた1歳児2歳児の懇談会は中止となりました。1月末から同対応で日常の送迎や登園自粛など父母にたくさんの協力やお願いをすることになりました。卒

園式については実施できるかどうかの瀬戸際でしたが、日々変わる状況のなか各家庭と個別に思いをやり取りを行いました。思いや対策を共有し、可能な対策を最大限とすることで縮小しながらも実施することができました。保育の場面では、年長の最後のまとめとして計画していたこともかなりあきらめることになりましたが、子どもたちが最大限達成感が持てるよう式場面だけでなく工夫し、小学校へ送り出すことができました。この経過の中では父母と保育園の信頼関係の大きさが感じられ、危機的状況で発揮した力は一人一人の職員、職員集団が作ってきた財産なのではと感じました。

- ② 父母会と園の協議会を継続し、保育内容や保育情勢について意見交換を行い、ともに育てあう関係を作ってきました。

父母協議会を年4回行いました。父母より出され質問に答えることを中心に、園側が考えていることや変えていきたいことについて相談し、参考意見をいただくことを努力しました。父母で大きなことあった場合や、年度途中で変更が生じた場合は父母会に先に連絡相談することで、園から保護者への一方的な関係にならないよう努力しました。

4. 職員研修計画

今年度は新入職員2名を迎えました。砧保育園の保育で大切にしていることを職員みんなでたしかめあいつつ研修し、専門家を入れてケース検討を行う、また法人内の施設に見学にでかけ砧保育園らしい異年齢保育をめざして深めあうことを目標としました。

(1) 園内研修実施状況

- ① 全員研修－応急救護、防災、水の事故発生時の訓練、保育総括、荒馬、ドル平
- ② 講師による研修－わらべうた、陶芸、歯科医の講座、ドル平、言語指導
- ③ 新人研修－申請事務、保健研修、乳児研修、離乳食、保育士になって感じていること
- ④ ケース検討－配慮児を含む保育についておうちを中心に専門家とともに検討する。
今年度は1.2歳児のクラスも行いました。

(2) 専門機関の巡回指導などの実施状況

総合福祉センターの巡回指導を受けました。世田谷区発達支援センター（げんき）の巡回指導は後期見合わせました。

(3) 出張研修実施状況

世田谷区、経営懇、東社協の研修に参加しました。キャリアアップ研修に対応する世田谷区の研修、保育団体連絡会の研修などに参加しました。

(4) 見学研修

こぐま保育園

(5) 法人研修

法人合研、新人研修、保健部会、給食部会、幹部部会など。

(6) 自主研修

実施状況別紙

2020年度 実習生 職場体験 ボランティア 受入れ状況

実習期間	オリエンテーション	日数・時間	学年	大学	配属クラス	備考
7/29~8/9	7/16	10日間・80h以上 8h/日	2年生	東京こども専門学校	月	休憩含む 土曜1日 8/3
1/31~2/14	1/14	12日間・7.75/日	2年生	白梅学園大学	りす	土曜日を含む12日間 土曜 2/1・2/8
2/10~2/25	2/3	12日間・90時間以上	1年生	帝京大学	ひよこ	土曜を含む12日間 土曜 2/15・2/22
2/17~3/3	1/15	12日間・7.75/日	2年生	東京未来大学	にじ	土曜1日 2/22

職場体験（中学生・高校生）

体験期間	オリエンテーション	日数・時間	人数	学校	配属クラス	備考
9/11~13	9/3	3日間 9:00~15:00	3	砧中学校	月・りす・にじ	
10/30~11/1	10/24	3日間 9:00~16:00	2	千歳中学校	太陽・星	

ボランティア

期間	日数・時間	学年	学校	配属クラス	備考
7/25・8/1・8/14	3日間	3年生	坂戸西高校	ひよこ 太陽	
8/20~8/22	3日間	3年生	杉並総合高校	りす	
8/28	1日間	3年生	八王子高校	星	

2019年度 砧保育園 参加研修一覧

正職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象
1	責任者・つき	体育講座	コ研	コ研	5月9,23,30日 6月20日			○
2	ほし	げんき巡回訪問説明会	北沢タウンホール	げんき	5月13日			
3	ほし	げんき研修	げんき	成城ホール	5月23日			
4	副園長・事務室	げんき巡回訪問説明会	げんき	世田谷産業プラザ	5月8日			
5	主任・事務室	キャリアアップ研修	保育プラザ	保育プラザ	6月1,2日	幼児教育	○	
6	主任・にじ	キャリアアップ研修	保育プラザ	保育プラザ	6月15,16日	乳児教育	○	
7	りす	食物アレルギー対応研修	世田谷区	国立成育医療 研究センター	6月19日			
8	給食	給食担当者講習会	社会福祉法人 東京都社会福祉協議会	あいおいニッセイ 同和損保ビル	6月26日			
9	給食	保育プラザ研修	保育プラザ	保育プラザ	7月1日			○
10	つき	児童虐待研修	世田谷区	北沢タウンホール	7月1日			
11	給食	食と健康を考えるシンポジウム	芽ばえ社	ヒューリックホーム ヒューリックカンファ レンス	7月13,14日	子どもの歯、口の発育と食べる発達		○
12	ひよこ	夏期保育セミナー	コ研	東京国際福祉専門学校	7月20,21日	わらべうた		○
13	りす	夏の芸術教育学校	芸術と遊びらぼ	中野サンプラザ	7月26日	子どもと一緒に自然遊び		○
14	給食	全国合同保育研究集会	全国保育団体連絡会	愛知	8月3～5日			○
15	責任者・りす	全国合同保育研究集会	全国保育団体連絡会	愛知	8月3～5日	子育て保育講座		○
16	事務長・事務室	全国合同保育研究集会	全国保育団体連絡会	愛知	8月3～5日			○
17	保健	全国合同保育研究集会	全国保育団体連絡会	愛知	8月3～5日			○
18	主任・にじ	子どもの文化夏季セミナー	子どもの文化研究所	東京教育専門学校	8月25日	希望の幼児教育論		○
19	つき	子どもの文化夏季セミナー	子どもの文化研究所	東京教育専門学校	8月25日	わらべうた		○
20	つき	げんき研修	げんき	三茶しゃれなあど ホール	9月19日			
21	責任者・ほし	衝動的な行動への対応	発達協会	有明TFTホール	10月27日			○
22	主任・にじ	中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	10月23日			
23	主任・給食	中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	10月23日			
24	たいよう	幼児保育	コ研	コ研	6月19,7月17日 ,10月16日			○
25	ひよこ	あすの保育に役立つ研修会	東京保育室センター	フォーラムミカサエ	11月9日	子どもの気になる行動の背景とその支援		

正職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象
26	主任・事務室	東京合研	東京保育団体	東京未来大学	11月10日	育ってほしい10の姿でよい子が育つ？		○
27	責任者・たいよう	東京合研	東京保育団体	東京未来大学	11月10日	生きる力を育む食育		○
28	給食	東京合研	東京保育団体	東京未来大学	11月10日	生きる力を育む食育		
29	主任・事務室	乳児保育	コ研	コ研	4月19日,5月17日,6月21日,9月20日,10月18日,11月15日			○
30	にじ	保育プラザ研修	保育プラザ	保育プラザ	11月16日			○
31	主任・給食	給食セミナー	全国保育団体連絡会	三重	11月16,17日	保護者との伝えあい		○
32	副園長・事務室	給食セミナー	全国保育団体連絡会	三重	11月16,17日	摂食機能の発達、食べさせ方		○
33	責任者・ひよこ	給食セミナー	全国保育団体連絡会	三重	11月16,17日	保育と食事 1・2歳児		○
34	副園長・事務室	中堅層研修	多摩福祉会	上北沢こぐま保育園	11月16日			
35	主任・事務室	中堅層研修	多摩福祉会	上北沢こぐま保育園	11月16日			
36	乳児フリー	コ研わらべうた	コ研	コ研	5月12日,6月2日,7月7日,9月8日,10月6日,11月17日			○
37	主任・にじ	主任セミナー	全国民間保育園経営研究懇話会	滋賀	11月29,30日			
38	主任・事務室	主任セミナー	全国民間保育園経営研究懇話会	滋賀	11月29,30日			
39	りす	船橋1日保育セミナー	コ研	船橋勤労市民センター	11月30日			○
40	主任・事務所	キャリアアップ研修	保育プラザ	保育プラザ	12月14,15日	マネジメント	○	
41	責任者・たいよう	日本民教交流研究集会	日本民教	和光小学校	12月8日			○
42	主任・事務室	中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	12月11日			
43	主任・事務室	中堅層研修	多摩福祉会	こぐま保育園	12月11日			
44	給食	給食担当者講習会	社会福祉法人 東京都社会福祉協議会	あいおいニッセイ 同和損保ビル	12月13日			
45	主任・事務室	東京経営懇話会研修	全国民間保育園経営研究懇話会	マホロバ・マインズ 三浦	12月8,9日			
46	ほし	コ研わらべうた	コ研	コ研	5月12日,6月2日,7月7日,9月8日,10月6日,11月17日			
47	遅専・にじ	長時間・延長保育研究会	全国民間保育園経営研究懇話会	保育プラザ	5月21日,7月30日,9月24日,11月5日,1月7日			
48	主任・事務室	世田谷区民間保育連盟研修会	世田谷区民間保育連盟	世田谷区民会館	1月8日			
49	主任・事務室	保育ネット砦学習会	世田谷区	希望ヶ丘保育園	1月28日			
50	主任・事務室	保育ネット砦学習会	世田谷区	希望ヶ丘保育園	1月28日			
51	ひよこ	子育て支援学科全体学習会	東京国際福祉専門学校	東京国際福祉専門学校	1月28日			
52	給食	給食担当者講習会	社会福祉法人 東京都社会福祉協議会	あいおいニッセイ 同和損保ビル	2月21日			

正職員

NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研修 対象
53	にじ	子どもの文化春のセミナー	子どもの文化研究所	東京教育専門学校	2月23日			○
集計				53				

2019年度 上北沢こぐま保育園事業報告

2020年6月6日

1. 児童状況

(1) 認可定員（4月1日現在）

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可	9	16	16	17	18	17	93
在籍	9	16	16	17	17	15	90

(2) 保育年齢 産休明け～就学前

(3) 保育時間 7時15分～20時15分（18時15分～ 延長保育）

(4) 児童状況（2019年4月1日）

① 要配慮児童：3名

② 支援家庭

4月～6月 : 2名

7月～8月 : 3名

9月～11月 : 4名

12月～3月 : 3名

③ アレルギー配慮児

4月 : 7名

5月～7月 : 8名

8月 : 6名

9月～10月 : 4名

11月～3月 : 3名

④ 外国人家庭

父（フランス）・母（フランス）・父、母（ベトナム）・父、母（スリランカ）

父、母（中国）

2. 職員状況

(1) 正職員

園長	副園長	事務長	保育士	看護師 (主任)	給食主任	栄養士 調理師	合計
1	3	1	16	1	1	4 (内1名 育休中)	27

* 新入職員：保育士 2名 (内新卒者1名)

* 育休者：栄養士 1名

* 異動職員：1名 (事務長 向山保育園より)

* 退職職員：1名 (保育士)

(2) 有期雇用職員

* 0歳：3名 異年齢：6名 ひろば：3名

(3) 嘱託医 (2名)

* 山角聡美 (小児科医) 三上祐一朗 (歯科医)

(4) 研修について・・・資料1

永田 T (講師) による言語指導

(5) 特別保育事業

① 一時預かり事業・・・資料2

② おでかけひろば事業・・・資料3

③ 定期利用保育

	1歳	2歳		1歳	2歳
4月		5	10月	1	5
5月		6	11月	1	5
6月		6	12月	2	5
7月		5	1月	2	4
8月		5	2月	1	4
9月	1	5	3月	1	4

* 外国人家庭 4家庭 (両親中国 3家庭・スリランカ 1家庭)

3. 重点課題について

(1) 園長交代に伴う事務等の引継ぎを円滑に行うことを目指します。

- * 2020年度の園長交代を見据えて、副園長を3名体制にし各自の役割分担を確認しながら園の運営を行う（例：・区の運営費は園長、都のサービス推進費は副園長。・各種会議のレジメや進め方の分担等）ことで次年度への見通しが持てた。また10月からは園長業務を残る側で分担し業務引き継ぎを行ってきた。
- * 事務長も委託とは異なる会計なので本人も苦労しながら本部の力も借り基本的な会計処理が徐々にできてきた。
- * 1月に入り園長が引継ぎのため向山保育園に行くことが多くなり、副園長、事務長、主任（2020年度より保育、給食主任を配置）が中心となり新年度等の準備等を進めてきた。
- * 新型コロナウイルス感染への対応は、誰もが経験したことの無い状況の中で感染防止を基本に様々な対応（園庭からの登・降園、卒園式などの行事等の見直し、職員の健康管理等）をしてきた。
- * 年間を通して計画的に運営を行うことができたのではないかと。法人全体でも連携をとり、職員や保護者の理解も得ながら運営をおこなってきた。そのように進めてこられたのはよかったのではないかと。

(2) 職員が違いを認め合いながら、他の職員と共に自分らしく働き続けられる職場を目指します。

- * 運営会議では運営のことが中心になり保育内容が深められないので2019年度は月案会議を月1回行い保育内容について月案会議を中心に論議を進めてきた。また、月案に職員の意見を反映できるように休憩室に月案用紙を張り出し職員が保育内容について自由に書き込みができるようにしてきた。
- * 3年目になり職員同士も仕事にも慣れてきて安定感がでてきたように思う。課業研修や自主研修等に対しても積極的に自身で選んでいたり、保育を自ら進めていく積極性も感じられるようになってきた。
- * 会議等は残業が発生しないように決められた時間に終了するよう努力した。また、月の変形労働制も導入して対応してきた。
- * 体制が悪いおうちが出た場合は、事務所も応援するがなるべくおうち同士で声を掛け合いながら助け合う関係ができた。

(3) 乳児から異年齢での生活を通して、子どもたち一人ひとりが生き生きと育ちあう保育を目指します。

- * 0歳児と1歳児のやり取りの中で、言葉にできない乳児の気持ちを5歳児が代弁してくれる姿を見て、3年目だが異年齢の積み重ねを感じるようになってきた。
- * 1階と2階というように保育がわかれないう、朝夕の合同保育だけでなく日常的に0

歳が異年齢のおうちに遊びに行くことで、子ども同士の繋がりを深めていった。そのことを通して2月以降の移行もスムーズに行えるようになってきた。

- * 年齢、おうちを超えて子ども同士が過ごす機会が多くあることで、園内だけでなくお休みの時など「大きい子に名前を呼んでもらえて一緒にあそびました。園での様子を垣間見て安心しました。」などの連絡帳の記載が多くなってきた。
- * 0歳は在園児だけでなく、ひろばにも職員といく機会を設けた。地域のお母さんも職員との会話や、子どもの姿を通して“このぐらいの時期になるとこういうことも出来るようになるんですね”など地域の保護者も直接、0歳児や保育士と話すことで安心感がもてるようになってきた。
- * 月齢やその子の発達段階に合わせてひろばや異年齢の子どもとのかかわりが多く持てるようになってきた。また、責任者会議等で計画的に論議しながら保育を積み重ねていけるようになってきた。
- * 職員の意欲と共に、5歳児活動の高まりが様々な場面で見られるようになってきた。そこから次年度に続く5歳児担当者会議へとつなげていくことが出来たと思う。卒園までの見通しが徐々に出来てきたので、これを積み重ね、子どもたちの中から主体的に生活を展開できるようになっていけたらと思う。
- * 保育園として言語聴覚士の先生と契約し、年長児を中心に発語に課題のある子、自分の思いが強く他児との関係性がなかなか共有できない子にたいして時間をとって指導してもらった。終了後には担当職員との話し合いの時間を設けることで子ども理解が深まっていった。また、希望する保護者には話し合いもおこなうことで客観的に子どもの状況をとらえることができるようになってきた。
- * 認定されている児童だけでなく、家庭的に配慮の必要な子どもは園内で共有するとともに、家庭支援センターとも常に連絡を取り合い、情報を共有しあいながら対応してきた。
- * 様々な研修は実施してきたが、学んだことを職員間で共有していくことは十分にはできなかった。今後の課題となる。
- * 年度内での園児の転出及び入園が多いことが特徴としてあげられる。その都度丁寧な対応と関わりを行ってきた。また、年度替わりの退園（転勤、引っ越し、幼稚園への入園等）も多く、異年齢集団としては集団関係が変わってしまう事態もあり個々の子どもだけでなく集団に対しても更に丁寧な関わりを意識することが多い。

（４） 保護者の状況や思いを職員間で共有し、保育者が主体的に保育園に関わる関係を目指します。

- * 園長が対外的な役割、法人内の役割が多く保護者からの意見等は主に副園長が話を聞くようにしてきた。個別の課題がある場合は事務所で共有し時間をおかずに保護者の話を聞くことで保護者の思いも理解することができてきた。
- * 常に保護者の状況や思いをくみ取り、そこを大事にしながら職員間で協力して保護者に

話をできて来たと思う。

- * 新型コロナウイルス感染防止対策はできるだけ早い段階で保育業務支援システムのコードモンを通じて各情報やお便り等を保護者に伝えてきたので多くの保護者が理解を示して協力してくれた。
- * 新型コロナウイルス感染対応で卒園式の保護者の出席をめぐり特に一人の保護者から様々な意見が出され、何度も話し合いを行ってきたが理解が得られず、保護者の思いを共有しながら子どもを育てていくことの難しさを感じた。
- * 育休中の保護者の方から、父母会立ち上げの声があり「はじめの会」を2月に行う。ここでは、父母会への思いや考えも賛成も反対も含めて様々な意見が出された。新型コロナウイルスの関係でその後の話し合いが行われず2020年度の課題とした。
- * 保護者も3年目になり保育園との関りも深くなってきた。新入園児の保護者も信頼を寄せてくれる方が多くなってきた。その分、率直な意見も多く出され、園側が後追いになることもあった。保護者や子どもの状況に合わせて、できるだけ事前にフォローをしていくことが必要だと思う。

(5) 様々な事業を通して、地域との関わり大にし、地域に必要とされる保育園を目指します。

- * ひろばや、一時保育、定期利用保育、体験保育等様々な事業をおこなってきた。今年度は初めて、在園児の行事(みんなで食べよう)に地域の方も体験保育として参加していただいた。また、獅子舞等の季節の行事も楽しみにして下さる姿もあり、少しずつ地域に根差した保育園になってきたと思う。
- * 障害者施設とはパンの販売に協力をしたり、食事の片付けの手伝いなどの業務を検討するなどしてきた。

一時預かり事業 びわの木のおうち

* 2019年度は、利用登録できるのが年2回は変わらず、その登録月を2月頃（前期・4月利用開始）と9月頃（後期・11月利用開始）に変更しました。その理由としては、2018年度までは、4月と10月に利用開始としていましたが、そうすると乳児医療証のコピーの提出が煩雑になるため変更しました。

* 2018年度利用していた人のうち、42人が継続で2019年度も利用し、前期26人、後期11人が新規で登録をしました。（年度途中で保育園に入れたり、引っ越しをしたりで抜けている人もいるため、下の登録状況の表と数字は合いません。）

* 利用する人は固定化していて、登録はしているが一度も使ったことのない人が13人いました。

* 今年度は、一時保育の利用者も夏季はプールに入ることができました。年度当初の説明会・面談の時にプールのための説明を行い、決められた期間内で園医にてプールのための健診を受けてもらい、健診結果と共に保護者記入のプールの同意書を提出してもらいました。毎日来る子どもたちではないので、安全面にはより一層気を付け、びわの担当職員が一緒に入ることができない日は、プールを中止にしました。

* 10月からの保育料無償化に伴う給食費実費徴収については、後期が始まる前に継続利用者には説明会を開き、新規登録者には面談の際に個別に説明をしました。無償化の対象者には、『領収書及び特定子ども・子育て支援提供証明書』を発行し、保護者がその証明書を区へ提出して、自身で施設等利用給付費を請求してもらいました。

* 10月からの無償化に伴い、給食費の実費徴収の対象者がいる月は、一時保育における事務も大変になりました。そのせいか、10月からの一時保育を中止にすることを9月末に決めた近隣の保育園があり、そこ利用していき場のなくなってしまった3歳児を緊急で10月1か月だけ預かりました。また、2月に烏山子ども家庭支援センターから連絡があり、通院のために利用したい家庭の1歳児を3月1か月、緊急で預かりました。このように今年度は、登録の時期以外でも、2件ではありましたが、緊急で保育を必要とする家庭に対応することができました。

* 登録状況（2019年度3月）

理由 年齢	就労 (就活含む)	資格取得	通学	通院	介護	その他	計
1歳児	6	2	1	0	1	2	12
2歳児	10	5	0	5	0	14	34
3歳児	2	1	1	0	0	0	4
4歳児	1	0	0	0	0	0	1
5歳児	2	0	0	0	0	0	2
計	21	8	2	5	1	16	53

*利用状況（2019年度）

		月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
開所日数（日）		19	19	20	22	17	19	21	20	20	19	18	21	235
預かった実人数（人）		31	25	27	31	20	24	23	29	29	23	24	23	
内 訳	1歳児（人）	8	7	8	7	5	7	6	11	7	7	8	6	
	2歳児（人）	21	18	19	9	10	16	16	17	19	14	16	14	
	3歳児（人）	1	0	0	3	3	0	1	1	1	1	0	1	
	4歳児（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5歳児（人）	1	0	0	2	2	1	0	0	2	1	0	2	
総利用人数（人）		108	102	110	118	94	97	110	111	110	107	91	74	1232
内 訳	4時間未満（人）	14	7	7	4	4	6	5	11	10	2	1	5	76
	8時間未満（人）	94	95	103	114	90	91	105	100	100	105	90	69	1156
延長（30分）（人）		0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	2	1	7

ぐみの木ひろば

*これまでずっと不安定だった職員配置については、2019年度は有期の職員を、1日の人2人、午前半日の人1人を4月1日から配置することができ、安定した体制でスタートを切りました。

*これまでに比べて、職員の人数も多くなったことから、ひろばのことだけでなく、保育の応援に入ってもらふことと、有期の職員にこれまで正職員が行っていた事務的な仕事をある程度任せていくということでスタートしました。これまで正職員がやっていたことで、お願いできることとしては、おたよりや予定表の作成、利用状況のまとめなどを想定していましたが、どのパソコンを使ってもらふのか、NASを使ってもらっていいのか、などの課題に直面しました。そのため、実際にお願ひできた事務としては、利用状況を日誌等から拾っておいてもらうことにとどまりました。

*ひろばの月ごとの打ち合わせに、2018年度までは田代が入っていました。ですが、2019年度、保育の責任者と副園長業務を兼ねて行うようになったことと、ひろばの有期の人たちにある程度任せるということで、月々の会議には正職員が出ませんでした。また、ひろばと保育が、ホールを共に使っていていき、ひろば利用者に保育園がやっていることが見えるようにして来ていましたが、その点も正職員が入らなくなったことで希薄になっていってしまいました。そういったことによって、『保育園の中にあるひろば』というぐみの木ひろばとしての特性が薄れていってしまったように感じました。この点は、2020年度以降の課題となりそうです。

*開所して3年目になり、職員がひろばのお母さんたちと接する中で、「外部の専門機関につなげた方がいいのでは…」と感じるケース（子どもの発達状況、母の精神状態など）も増えてきました。お母さんから話される内容からそう感じる時もあるれば、お母さんは何も思っていないさそうだが、職員が心配になるケースもありました。今年度は子育て支援コーディネーターさんにつなげるに留まりました。他機関とも連携を取りながら、取りこぼされていく子どもやお母さんを少しでも少なくしていく必要を感じました。

*昨年度までは毎月1回1時間行っていた健康相談と身体測定を、今年度途中から月2～3回の身体測定に増やし、時間も長くしました。健康相談は看護師が同席していましたが、1時間という時間の中では、ゆっくり話を聞くことも難しかったので、相談事がある場合は事前に伝えてもらい、改めてゆっくり時間を取ることにしました。実際に改まって時間を取っての相談はありませんでした。

*利用者の食に対する悩みはとて多く上がっていたので、給食の職員を交えたイベントを後半は積極的に取り入れました。

*昨年度行ったプールは、需要が低かったので今年度は行わず、水遊びを多めに取り入れました。

*昨年度整理した、父母以外との来所が増えたのも今年度の特徴でした。また、父の来所も多く、双子の赤ちゃん（1組の）両親が、そろって双子を連れてきていたことが影響してい

と思います。

*昨年度途中より世田谷区は、第一子妊娠中の妊婦さんを受け入れていくための工夫に力を入れていました。ひろばでの月次報告の様式にも、第一子妊娠中の妊婦さんの来所があったかどうかを記録していく欄ができましたが、ぐみの木ひろばには、第一子妊娠中の妊婦さんの来所はありませんでした。

* イベント実施状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
内容	12日コーディ	8日テラス	4日園庭	2.5日水あそび	2日コーディ	3.11.20.27日
	17日テラス	10日コーディ	12日テラス	3日七夕制作	20日絵本	身体測定
	19日身体測定	16日園庭	14日コーディ	10.19.30日身体測定	21.23日身体測定	10日水あそび
	23日絵本	17日身体測定	18日絵本	12日コーディ	27.30日つくって	13日コーディ
	24.26日つくって	21日絵本	21日身体測定	16日絵本	28日水あそび	17日絵本
	28.29日つくって	26.28日つくって	17日園庭			24.25日つくって
			27日歯科学習会	24.26日つくって		
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内容	4日園庭	1.6.20日園庭	3.20日身体測定	8.14.24日身体測定	3日節分	コロナのため中止
	8日テラス	5.13.22日身体測定	6日新聞紙あそび	16日獅子舞	4日鬼の的あて	
	11日コーディ	8日コーディ	10日おせち教室	17日コーディ	7.19.28日身体測定	
	15日絵本	9日 体験保育	11日年賀状作り	21日絵本	14日コーディ	
	16.25日身体測定	12日テラス	13日コーディ	28.29日つくって	18日絵本	
	23日園庭	19日絵本	17日絵本		21日給食紹介	
	29.30日つくって	26.27日つくって	18日鏡餅づくり		25.26日つくって	
		24.25日つくって				

※ 身体測定…7月からは、看護師の同席はなくし、長時間複数回行う。

※ 絵本…母と子の読み聞かせ。

※ つくって…翌月のカレンダーを希望者が作る。

※ コーディ…子育て支援コーディネーターさんに来てもらう。

* 【実施状況】

		月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
開所日数		9	12	12	14	7	12	13	13	12	12	10	11	137
利用組数		87	79	98	137	59	98	113	108	78	91	80	0	1028
利用者数		189	171	211	302	135	213	246	235	169	195	172	0	2238
内訳① (組数)	新規	3	14	10	12	1	13	20	11	4	5	6	0	99
	継続	84	65	88	125	58	85	93	97	74	86	74	0	929
内訳③ 同伴者 (組数)	母	86	79	97	136	56	97	111	107	77	87	80	0	1013
	父	0	0	0	2	3	3	2	3	1	2	1	0	17
	その他	1	1	4	2	2	1	3	1	1	1	2	0	18
内訳④ 年齢別 (実人数)	0歳	36	35	38	65	30	54	61	54	38	34	30	0	475
	1歳	30	32	47	50	19	27	35	31	26	41	42	0	380
	2歳	34	20	20	43	21	23	28	34	19	14	7	0	263
	3歳	0	4	5	2	1	7	4	3	7	14	10	0	57
	4歳	0	0	0	1	3	0	1	1	0	1	2	0	9
	その他	2	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	6

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計		
		初	再	初	再	初	再	初	再	初	再	初	再	初	再	初	再	初	再	初	再	初	再	初	再	初	再	
同一相談で初 or 再度																												
相 談 内 容	健康	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	
	家庭・生活	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	発育・発達	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	7	0
	養育不安	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	0
	虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基本的な生活習慣	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	8	0
	教育・しつけ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	その他	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
対 象 者	乳児	1		3		3		1		3		2		3		5		2		5		3		0		0	31	
	幼児	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	
	小学生	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	
	中学生以上	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0	

* 【相談状況】(区への報告項目別)

2019年度 上北沢こぐま保育園研修事業報告

名称	保育研修	職員全員研修	子育て講座	新人研修	出張研修	自主研修	施設見学	法人研修	
目的	園で独自に行うもの				外部での研修				法人内で行うもの
	職員の保育の質の向上や技術向上を図ると同時に共通認識を得る機会とする。	全職員で学ぶ内容。	地域・保護者・職員が共に学び、子育てが前進できる機会とする。	新入職員の研修。法人理念や保育を理解する。	園（園長）からの出張指示による園全体に関わる内容のもの。	自主的に学ぶことを保障する。個人が申請を行い、承認を得る。	他園の実践に学ぶ。	法人主催の研修	
内容 青文字部分が実施した研修	①保育内容研修 ・遊び ・生活（月案会議） ・水遊び、プール ・互いに見学研修・交流（川村研・ミドル研） ②子ども理解 ・職員会議や総括会議にて学習 ③わらべうた ・職員会議等の前に。 ・各おうち計画立案時に。 ・2ヶ月に1回課業研にて学習。 ・行事前に	④美術 ・各おうち計画立案時に。 ・2ヶ月に1回課業研にて学習。 ⑤体育 ・各おうち計画立案時に。 ・2ヶ月に1回課業研にて学習。 ⑥障害児保育及び発達理解 ・巡回指導を受け対応を学ぶ。 ・期ごとの会議にて発達について学び、保護者と共有していく。 ・STによる指導 ⑦ちいさいなかまを使つての学習	①上北沢こぐま保育園保育課程 ②世田谷区保育の質ガイドライン ③緊急時マニュアル（防災担当者により作成） ④受診時対応（個別に） ⑤嘔吐処理対応（個別に） ⑥不審者対応 ⑦個人情報保護 ⑧救急救命（AED） ⑨防災マニュアル ⑩保育政策（保育料無償化について、副食費について、処遇改善費について等） ⑪虐待マニュアル ⑫子どもの権利 ⑬保育所保育指針 ⑭歯科研修 ・園医の三上Dr.より講習を受け保育に活かす。 ⑮その他	ひろばにて離乳食講習会などを企画していく。 ・給食講座 ・保健講座 ・荒馬座公演会（中止） ・歯科講座 ・遊び講座（親子であそぼう）	①就職にあたって ・法人の歴史と理念 ・就業規則 ・マナー ②上北沢こぐま保育園について ・異年齢保育について ・子どもとの接し方 ・父母対応 ・地域を知る	①東京都の研修 ②世田谷区の研修 ③世田谷区園長会の研修 ④東社協の研修 ⑤全国及び東京経営懇の研修 ・乳児部会 ・幼児部会 ・障害児部会 ⑥烏山地区主任保育士会議 ⑦その他 ・コダーイ芸術教育研究所の研修（立川体育・立川わらべうた） ・幼児造形教育研究所の研修（美術「さんもっくの会」）	①全保連の研修 ・合同研究集会 ・ブラザ研修 ②子どもの文化研究所の研修 ③全国幼児教育研究協議会の研修 ④コダーイ芸術教育研究所の研修 ⑤田中教育研究所の研修 ⑥食べもの文化研究会の研修 ⑦発達協会の研修 ⑧全国保育協議会の研修 ⑨芸術教育研究所の研修 ⑩東北民教研の研修 ⑪荒馬座研修 ⑫芸術とあそび創造協会の研修 ⑬一般社団法人東京保育室センターの研修 ⑭日本咀嚼学会の研修 ⑮日本歯科大学、口腔リハビリテーション多摩クリニックの研修 ⑯その他	①法人内見学 ・こぐま保育園運動会見学（2名） ・こぐま保育園実施美術研修（1名） ②経営懇加盟の園見学 ③烏山地区主任保育士会議 ④その他 ・さくらみなみ保育園給食実践交流	①法人合同研修会 ②新入職員研修（2020年度入職者向けはコロナの影響により中止） ③各セクション（幹部・保健・事務・給食）部会研修→幹部研修は中堅層研修として実施6名参加 ④その他
対象	全職員	全職員	地域の方 保護者 他園職員 全職員	新入職員	全職員	全職員	全職員	全職員	
報告書等記録形式	議事録等			報告書	報告書	報告書	感想文	感想文	
備考			昨年度をベースに保護者も含めた講習会を計画。セクション主任と連携した講座も計画していく。		キャリアアップ対象研修センターに行く。				
年間まとめ	・各課業研内での深いあいはあったが、なかなか全体の共有とはならなかった点が課題。より具体的な点について一つずつ検討していけるとよい。（例えば遊び・伝承遊び等） ・STの協力により言語指導を中心に配慮児への対応についても学べた。これも一部の職員のみで全体の共有が少なかった。次年度はこの反省を生かして全体で共有を意識していきたい。 ・同法人内及び他法人施設との交流が少しずつではあるが実施できた。他施設の様子を知ること各職員の保育力向上を図っていきたい。								

2019年度 上北沢こぐま保育園

参加研修一覧

正職員							
NO.	役職・クラス	キャリアパス 該当	自主研修対象	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者
1	保育士・ぶどう	×	×	5月9日(木)	立川わらべうた	わらべうた	コダーイ芸術教育研究所
2	保育士・ぶどう	×	×	5月30日(木)	立川わらべうた	わらべうた	コダーイ芸術教育研究所
3	保育士・ぶどう	×	×	6月20日(木)	立川わらべうた	わらべうた	コダーイ芸術教育研究所
4	保育士・ぶどう	×	×	7月11日(木)	立川わらべうた	わらべうた	コダーイ芸術教育研究所
5	保育士・ぶどう	×	×	9月12日(木)	立川わらべうた	わらべうた	コダーイ芸術教育研究所
6	保育士・ぶどう	×	×	10月3日(木)	立川わらべうた	わらべうた	コダーイ芸術教育研究所
7	保育士・ぶどう	×	×	10月24日(木)	立川わらべうた	わらべうた	コダーイ芸術教育研究所
8	保育士・ぶどう	×	×	11月14日(水)	立川わらべうた	わらべうた	コダーイ芸術教育研究所
9	保育士・ぶどう	×	×	5月14日(火)	体育講座(立川体育)	体育	コダーイ芸術教育研究所
10	保育士・ぶどう	×	×	6月25日(火)	体育講座(立川体育)	体育	コダーイ芸術教育研究所
11	保育士・ぶどう	×	×	7月23日(火)	体育講座(立川体育)	体育	コダーイ芸術教育研究所
12	保育士・ぶどう	×	×	9月24日(火)	体育講座(立川体育)	体育	コダーイ芸術教育研究所
13	保育士・ぶどう	×	×	10月29日(火)	体育講座(立川体育)	体育	コダーイ芸術教育研究所
14	保育士・ぶどう	×	×	11月26日(火)	体育講座(立川体育)	体育	コダーイ芸術教育研究所
15	保育士・りんご	×	×	4月19日(金)	2019年度 さんもっくの会	美術	幼児造形教育研究会
16	保育士・りんご	×	×	5月17日(金)	2019年度 さんもっくの会	美術	幼児造形教育研究会
17	保育士・りんご	×	×	6月14日(金)	2019年度 さんもっくの会	美術	幼児造形教育研究会
18	保育士・りんご	×	×	9月6日(金)	2019年度 さんもっくの会	美術	幼児造形教育研究会
19	保育士・りんご	×	×	11月8日(金)	2019年度 さんもっくの会	美術	幼児造形教育研究会
20	保育士・りんご	×	×	1月17日(金)	2019年度 さんもっくの会	美術	幼児造形教育研究会
21	保育士・りんご	×	×	2月7日(金)	2019年度 さんもっくの会	美術	幼児造形教育研究会
22	保育士・もも	○	×	6月12日(水)	乳児保育研究会		東京経営懇
23	保育士・もも	○	×	7月17日(水)	乳児保育研究会		東京経営懇
24	保育士・もも	○	×	9月11日(水)	乳児保育研究会		東京経営懇
25	保育士・もも	○	×	10月16日(水)	乳児保育研究会		東京経営懇
26	保育士・もも	○	×	11月13日(水)	乳児保育研究会		東京経営懇
27	保育士・もも	○	×	12月18日(水)	乳児保育研究会		東京経営懇
28	副園長・さくら	×	×	5月24日(金)	2019年度 ミドル研修2年次		世田谷区保育課
29	副園長・さくら	×	×	7月23日(火)	2019年度 ミドル研修2年次		世田谷区保育課
30	副園長・さくら	×	×	9月24日(火)	2019年度 ミドル研修2年次		世田谷区保育課
31	副園長・さくら	×	×	11月19日(火)	2019年度 ミドル研修2年次	公開保育実践	世田谷区保育課
32	副園長・さくら	×	×		2019年度 ミドル研修2年次	公開保育実践	世田谷区保育課
33	副園長・さくら	×	×		2019年度 ミドル研修2年次	公開保育実践	世田谷区保育課
34	副園長・さくら	×	×	1月15日(水)	2019年度 ミドル研修2年次		世田谷区保育課
35	保育士・りんご	×	×		2019年度 ミドル研修1年次		世田谷区保育課
36	保育士・りんご	×	×		2019年度 ミドル研修1年次		世田谷区保育課
37	保育士・りんご	×	×		2019年度 ミドル研修1年次		世田谷区保育課
38	保育士・りんご	×	×		2019年度 ミドル研修1年次		世田谷区保育課
39	保育士・りんご	×	×		2019年度 ミドル研修1年次	公開保育	世田谷区保育課
40	保育士・りんご	×	×		2019年度 ミドル研修1年次		世田谷区保育課
41	栄養士・くり	×	×	5月23日(木)	食品衛生講習会		世田谷区保育課
42	看護師・さくら	×	×	5月21日(火)	鳥山地域保育園 看護師合同意見交換会	ケガ対応	
43	栄養士・くり	×	×	5月21日(火)	2019年度第1回特定給食施設講習会		世田谷保健所健康推進課
44	栄養士・くり	×	×	6月25日(火)	2019年度第2回特定給食施設講習会		世田谷保健所健康推進課
45	保育士・みかん	○	×	5月28日(火)	障がい児保育研究集会		東京経営懇
46	保育士・みかん	○	×	7月23日(火)	障がい児保育研究集会		東京経営懇
47	保育士・みかん	○	×	9月17日(火)	障がい児保育研究集会		東京経営懇
48	保育士・みかん	○	×	11月26日(火)	障がい児保育研究集会		東京経営懇
49	保育士・みかん	○	×	1月28日(火)	障がい児保育研究集会		東京経営懇

正職員

NO.	役職・クラス	キャリアパス 該当	自主研修対象	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者
50	保育士・みかん	○	×	5月15日(水)	幼児保育研究会		東京経営懇
51	保育士・みかん	○	×	6月19日(水)	幼児保育研究会		東京経営懇
52	保育士・みかん	○	×	7月16日(火)	幼児保育研究会		東京経営懇
53	保育士・みかん	○	×	9月11日(水)	幼児保育研究会		東京経営懇
54	保育士・みかん	○	×	11月	幼児保育研究会	施設見学	東京経営懇
55	保育士・みかん	○	×	12月11日(水)	幼児保育研究会		東京経営懇
56	看護師・さくら	×	×	6月28日(金)	リスクマネジメント(基礎)		世田谷区保育課
57	保育士・みかん	×	○	5月11日(土)	荒馬踊り		荒馬座
58	保育士・みかん	×	○	5月12日(日)	荒馬踊り		荒馬座
59	保育士・りんご	×	○	5月11日(土)	荒馬踊り		荒馬座
60	保育士・りんご	×	○	5月12日(日)	荒馬踊り		荒馬座
61	調理師・くり	×	○	7月1日(月)	保育プラザ研修2019年度	「食べる力」は子どもの「発達力」と「生きる力」の原動力	保育プラザJAPAN
62	栄養士・くり	×	○	7月4日(月)	保育プラザ研修2019年度	障害のある子どもの保育と援助	保育プラザJAPAN
63	栄養士・くり	×	○	7月13日(土)～14日(日)	第34回食と健康を考えるシンポジウム		食べもの文化研究会
64	調理師・くり	×	○	7月7日(日)	子どもの発達をたすける食材と調理科学		
65	保育士・もも	×	○	7月13日(土)～14日(日)	第34回食と健康を考えるシンポジウム		食べもの文化研究会
66	副園長・さくら	×	○	7月20日(土)～21日(日)	第38回夏期保育セミナー2019	乳児保育実践講座 乳児保育Ⅱ	NPO法人コダライ芸術研究所
67	保育士・もも	×	○	7月25日(木)	夏の芸術教育学校	保育者が身につけたいカウンセリングマインド	NPO法人芸術と遊び創造協会
68	保育士・ぶどう	×	○	7月25日(木)	夏の芸術教育学校	保育者が身につけたいカウンセリングマインド	NPO法人芸術と遊び創造協会
69	保育士・みかん	×	○	7月26日(金)～27日(土)	2019実践セミナー	ことばの育ちを支える一評価表と多様な側面への理解と支援	発達協会
70	保育士・もも	×	○	秋以降参加予定			
71	保育士・りんご	×	○	8月1日(木)～2日(金)	2019実践セミナー	「不器用さ」への理解と支援—家族支援	発達協会
72	保育士・びわ	×	○	8月3日(土)～5日(月)	第51回全国保育団体合同研究集会	一時保育の現状と課題	全国保育団体連絡会
73	園長・さくら	×	○	8月3日(土)～5日(月)	第51回全国保育団体合同研究集会		全国保育団体連絡会
74	副園長・さくら	×	○	8月3日(土)～5日(月)	第51回全国保育団体合同研究集会		全国保育団体連絡会
75	保育士・みかん	×	○	8月3日(土)～5日(月)	第51回全国保育団体合同研究集会		全国保育団体連絡会
76	保育士・りんご	×	○	8月7日(水)～8日(木)	2019実践セミナー	特別な関わりが必要な子への保育・幼児教育—子どもへの合理的配慮を含めて	発達協会
77	保育士・ぶどう	×	○	8月7日(水)～8日(木)	2019実践セミナー	特別な関わりが必要な子への保育・幼児教育—子どもへの合理的配慮を含めて	発達協会
78	保育士・りんご	×	○	8月11日(木)	夏の芸術教育学校	発達が気になる子どもの理解と支援の実例	NPO法人芸術と遊び創造協会
79	副園長・さくら	×	○	8月9日(金)～11日(日)	第68回東北民教研「花巻集い」		東北地区民間教育研究団体連絡協議会・日本教職員組合東北地区協議会
80	副園長・さくら	×	○	8月18日(日)	田研セミナー・2019幼児カウンセリング講座	東京キャリアアップ講座	田中教育研究所
81	保育士・びわ	×	○	8月19日(月)	幼児のことば遊びの会		一般財団法人ことば遊び研究会
82	保育士・みかん	×	○	8月19日(月)	田研セミナー・2019幼児心理講習会	子どもと親の育ちを支える保育者コース	田中教育研究所
83	保育士・りんご	×	○	8月20日(火)	田研セミナー・2019幼児心理講習会	保育の専門性を高めるコース	田中教育研究所
84	保育士・みかん	×	○	8月20日(火)	田研セミナー・2019幼児心理講習会	保育の専門性を高めるコース	田中教育研究所
85	保育士・ぶどう	×	○	8月24日(土)	田研セミナー・幼児の運動遊び指導講座実技&理論		田中教育研究所
86	副園長・さくら	×	○	8月24日(土)	田研セミナー・幼児の運動遊び指導講座実技&理論		田中教育研究所
87	保育士・もも	×	×	6月1日(土)	法人間交流研修	こぐま保育園・ふれあい運動会	
88	保育士・みかん	×	×	6月1日(土)	法人間交流研修	こぐま保育園・ふれあい運動会	
89	保育士・もも	×	○	11月16日(土)～11月17日(日)	給食セミナー		全国保育団体連絡会
90	園長・さくら	×	×	9月6日(金)	子どもが輝く「せたがや」をめざして		新しいせたがやをすすめる会
91	副園長・さくら	×	×	9月6日(金)	子どもが輝く「せたがや」をめざして		新しいせたがやをすすめる会
92	副園長・さくら	×	×	9月6日(金)	子どもが輝く「せたがや」をめざして		新しいせたがやをすすめる会
93	副園長・さくら	×	×	10月27日(日)～28日(月)	第41回 保育研究所研究集会	保育制度の改善・拡充—私たちの戦略	保育研究所
94	副園長・さくら	×	×	10月27日(日)～28日(月)	第41回 保育研究所研究集会	保育制度の改善・拡充—私たちの戦略	保育研究所
95	保育士・りんご	×	×	9月13日(金)	法人間交流研修	美術研修	こぐま保育園
96	看護師・さくら	×	×	10月15日(火)	鳥山地域保育園 看護師合同意見交換会	医療マップ作成と情報交換	
97	副園長・さくら	×	×	10月23日(水)	第1回法人内中堅層研修		多摩福祉会
98	副園長・さくら	×	×	10月23日(水)	第1回法人内中堅層研修		多摩福祉会
99	副園長・さくら	×	×	10月23日(水)	第1回法人内中堅層研修		多摩福祉会

正職員

NO.	役職・クラス	キャリアパス 該当	自主研修対象	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者
100	保育士・ぶどう		×	10月23日(水)	第1回法人内中堅層研修		多摩福祉会
101	保育士・ぶどう		×	10月23日(水)	第1回法人内中堅層研修		多摩福祉会
102	調理師・くり		×	10月23日(水)	第1回法人内中堅層研修		多摩福祉会
103	事務長・さくら		×	10月23日(水)	第1回法人内中堅層研修		多摩福祉会
104	副園長・さくら	×	×	11月16日(土)	第2回法人内中堅層研修		多摩福祉会
105	副園長・さくら	×	×	11月16日(土)	第2回法人内中堅層研修		多摩福祉会
106	副園長・さくら	×	×	11月16日(土)	第2回法人内中堅層研修		多摩福祉会
107	保育士・ぶどう		×	11月16日(土)	第2回法人内中堅層研修		多摩福祉会
108	保育士・ぶどう		×	11月16日(土)	第2回法人内中堅層研修		多摩福祉会
109	調理師・くり		×	11月16日(土)	第2回法人内中堅層研修		多摩福祉会
110	事務長・さくら		×	11月16日(土)	第2回法人内中堅層研修		多摩福祉会
111	副園長・さくら	×	×	12月11日(火)	第3回法人内中堅層研修		多摩福祉会
112	副園長・さくら	×	×	12月11日(火)	第3回法人内中堅層研修		多摩福祉会
113	副園長・さくら	×	×	12月11日(火)	第3回法人内中堅層研修		多摩福祉会
114	保育士・ぶどう	×	×	12月11日(火)	第3回法人内中堅層研修		多摩福祉会
115	保育士・ぶどう	×	×	12月11日(火)	第3回法人内中堅層研修		多摩福祉会
116	調理師・くり	×	×	12月11日(火)	第3回法人内中堅層研修		多摩福祉会
117	事務長・さくら	×	×	12月11日(火)	第3回法人内中堅層研修		多摩福祉会
118	調理師・くり	×	×	11月20日(水)	給食実践交流会		さくらみなみ保育園
119	保育士・りんご	×	×	11月27日(水)	児童保育要録研修		世田谷区保育課
120	保育士・りんご	×	○	11月10日(日)	第31回東京合研		
121	保育士・ぶどう	×	○	11月10日(日)	第31回東京合研	育てにくい子にはワケがある	
122	副園長・さくら	×	○	11月10日(日)	第31回東京合研	育てにくい子にはワケがある	
123	事務長・さくら	×	○	11月10日(日)	第31回東京合研		
124	副園長・さくら	×	○	11月10日(日)	第31回東京合研		
125	保育士・みかん	×	○	11月10日(日)	第31回東京合研		
126	副園長・さくら	×	×	11月29日(金)~30日(土)	第16回主任セミナー		全国民間保育園経営研究懇話会
127	副園長・さくら	×	×	11月29日(金)~31日(土)	第16回主任セミナー		全国民間保育園経営研究懇話会
128	園長・さくら	×		12月5日(木)~6日(金)	第14回 東海・近畿福祉経営研究交流会		
129	事務長・さくら	○		12月5日(木)~6日(金)	第15回 東海・近畿福祉経営研究交流会		
130	副園長・さくら	×	×	12月8日(日)~9日(月)			東京経営懇
131	栄養士・くり	×	○	1月11日(土)	2019年度管理栄養士国家試験受験準備講習会		一般社団法人女子栄養大学香友会
132	栄養士・くり	×	×	2月18日(火)	第5回特定給食施設講習会	集団給食の食物アレルギー対応について	世田谷区保健所
集計							

2019年度 上北沢保育園 参加研修一覧

有期職員							
NO.	役職・クラス	氏名	自主研修対象	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者
1	ぐみ	芳賀 明子	×	5月10日(金)	ひろばリーダー研修		世田谷区子ども家庭課
2	ぐみ	芳賀 明子	×	8月30日(金)	ひろばリーダー研修		世田谷区子ども家庭課
3	ぐみ	芳賀 明子	×	12月6日(金)	ひろばリーダー研修		世田谷区子ども家庭課
4	ぐみ	芳賀 明子	×	3月4日(水)	ひろばリーダー研修		世田谷区子ども家庭課
5	ぐみ	田谷 陽子	×	5月30日(木)	ひろば初任者研修		世田谷区子ども・若者部 子ども家庭課
6	ぐみ	田谷 陽子	×	7月8日(月)	ひろば初任者研修		世田谷区子ども・若者部 子ども家庭課
7	ぐみ	田谷 陽子	×	8月2日(金)	ひろば初任者研修		世田谷区子ども・若者部 子ども家庭課
集計							

園全体の研修他							
NO.	役職・クラス	氏名	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所
1			2月23日(土)	新人研修	法人理念と保育園を理解する	多摩福祉会	こぐま保育園
2			3月12日(火)	新人研修	上北沢こぐま保育園を知る	上北沢こぐま保育園	上北沢こぐま保育園
3			4月6日(土)	職員研修	全体的な計画・世田谷区保育の質のガイドライン・保健・環境衛生・保育情勢等	上北沢こぐま保育園	上北沢こぐま保育園
4			6月6日(木)	プールについて	塩素濃度測定やプール活動の確認事項	上北沢こぐま保育園	食堂
5			5月8日(水)	嘔吐処理		松沢保育園	松沢保育園
6			6月18日(火)	AED講習		松沢保育園	松沢保育園
7			5月31日(金)	園内交換研修		川村研	異年齢各おうち
8			9月21日(土)	ちいさいなかま	保育士力と保育力	上北沢こぐま保育園	ホール
9			9月25日(水)	園内交換研修		川村研	もも
10			3月17日(火)	2020年度新人研修		上北沢こぐま保育園	上北沢こぐま保育園
集計							

2019年度 永山小学童クラブ事業報告

2020年6月6日

1. 児童状況

- (1) 定員：70名
- (2) 育成年齢：6歳～10歳（小学校1年生～6年生）
- (3) 育成時間：学校下校時～19：00、学校休業時 8：00～19：00
- (4) 学年別状況：(2020年3月31日在籍数 50名)

1年生：20名 2年生：14名 3年生：14名 4年生：2名

*コロナウィルス感染拡大防止対策としての学校休業および自粛による2月末退所者 16名

2. 職員状況

- (1) 正職員5名（うち1名12月から産休・育休、1名10月末から病休2月退職）
- (2) 有期契約職員9名

勤務時間	4h×週4日	6h×週5日	5h×週5日	不定期 (学生、おやつ 担当)
人数	5 (1名9月から)	1	1	2

*5年を超える雇用：4名

- (3) 夏季アルバイト：2名
- (4) 事務職員（4h×週2日） 3学童クラブ分の事務処理担当（賃金は案分）
- (5) 資格取得状況

保有資格	放課後支援員	保育士	教員免許
人数	9	5	8 (中・高5、養護 1、幼2)

3. 2019年度に取り組んだこと

- (1) グループ担当制について
 - ・ グループの編成：新入所児童の地域による人数に差があり、前年度と同じ編成にするとグループによる偏りが生じ、降所指導や育成室の配置にも無理が生じるため、若干調整をしたが、大きな変更なく各グループ20数名で前年度の

流れを継承した3グループ編成ができた。

- ・ 担当職員：新人2名を含む正職員3名が各グループの担当となり、施設長と1名が特に新人担当のグループと全体のフォローを行った。継続児童や要配慮児童に安定的、継続的な育成ができるよう加配担当の職員は同じグループを担当した。

正職員が、入れ替わるなど変化はあったが、グループ毎の文化というか、前年度の1年間の積み重ねが定着し、引き継がれていて職員が変わっても大きな混乱なくスタートできた。また、新人職員は当初担当として任されることに不安も大きかったようだが、前年度の流れも引き継ぎ、子どもたちや、加配の職員ともやりとりしながら、それぞれの個性が活かされる運営が展開された。

- ・ 子どもたちの成長：グループで活動するのは、学習時間やおやつ、帰りの会、集団降所、学校休業日は、朝の会、昼食時など集合する時であるが、朝の会以外は各グループのやり方で、進行役などの当番を子どもたちでまわしていった。3学期になると、帰りの会の進行で、クイズをしている1年生に「あと3分で5時になるから、あと1問で終わった方がいいよ」と、3年生がさりげなくサポートする姿もみられた。グループ内での席替えも子どもたちと相談しながら決めたが、子ども同士の関係性や配慮が必要な子の位置〈ロッカーに近いところ等〉も、大人が修正する必要がほとんどないくらいできていた。また、担当職員が病気や産休で休んでいてもその職員と半年以上かけて作り上げたグループのやりかたは、それぞれ子どもたちに積み重なっていて、子どもたちだけでおやつから帰りの会の流れが進められ、継続児童には確実に積み重ねができ自発的な行動ができるようになっていく。

(2) 自発的なあそびや活動の支援

- ・ 段ボール工作が、夏休みの終わり頃から、お店屋さん準備が始まる11月の終わり頃までリサイクルに出す段ボールがなくなるほど続いた。基本的に子どもたちの創作意欲に任せていたが、できあがった作品より制作過程が一番楽しかったようだ。想像力と工夫が具現化できる活動で今後も支えていきたい。また、段ボールカッターなど子どもも安心して使える道具も数を充実させたい。
- ・ 折り紙委員、テラス委員：少しだけ折りかけてうまくいかず反故になった折り紙がたくさんたまり、土曜日の人数が少ない時に、反故の折り紙で30面体などのユニット折り紙を作ったことから、子どもたちにも折り筋がついて捨てられる折り紙に意識が向き、折り紙委員を作ろうと折り紙が好きな2年生中心に委員会ができた。これをきっかけにグループごとにユニット折り紙の作品を作ろうとしたが、残念ながら自然消滅となった。

- ・ 本年度の課題であったテラス活用は、ゴーヤのグリーンカーテンで夏休みのテラスの有効活用の準備はできたが、猛暑でテラス自体が使える状況でなかった。また、秋も台風や雨が多く今年もテラスが活用できないままになるかと思われたが、10月の中旬に職員からの声かけではあったが、プランターに春に咲く球根や種や苗を植える有志を募ったところ、2、3年生中心に10名集まった。何をどのように植えるかは、子どもたちと話し合いで決め、購入から植え付け、日常管理をすべて子どもたちと一緒にやろうとしたが、登所してから帰るまでの時間内に歩いて買いに行ける園芸店がなく購入は職員ですることになった。予算だけ大人が決め、購入の内訳は子どもたちに任せるつもりだった。今回は時期的に押し詰まっていたのもあり余裕もなく断念したが、今後学校休業時など計画的に他の分野でも実施していけるようこの経験を生かしたい。

(3) グループごとの打ち合わせと職員会議

- ・ グループを担当している職員同士での打ち合わせを月2回は夕方の20分くらいで実施した。正職員と、加配担当職員でグループ内の児童の支援の見直し、児童理解の共有等ができた。
- ・ 全職員の会議は月1回火曜日の午後2時間で行っていたが、配慮が必要な児童への支援についてでも時間が足らず、9月から月1回火曜日の午前中から行うことにした。勤務時間の短い加配職員と意思疎通を図るためにも、会議の時間の拡大は効果があった。グループ毎の報告を事前にまとめておくことが今後の課題である。
- ・ また、児童理解と支援についてKJ法を使ったことがあった。時間の関係で1度しかできなかったが、今後も学期に1回は取り入れていきたい。

(4) 障がいについての研修

島田療育園の巡回相談を2回受けることができた。1回目は臨床心理士によるもので配慮が必要な児童の行動理解と支援へのアドバイスを受けた。加配職員も全員参加し今までの対応や見立ての評価と見直しに繋がった。2回目は、作業療法士に来ていただき、学童クラブでできる日常の遊びや活動の延長でできことや、感覚過敏と感覚鈍磨についてわかりやすい解説で、今後の育成でも大いに活用できる内容だった。

今回は、多摩市の巡回相談を活用したが、見立てや対応についてせめて月1回のペースで専門家のアドバイスが受けたい。今後の課題として当施設だけでなく法人学童クラブ全体で、このことについて提案していきたい。

(5) 防災、安全、健康について

- ・ 避難訓練：月1回の訓練は時期に応じて、バリエーションをいれながら実施した。年間計画に沿いながら状況に応じた訓練ができるようになった。年間計画で入れていても天候や子どもたちの状況で臨機応変な対応ができた。マンネリ化せず、ある程度緊張感を維持しつづけることが大事で1月の予告なしの避難訓練も混乱なく実施できた。
- ・ 安全：大きな事故や怪我なく過ごすことができた。受診するくらいの怪我はなかったが、公園での遊びは後半になると子どもたちも大胆になってきて、起伏の多いところを全力で走り転倒などによる怪我が増える。遊び方、時間等時期に応じて対応していきたい。
- ・ 防犯面では、10月にグループ毎に降所路を中心にした安全マップ作りをした。集団降所時にフィールドワーク的なことを取り入れるが、10月は日々暗くなっていくので、実施時期としては、今後夏休み前など検討していきたい。
- ・ 健康：12月に学校が冬休みに入ったとたん、インフルエンザに罹患する児童が毎日出た。手洗いやうがい、消毒の徹底はしたが、年末年始の休みまで続いた。児童が密集する状態での学童クラブでは、誰かが罹患すると、感染を阻止するのが難しいことを物語っていると思われる。今回の新型コロナウイルスの感染拡大防止対策では、空気清浄機、換気、消毒、手洗いうがい、3密を避ける等のさらなる徹底をしている。

(6) いじめについて

- ・ 前年度の2月にあったいじめの件については、当事者、保護者、関係者、学校とも話し合いや情報共有をし、引き続き学童クラブでも学校でも同じことが起こらないよう、この件だけでなく、担任とも継続的に情報共有している。施設としてこの件を学びとし、7月の三多摩フォーラムでのいじめについての講演には、正職員だけでなく、加配の職員も参加した。また、毎年実施しているが、CAPのワークショップでも、どういうことがいじめなのかということもいれてもらい、全員で学んだうえで日々の遊びや関わりの中で学んだことを一緒に思い出し繰り返すことで、日常のなかでのお互いの権利を守り、行動につながるようにしている。今後、同じようなことがないよう、育成の軸足は、子どもの権利を守ること、どの子も遊び込めることであるが、情報共有、連携、研修等も引き続き継続していきたい。

(7) 障がいのある児童の継続育成について

- ・ 学校内に特別支援学級があるため、当学童クラブに在籍する児童が多いのが特徴でもあるが、学年が上がると、第1希望で申請しても、1年生から通い慣れた当学童クラブに、4年生以上で在籍し続けることが難しい。今まではなんとか在籍できたが、今後必ずしも継続して在籍できるとは限らないということが現実となり、第2希望の永山学童クラブに通うための手立てを見つけておくことなどを、面談でも今まで以上に保護者と話し合いを進め、学校や児童青少年課、永山学童クラブ、関係機関とも引き続き密に連携をとっていきたい。

(8) 保護者との連携

- ・ 保護者会、個人面談：4月、10月に全体の保護者会、12月に3年生保護者会を開催しているが、10月の保護者会は毎年参加者が少ない。学校行事も多く11月には個人面談もあるので、保護者も負担が大きいようだが、冬時間降所については保護者と相談して決めなければならないので、4月の保護者会で、文書で決めるか保護者会開催で決めるかを相談しておくなど、今後は事前の対策をしておきたい。個人面談については、5月は新入所児童と希望者、11月は全員実施し、個別の相談は、その都度行い保護者と情報共有を図っている。
- ・ 父母会との連携：父母会役員の選出がいつもネックになるが、ここ数年は、保護者同士のネットワークがうまく働きスムーズにできている。6月の親子交流会が一番大きな共催行事だが、学校の協力で、コスモスホールを借り、雨にもかかわらず親子併せて109名の参加者で好評だった。
- ・ 2018年度の冬休みに実施した父母会共催「どんぶりの日」〈レトルトのカレーや親子どんぶりなどを父母会で購入〉が好評で、今年度は夏休みと冬休みと2回実施した。さらに夏休みは「麺の日」も追加しいずれも、お弁当の負担が1日でも減るとのことで好評だった。

(9) 学校・地域・関係機関との連携

- ・ 学校：管理職、各担任とも情報共有ができ良好な関係ができている。校庭・体育館だけでなく、体育館が使えないときはコスモスホールの使用も可能になった。また、図工室や家庭科室も使用可能と学校から話がありクッキングや、行事で積極的に活用していきたい。
- ・ 地域：青少協の定例会に参加し、地域の方々とも情報共有し地域運動会や地域清掃に子どもたちと参加することで学童クラブを認知していただくことと、連携に努めている。また、乳幼児ネットワークにも参加し永山地域の保育園、幼稚園、NPOとの情報共有を行っている。
- ・ 放課後子ども教室：地域の担当者、学校とも情報共有し、現在のところは今ま

で通り棲み分けの対応をしている。市の担当部署と学校、地域の放課後子ども教室担当者と一体化、連携についての協議では、地域のニーズとキャパシティを考慮し、しばらくは現状のままでの実施となった。

- ・ 関係機関：子ども家庭支援センターとは、常に情報共有しながら育成支援にも反映している。島田療育センターも巡回相談などのやりとりで研修や日々の育成に活用できている。今後も、家庭や障がいなど、きめ細かい支援をしていくためにも情報共有と連携をとっていきたい。
- ・ ボランティアセンター：夏休みのボランティアの紹介をしてもらい、11名の高校生がお昼寝前の読み聞かせや、教材準備や児童の遊び相手として活動した。毎年多くの高校生のボランティアを希望し、活動してくれることは、施設双方にとって有意義であるが、1日の長時間活動となると休憩場所野確保が課題となる。新型コロナウイルス感染がすぐに終息できないと思われる中、実施するとしても午前だけあるいは、午後だけなど時間帯を分ける対応となり、ボランティアセンターとも協議していきたい。

(10) 施設整備・職場環境

- ・ 感染拡大防止策として、2月に空気清浄機をリースした。仮に終息してもインフルエンザにも対応できるので、コロナウイルスだけでなく利用していきたい。
- ・ 職員の休憩室がないのはどうしようもないが、3月2日からのコロナウイルス対応感染拡大防止による学校休業では、3密を防ぐため事務室を長時間休憩室として使うことになった。今までは、夏休みにボランティアの学生も使っていたが、コロナウイルス感染の終息までは、職員の休憩をどのように分散するか、出勤体制と合わせ検討したい。
- ・ 有給休暇の取得：夏休や年末年始休暇など、特別休暇は完全に消化しているが、前年度の繰り越しの消化だけで、当年度付与された年次有給休が未消化のケースが課題である。月1回のペースで取得できるよう勤務の調整を図っているが、前年度繰り越しが多く残る実態が課題である。

	子どもたち・遊びの様子	要支援児関係	行事	その他の特記事項
4月	<p>1年生が27人、2年生、3年生それぞれ1名ずつ計29名の新入所児と41名の継続児の70名でスタート。</p> <p>昨年と違い、夕延長の利用が増え、集団降所のパトロールと延長に残る職員のやりくりが春休みの期間厳しかった。学校が始まって最初の1週間は1年生のお昼寝ができた。自分のコマに色を塗ったり、グループ毎にこいのぼりを作るなど、簡単な制作活動も取り入れた。モアサービス利用の児童を集団降所で帰してしまうことがあった。昨年に比べて土曜日利用が増えた。</p>		<p>10日(水)新入所歓迎会 4年生の飛び入りの歌からスタートした。3年生が自分の班の新入所児の名前を紹介し、3月から準備していたメダルを渡した。</p> <p>11(木)避難訓練 始業式の8日に2年生以上だけで避難訓練の復讐をした。翌9日には、1年生だけでダンゴムシのポーズを練習し、避難訓練のための訓練を2回おこなった。</p> <p>22日～こいのぼり製作 グループごとに子どもたちとアイデアを出し合って、3つのこいのぼりを作った。1人1人の手形を鱗に見立てるものや、手形が1匹の鯉でそれを集めて大きな鯉にするところもあれば、1人ずつ小さなこいのぼりの鯉を作って集めて1匹の大きな鯉にするなどグループごとに作成し飾った。</p>	出席率 月～金 80.4% 在籍70人
5月	<p>大人も子どもも新しい環境に慣れるのには10月の4月から、10連休を挟んでの5月は、学童クラブの生活の流れがお互いに分かかってきて、安定してきた。子どもたちもグループでの生活がしっかり定着し、おやつや帰りの会の流れもスムーズになってきた。</p> <p>学年ごとでは、3・4年生はグループの進行やルール決めなどリーダー的役割を自信をもってできるようになってきた。2年生は3年生のサポートをする場面も増えてきたこともあり、生活・あそび両面で積極的に活動する場面が増えた。1年生は、4月当初の緊張がほぐれ、クラスや出身園に関係なく新しい遊びも試しながら、遊びを基本に友達関係を広げている。</p>		<p>降所安全指導週間13日(月)～10日(金) 学童クラブの生活にも慣れてきて、集団降所でふざけたり、走ってしまうなど不適切な行為も散見してきたので、「たまおくんの帰り道」という紙芝居の教材を使い、毎日帰りの会で降所時の安全確認をした。</p> <p>15日(水)避難訓練・引き渡し訓練 発災対応の避難訓練の2回目で、先月よりはダンゴムシのポーズも上手にできた。まだ、どこを守るためのポーズかわかっていない子も多くいたので、改めて説明した。先月より緊張感も持って実施できた。引き渡し訓練は前日からメール配信もしたのもあり、スムーズにお迎えと引き渡しができ、最終のお迎えは6:45に完了した。</p>	出席率 月～金 84.9% 在籍70人 5月末 2年生 1名退所
6月	<p>すっきりしない天気が続く、月目標の「雨の日も楽しむ」を日々実践する形になった。3年生男子が仲良く遊んでいるが、ふざけからケンカになることがあり、どこまでおふざけで、どこからケンカなのか本人たちも、わかっていない状況がある。落ち着いて話を聞いて整理していくが、その間もそれぞれの話が合わず、何度も確認してなんとか収束する。基本的な遊びのルールの合意ができていなかったり、負けたくないために、途中でルール変更をし、それが原因でトラブルにもなっている。</p>		<p>27日(木)個人面談 新入所家庭と希望者で全部で55家庭と面談した。学童クラブでの様子をお伝えし、家庭での過ごし方などお互いに共有できた。</p> <p>15日(土)親子交流会 学校のコスモスホールを昨年同様借りて、今年も「縁日」をスタンプラリー形式で親子で楽しんだ。コスモスホールの椅子・テーブルも使え、雨の中の移動も最小限にすることができた。今年の日玉であるフォトフレーム作りは、各家庭からビーズなどの寄付を募ったのも功を奏し、それぞれ世界に一つだけのフレームができて好評だった。</p> <p>5日(水)歯磨き教室 歯科衛生士さんに来ていただき、1年生は第一大臼歯について、2年生以上は顎の発達と歯のために、硬い食べ物と柔らかい食べ物について学んだ。</p> <p>雨の日工作週間16日～28日 16日の週は誰でも簡単にできる紙のコマづくりで、次の24日の週はプラバン製作をした。</p>	出席率 月～金 83.3% 在籍69人 6月末 4年生1名退所

7月	<p>夏休みに入るまで、6月から引き続きすっきりしない天候が続いた。少しでも雨が止んでいると外遊びに出ていった。登所してから、宿題をするというのが、1年生にも定着してきて大人が声掛けしなくても、自席で宿題に取り組んでいる姿が当たり前ようになってきた。</p> <p>夏休みに入り、子どもたちの人間関係にも変化があり、仲良く遊んでいるうちにふざけになり、それが悪ふざけになる兆しもあり注意してみることと、遊び方への介入など職員間で話あっていたが、いじめに発展したケースがあった。</p> <p>6月から試行している土曜日の交流育成(永山学童クラブ)もお互いに慣れてきた。</p>	IM NH グループ変更	<p>1日～6日七夕飾り作り 飾りを作ったり、願い事を書いて笹に飾り、翌週短冊は持ち帰った。</p> <p>1年:3日水 2・3年:10日水 CAPワークショップ 1年生がワークショップをしているあいだ2年生以上は永山学童クラブへ行き、交流育成をした。10日の2・3年生のワークショップは、3年生からどうしても宿題をやりたいという声があり、学校の好意で図書室を借りることができ、2年生のCAPワークショップの間は、1・3年生は図書室で宿題や読書で過ごせた。13日(土)には、保護者のワークショップを永山学童クラブで両学童クラブ父母会の共催で実施した。6名の参加</p> <p>5日金 夏の保護者会 29家庭の出席だった。この3か月の様子と夏休みと今後の予定について説明した。</p>	出席率 月～金 81.8% 在籍68人
8月	<p>昨年同様、熱中症指数を毎日気にしないといけない8月だった。新入所児も含め、定員一杯の70人在籍になった。1年生の割合が高く出席率が高い夏休みだった。また、職員を増強したり、ボランティアの高校生がトータル12名きて、子どもたちの遊び相手として活動してくれて、助かった部分もあるが、集団の複雑さは増えたと思われる。大きな事故・ケガはなかったが、子ども同士のトラブルが多かった。8月いっぱいかけて、立て直しを図ったがこちらの思うようには、いかなかった。</p>		<p>夏の大掃除・水遊び 外の窓ふき、玄関掃除、床マットとフローリングの拭き掃除、レゴ・LaQ洗いと全員できれいにした後、着替えて水遊びをした。16日まで体制が良いときのみ水遊びをする。水遊び最終日にお菓子落としとスイカ割りをした。お菓子落としでは順番は子どもたちで作ったくじ引きで決めて、準備や声掛け片づけまで子どもたちと一緒に楽しんだ。スイカ割りは、紙でできた手作りスイカでテラスでスイカ割りごっこをみんなで楽しみそのあと、おやつでスイカを食べた。</p> <p>29日(木)麺パーティー・30日(金)井パーティー 井は、父母会共催で実施した。麺のほうは初めての試みであったが、ソーメンと冷やし中華のどちらかとタレを選べるようにした。お代わり続出で完食した</p>	出席率 月～金 68.0% 在籍70人 夏入所 4年生 1名 通年入所 1年生 1名 8月末 1年生 1名退所 夏採用職員 2名 内 1名8月以降も勤務 ボランティア12名
9月	<p>9月に入っても気温が高く、毎日のように熱中症指数を気にする日々だった。台風が関東に直撃したため、登校時間が遅くなったことで8:00から開所する日があった。朝の利用は1名。</p> <p>段ボールを使って大きな作品を作るのが夏休みから続いている。降所時間にゲリラ豪雨で雨が強くなることもあり、直前に緊急配信メールを送信することがあった。運動会が9月末にあったため、一人が応援歌を歌うとそれに釣られて一緒になって歌っていた。</p> <p>今年度はぎりぎりまで校庭を使用できたので、外でたくさん遊ぶことができた。</p>		<p>27日(金)映画会 3年生から映画会実行委員を募って行う。3年生女子が中心になって、職員を含む学童クラブ全体にアンケートを取って決めていた。上映前の進行や注意を自分たちで考えて、みんなの前で発表をしていた。3年生男子は、映画館の上映前の「映画泥棒」の劇をしていた。当日は「トイストーリー3」を上映する。怖いシーンや話が難しい場面もあり、図書室が解放していたこともあり、大人に確認してから図書室に移動していた。</p>	出席率 月～金 83.9% 在籍68人

10月	<p>10月入ってすぐは運動会の後ということもあり、テンションが高くにぎやかな日々が続いた。4時間授業の日や振替休日があり学童クラブで過ごす時間がたくさんあった。室内では編み物を始めた。指編みかリリアン編みで、自分のやりたい編み方でマフラー作りをする。男の子は長さを競い合いながら作っていた。夏休みから続いている段ボール工作ではおみくじやガチャガチャなど作成後に遊べる物を作っている。また1年生男子の中ではゲーム機作りが流行り作ったもので遊んでいる。</p> <p>台風が上陸した12日は、前日のうちに利用者がいないことがわかったため、閉所した。</p>	<p>2日(水) 交通安全教室 DVD上映やお人形を用いての講義だったためかよく集中して参加できた。</p> <p>4日(金) 秋の保護者会 26家庭の出席。例年に比べて出席の家庭数は多かった。今年も全てのグループが冬時間降所をせず通常時間での降所となった。</p> <p>8日(火)～ 個人面談 全家庭対象に1か月半かけて個人面談を行っている。帰宅後の過ごし方、地域での子ども同士での遊び方についての問題点が多くあがっている。</p> <p>9日(水)～ 安全マップ作り 自分の身の回りの防犯・安全を、子どもたちが話し合いながら考えるきっかけづくりを目的としてマップ作りをしている。グループごとに進めている。</p> <p>31日(木) ハロウィン 21日～ハロウィン当日に向けて準備をしてきた。去年度と同じ黒のポリ袋をマントや洋服にし、好きなようにテープを貼り仮装グッズを作った。当日はフォトスポットを用意し、小道具を使って写真撮影をしたが、子どもたちに好評だった。</p>	出席率 月～金 83.6% 在籍68人
11月	<p>9月から続いている工作が途切れずに続いている。小学校で作品展がある影響からなのか、創作意欲の強い子が多く、男女問わず展開されていたまた、作った物を棚の上に置いてあったことで、意図せずそこがおもちゃの隠し場所になってしまうこともあったので、レゴ、LaQのルールの確認を改めておこなった。</p> <p>月末には、中学生が職場体験学習に3日間来ていた。職場体験の時間と子ども達が登所する時間が少しだけ重なっていたので、子ども達の方から声をかけて一緒になって遊んでいた。</p>	<p>6日(水)お留守番教室 個人面談を受けて、帰ってからの過ごし方や休みの日の過ごし方、友達の家での過ごし方などを職員による演劇形式で行う。今年度は一回に詰め込みすぎた部分があるため、次年度は今回の教室をいくつかに分けてシチュエーションごとに行っていきたい。</p> <p>7日～13日 手洗いチェック 南多摩保健所に手洗いキットを借りて手洗いの仕方の勉強をした。学年ごとに1日おきに行ったことで、静かに説明を聞いていた。</p> <p>11日(月)避難訓練 今年度初めて告知なしで行った。地震発生のダンゴムシのポーズは、すんなり出来たが訓練とわかると緊張が緩んでしまっていた。</p> <p>18日～22日 勤労感謝工作 子ども達が家の人に向けて、カードにお手伝い券やメッセージを書いた。</p>	出席率 月～金 83.8% 在籍68人
12月	<p>遊びの中でのトラブルが多く、友達関係の気持ちのすれ違いや思いの押し付けなど、2・3年生の男女ともトラブルになることが多かった。支援をする大人は気持ちやどうしたかったのか、どうしたいのかを聴くことで一緒に着地点を見つけるように対応した。</p> <p>冬休みに入り、学童クラブで発熱しお迎えに来てもらうケースが毎日続いた。全員インフルエンザだった。手洗い、うがいの徹底をしたが防げなかった。</p> <p>12月から職員体制が5名から3名になった。1名は、産休のため。もう1名は、病休のため。</p>	<p>5日(木)3年生保護者会 19世帯中15世帯の参加。卒クラブについて、心配事・実際にあったことなどを全体で共有した。</p> <p>13日(金)避難訓練 室内・校庭と同じ時間帯に別の場所で訓練を行う。今年度初めて行うタイプのため、校庭では説明をしてから行った。外で地震が起きた時にはどうするかなどを話した。</p> <p>18日(水)おみせやさん 3年生を中心に学童クラブ全体で1か月かけて準備をしてきた。今年度は「タビオカ」「おばけやしき」「スライム」「射的とくじ引き」の4店舗で実施した。事前準備は企画書をもとに進めていった。月間目標の「仲間と協力しよう」が学童クラブ全体で実践できた。</p> <p>25日(水)カレーパーティー 58名登所。</p> <p>26日(木)大掃除 玄関・室内・窓・図書室の4か所の掃除したい場所に分かれて掃除をする。最初は嫌だと言っていた子たちも掃除そのものを楽しみながらできた。</p>	出席率 月～金 81.3% 68人

1月	<p>12月の冬休みに入ってから流行りだしたインフルエンザも年末年始の休みで収束できたようで新たな罹患者はでなかった。</p> <p>進級・卒クラブの準備もはじまり、全学年で学年会議をおこなった。宿題や遊び時間も保証しながら話し合いの時間を確保するため、短時間で終われるよう工夫した。</p>		<p>どんぶりの日(8日 水曜日)父母会共催で夏休みに続き今年度2回目の実施。昨年好評で、父母会のほうから年2回実施したいとの要請で今年度は2回することになった。付け合わせを今回はポテトサラダにしたのも好評だった。64名の出席でごはんも(5升)完食した。</p> <p>避難訓練(10日 金曜日)今回は、予告なしで訓練した。年明け早々で予告なしでどうなるか若干心配したが、概ね落ち着いてできた。ダンゴムシのポーズで延髓の上に手をあてるのができていない子がまだ何人かいて、個別に指導する。</p> <p>学年会議 1年生:(14日、23日)こぐま保育園との交流に向けて話し合いをした。3年生:(15日、22日、25日)お留守番ノートや遠足のグループ決めをした。</p> <p>こぐま保育園交流(28日 火曜日)出身園でなくても自然に関わる子もいて、普段と違う1年生の姿がみられた。</p>	<p>出席率 月～金 83.5% 在籍68人</p> <p>1月末退所 2名</p>
2月	<p>グループまとまりが確実にようになってきたと感じる。大人がいちいち言わなくても、進行の子が立って帰りの会を進めていたり、3年生が素直に1年生の指示に従うなどほほえましい光景も見られる。</p> <p>当月中頃に、今年度4月に入職した職員が10月の終わりから入院治療を受けていたが、治療の甲斐なく亡くなった。お別れの通夜に数家族が参列した。特に当該職員が担当していたグループの児童がショックを受けないよう配慮した。</p> <p>27日夜に学校休校要請がだされ翌28日は今年度の学校の最終日となった。子どもたちもただ事でない事態ということは、戸惑いつつも受けいれているようだった。学童クラブの対応を保護者へ伝えるおたよりは間に合わずメール配信した。</p>	<p>次年度の1期の入所決定通知で新4年生以上が、9割の枠に入れず、学校や永山学童クラブとも今後について情報共有し、保護者とも永山学童クラブになった場合の登所の支援について話し合いをする。</p>	<p>3年生お別れ遠足(多摩動物公園)15日(土)</p> <p>心配された雨も明け方に止み、予定通り実施できた。2グループとも計画以上に楽しめたようで、卒クラブのいいおもいでとなった。コロナウィルス対策として、全員にマスクを配布し、食事前の手洗いをしっかりとるように話をした。</p> <p>1年生保育園交流 18日(火)</p> <p>が行事に向けての計画や年長さんを楽しませることを一緒に考えることなど、行事を通して1年生たちの成長を大きく感じることが出来た。</p>	<p>出席率 月～金 79.8% 在籍66人</p> <p>2月末退所(学校休校による) 16人</p>
3月	<p>平均して30人前後の登所だった。一日の流れも変更し、朝に2回、各45分間と、おやつを4:30からだったのを4:00からにし、4:25から50分までも勉強タイムにした。また、各勉強タイムの最後10分をNHKの「おうちで学ぼう」をテレビの画面で見た。また、9:45から毎日ラジオ体操かパブリカを流し、みんなで体を動かした。感染拡大が深刻化していくので、手洗いがいの徹底、換気、消毒の頻度を上げて強化していった。寒い時は暖房しながら窓を開け、空気清浄機も終日稼働した。利用する児童には、検温・体調を連絡帳に記入するようお願いをした。</p> <p>朝から児童の受け入れをしながら、新年度準備を進めるので時間外残業も多く発生した。また、感染予防に神経や時間もとられ、子どもたちの行動にも規制をかけるなど精神的にも肉体的にも厳しかった。職員体制も、加配の非常勤職員に連日マックスで働いてもらっているため、秋以降働けなくなる可能性がある。</p> <p>また、職員体制の厳しい時には、館長にも応援を要請した。</p>		<p>島田巡回相談(OT)3月9日(月)、朝前半は子どもやレイアウト対応を見ていただき、後半は職員全体にレクチャーをしていただいた。換気、消毒、集密にならない等配慮した。</p> <p>保護者懇談会 3密を避けるため2回に分けて時間も縮小し、参加も1世帯1人で児童同伴も避けるようお願いし実施した。連絡帳と、習い事についてなど最低限のことをお伝えした。両日あわせて25人中23家庭の出席だった。</p> <p>〈保護者の出席人数〉 3月19日(木)16人 3月24日(火)8人</p>	<p>出席率 月～金 54.9% 在籍50人</p>

2019年度 永山小学童クラブ 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
1	正職員	学担 基礎編	多摩市児童青少年課	①愛和小学童クラブ ②永山小学童クラブ ③東寺方小学童クラブ	①5/30 ②6/13 ③9/26	①1日の流れ ②余暇・遊び・行事 ③保護者対応		×	
2	正職員	学担 全体会	多摩市児童青少年課	教育センター	①9/10 ②10/1 ③11/19 ④12/10 ⑤12/17 ⑥1/28	①応急処置 ②人権 ③災害時対応 ④発達支援室 ⑤子どもの見立て ⑥子育て総合センター		×	
3	正職員	学担 中級編	多摩市児童青少年課	愛和小学童クラブ	①10/29 ②11/26 ③12/19	①1日の流れ②余暇・遊び・行事③保護者対応		×	
4	施設長	日本学童保育学会 第10回研究会	日本学童保育学会	大阪市立大学	①6/29 ②6/30	①韓国、ヘソン児童センターの実践報告 ②自由研究（遊びの分類・順序性など）、インクルーシブな学童保育実践の探求		○	
5	正職員	三多摩学童保育フォーラム	三多摩学童保育連絡協議会	首都大学東京	7月21日	全体講演：いじめと向き合う（橋詰穰弁護士） 分科会：子どもと遊ぶ（安藤耕司）、		○	
6	正職員	第54回学童保育研究集会	全国学童保育連絡協議会	龍谷大学	10月19日 10月20日			○	
7	施設長	持田税理士 決算報告学習会	多摩福祉会	多摩福祉会義務局	5月31日	決算報告のポイント		×	
8	正職員	救命救急講習	多摩市児童青少年課	愛宕児童館	6月21日	心肺蘇生、AEDの使用法		×	
9	正職員	救命救急講習	多摩市児童青少年課	愛宕児童館	6月21日	心肺蘇生、AEDの使用法		×	
10	正職員	放課後児童支援員研修	東京都	首都大学東京	9/3～9/6	放課後児童支援員指針について		×	
11	正職員	島田新人研修	多摩市児童青少年課	教育センター	2019/7/12	ABC分析での行動理解についての基礎		×	
12	正職員	東社協 中堅層研修	東社協		10/9 10/10	社会福祉法人の施設における中堅者のしごとについて		×	
13	正職員	法人内中堅層研修	多摩福祉会	①こぐま保育園 ②上北沢こぐま保育園 ③こぐま保育園	①10/23 ②11/16 ③12/11	①「施設運営でたいせつしてきたこと」「子どもを真ん中に置いた集団作りと人材育成」（谷園長） ②「法人理念、創設者浦辺先生の思い」（理事長）「財務諸表について」（持田顧問税理士） 「遊びを通してコミュニケーションや子どもが感じることについて」 ③「話し合うこと」について 「職員集団作りで大切にしてきたこと」（高橋園長）		×	
27	正職員	学担 中級編	多摩市児童青少年課	愛和小学童クラブ	①10/29 ②11/26	①1日の流れ ②余暇・遊び・行事		×	
28	施設長	施設長研修	東社協	社会福祉健康保険福祉センター	2020/2/4	財務3表の見方		×	

有期職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	自主研修対象	備考
1	有期職員	三多摩学童保育フォーラム	三多摩学童保育連絡協議会	首都大学東京	2020/7/21	全体講演：いじめと向き合う（橋本優子 護士） 分科会：子どもへの接しかたを考える。	○	
4	有期職員	放課後児童支援員研修	東京都		9/10～9/13	放課後児童支援員指針について	○	
5	有期職員	放課後児童支援員研修	東京都	首都大学東京	9/3～9/6	放課後児童支援員指針について	○	

6								
7								
8								

園全体の研修他

NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	対象者	備考
11		たまけん拡大版	多摩福祉会学童クラブ	貝取学童クラブ	7月10日	講師：垣内理事長 「子どもの魂に触れる仕事ー学童保育」	全正職員	多摩市内他法人学童クラブにも声かけ
12		たまけん	多摩福祉会学童クラブ	①貝取学童クラブ ②永山学童クラブ ③永小学童クラブ	①6/27 ②11/12 ③12/12	①各施設からあそびの実践報告	全正職員	3回目は学校休校になり中止
13		島田巡回相談	多摩市児童青少年課	永山小学童クラブ	2020/7/18	臨床心理士：吉井先生 子どもの見立てと支援のアド	全職員	
14		島田巡回相談	多摩市児童青少年課	永山小学童クラブ	2020/3/9	OT福島先生 育成室の構造化についてのアドバイ	全職員	
15		島田グループ巡回相談	多摩市児童青少年課	永山小学童クラブ	2020/10/30	OT福島先生 作業療法について 感覚過敏と感覚鈍磨、体幹について	全正職員	
16		課内研修	多摩市児童青少年課	ベルブ永山ホール	9月17日	明星大学 星山麻木氏「発達で気になる子への支援」	全正職員	
17		課内研修	多摩市児童青少年課	ベルブ永山ホール	10月25日	愛着形成について 常葉大学 柴田俊一氏	全正職員	

2019年度 貝取学童クラブ事業報告

2020年6月6日

1. 児童状況

- (1) 定員：70名
- (2) 育成年齢：6歳～11歳（小学1年生～4年生）
〈8月一時入所は6年生まで可
また特別支援学校、特別支援学級に通う児童は6年生まで通年入所可〉
- (3) 育成時間：学校下校時～19:00、学校休業時 8:00～19:00
- (4) 学年別状況（3月31日在籍児数）

	計
1年生	13
2年生	16
3年生	5
4年生	5
計	39

- (5) 在籍児童状況
 - * 要配慮児：14名
 - * アレルギー児：1名
 - * モアサービス利用者：7名(2019年度3月末)

2. 職員状況

- (1) 正職員4名：施設長1名、主任支援員1名、支援員2名（1月より3名）
〈異動職員2名:永山小学童クラブ、永山学童クラブから〉
〈採用職員1名：1月採用〉
- (2) 有期契約職員8名：4時間×週5日1名、4時間×週4日2名、
4時間×週3日1名、5,5時間×週3日1名、
5,5時間×週2日2名、4時間×週2日1名
事務員1名：6時間×週3日
- (3) 職員研修：別紙参照

3. 2019年度に取り組んだこと

(1) 育成内容の充実

永山小学童クラブから1名、永山学童クラブから1名職員の異動があった。両者とも中堅職員であり学童クラブでの経験が豊富なため、育成内容についての話し合いが充実していた。同じグループ育成といっても永山小、永山学童クラブとそれぞれに試行錯誤を重ねてきているので異動者の意見は大変貴重なものとなった。時には職員同士意見が食い違う事もあったがお互いに折り合いをつけながらより良い方向を見つけ出すことができていた。

貝取学童クラブでは3グループに分けたとはいえ、グループの職員が必ずしも毎日いるわけではないのでグループ間の情報交換を多く行ってきた。そのやり取りの中で子どもたちの様子がよくわかってきて、職員は自分のグループ以外の様子もよく把握できていた。

このことは保護者との関係においてもよい効果が得られた。延長、モアサービスの時間帯の担当職員がどの子についてもその日の状態をよく把握できていることは保護者との信頼関係を構築する上で大きな力となったと思う。

貝取学童クラブは施設長や職員が定着しない状況が長年続いているので、保護者との信頼関係は特に重要なものとなる。そんな中でも子どもたちはよく順応し、異動してきた職員に対してすくなじむことができていた。

中堅を2名配置した理由の一つは貝取小学童クラブの新規受託を念頭に置いてのことだった。貝取小学童クラブの施設長には貝取学童クラブから選出する予定だったので、貝取小開設後の貝取学童クラブの安定を考えての異動だった。

職員が代わることで新しい風が吹き、グループのカラーも変化してきた。各グループにはこどもたちがつけたグループ名があるのだが、自由な気風のサムライグループには少し規律が加わり、いつも控えめにしている子も発言できるような空気が生まれた。リアルグループは職員同士でグループ会議を多く行い常に新しいことに挑戦する姿が見て取れた。ゴールデンイーグルスグループは担当職員が3年間変わらなかったためか、子どもたちがとてもよく自立しており安定的に運営されていた。職員が1人もいなくても、おやつや帰りの会をどんどん子どもたちで進めている姿が当たり前ようになっていた。

(2) 室内整備

- ・ 限られたスペースで3グループに分けているため、すべてのグループが満足できるレイアウトにすることは難しいのだが、その中でもマットの並べ方、机の向き、班の構成など常に試行錯誤を重ねてきた。それはグループ内で行われることも、3グループ全体で行われることもあったが、2学期ころには全体的に落ち着いてきた。
- ・ 生活のスペースを広げると遊具のスペースが狭くなり課題となったが、「遊びのスペース」ではなく「遊具置き場」として捉え、遊ぶのは生活のスペースでという形におちついた。

(3) 庭

- ・ 天気の良い日には庭の整備を欠かさず行った。ブラシやトンボをかけることで地面が平らになり雨天後の水たまりも少なくなった。
- ・ 側溝や排水溝などの掃除も2回ほど行い蚊の発生を抑える努力をした。
- ・ 古タイヤを遊具として使用していたが、タイヤの中に雨水がたまって虫が発生するため使用をやめた。

(4) 野菜の栽培

今年度はきゅうりとゴーヤの栽培をおこなった。ゴーヤはあまり収穫できなかったが、きゅうりはたくさん採る事ができた。ごま油と塩昆布で和え物にしたきゅうりは子どもたちに大好評でお弁当の時間には皆でたくさん食べることが出来た。毎日成長するきゅうりを見たりおいしく食べたりして自然の恵みを感じる事が出来た。

(5) 工作・手芸など

- ・ 男女を問わず小さなビーズで小物を上手に作る子たちが一定人数いた。ビーズが得意な職員がいて、特に雨の日などは一人一人の子どもに合わせて丁寧に教えていた。
- ・ 段ボール工作を続けていたが、子どもたちのニーズに対してそれほど多くの段ボールが集まるわけではなく、供給が間に合わなくてトラブルになることが多かったため、段ボールを子どもたちに提供するのを中止している。

(6) 事務室

- ・ 事務室の配置に悩み続けた1年だった。正職員の人数は変わらないものの、有期契約職員が増え、打ち合わせや休憩の場所を確保するのが難しかった。今でもベストの配置も見つからずにいる。
- ・ 物の整理も課題の一つだが、なかなかすっきりと片付かない。片づけやすい事務室にすることを次年度の課題としたい。

4. 地域・学校・専門機関との連携について

- ・ 学校の運動会や発表会、学校公開などがあるときには行ける職員が行くというように強制はしなかったが、業務で行ける場合以外にも休暇を返上して学校に見学に行く職員もいた。職員が学校に顔を出すことで先生方との交流を図ることができ、日常の中で情報交換等を行うことができるようになった。また子どもたちも学童クラブの職員が学校に行くことを大変喜び、子どもたちとの信頼関係をより増すことができたと感じた。クラス担任や副校長、養護の先生方とは日々電話等で情報交換を行った。例年通り夏休みにクラス担任と情報交換を行いその後の育成に役立てることが出来た。
- ・ 青少協、子育てミーティング等地域の会議に参加し、情報交換を行った。

- ・ 豊ヶ丘児童館の事業として貝取学童クラブの広い庭を利用して出前牧場が行われた。地域の子どもたちも集まり動物と触れ合う時間を楽しんだ。また児童館との共催で蟬採り大会「セミリンピック」が行われた。学童クラブの子どもたちの中には自分の網を持ってきて参加する子もいた。学童クラブの児童が優勝して大変喜んでいました。

5. 子どもたちの様子

〈全体として〉

4年生が多かったので、上の学年として職員に協力してもらう様な取り組みを心掛けた。グループ内ではみんなの良い見本になるような行動も見られ、3年生とは違う成長を感じる事が出来た。

3年生は自立する気持ちが強く早い段階から集団帰りや留守番に挑戦する子が多かった。12月に3年生遠足に行き主体的に計画を立てたり、実行に移したりする力をつけていった。

1, 2年生は上の学年の子に負けじと頑張る子が多く、ドッジボールや野球など学年を超えて遊ぶ場面が多かった。

おやつ、帰りの会とグループで行動することが多くなり集合に時間がかからず、下校時間が遅くても遊ぶ時間を十分確保することが出来た。

3月には新型コロナウイルス感染防止のための登所自粛をお願いしてきたがそのため2月末に退所した児童が17名いた。

〈グループの様子〉

- ・ イーグルス：人数が多くスペースが狭く感じられたが、お互いに譲り合ったり思いやりたりする子が多く全体的に穏やかに過ごすことが出来ていた。グループの担当職員が3年間変わらなかったこともあり、子どもたちだけでグループを運営する力がついてきた。
- ・ サムライ：元気な子が多く、いつも賑やかだった。担当職員が代わったがよく親しんで過ごしていた。前職員のカラーを生かしつつも子どもたちの自主的な活動を支援する姿勢が感じられた。
- ・ レアル：人数は他のグループと変わらなかったが、出席率が高かった。それでも狭い中で押し合う様な様子もなくよく適応していた。

6. 保護者との関係について

- ・ 保護者とは年に2回担当職員と施設長により個人面談を行った。そのほか心配な家庭や希望される家庭があればその都度面談を行った。
- ・ 昨年度は保護者との信頼関係が構築されてきたところでの職員異動、退職となったので、信頼を回復するため誠実な対応を心掛けたが、今年度も施設長が異動になり、貝取学童

クラブの職員体制が不安定であるとの指摘も受けた。やむをえない事情とはいえ、職員の安定した配置を保護者が望んでいることを痛感し、今後の安定した体制作りをしていくべきだと感じた。

- ・ 年に3回保護者会を行った。4月には新しい職員を紹介し、1日も早く保護者の方に親しんでもらおうと尽力した。中堅職員2名はもともと貝取学童クラブに所属していたことがある職員だったため、知っている保護者もいてすぐに慣れ親しむことができたことはよかった。
- ・ お迎え時には子どもたちの様子をお伝えしているが、その子を一番よくみている有期契約職員にも加わってもらうこともあった。保護者対応は正職員が行うのを原則としているが、間近で見っていた職員の直接の言葉のほうが伝わる場合もあるので、内容によって正職員同席のもと、有期契約職員から伝えてもらうこともあった。

2019年度

貝取学童クラブ 月ごとの様子

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	<p>新しいグループ作りを始めた。基本的には地域で分けているが、人数バランスを考えグループを手直した。レイアウトも変更し子どもたち同士で影響しあわないように配置した。</p> <p>1年生の受け入れを職員だけでなく上級生と一緒にやることで子どもたち同士で受け入れられる雰囲気を作った。遊びの中で上級生が1年生の面倒を見る一方で、2年生同士での暴言の言い合いが目立った。職員が見本になるように言葉を前向きな表現に言い換えるようにしたところ、子どもたちの言葉も前向きな言葉に変わってきた。</p> <p>昨年度まで旧北貝取小学校のグラウンドで遊ぶことが出来たが、今年度は使えなくなり、サッカーができなかった。その分庭でドッチボールをする子が多かった。勝負にこだわるといよりもみんな楽しんで遊ぶ事ができていた。</p> <p>室内では細かい作業で根気よくブロックやラキューなどで作品を作っている子がいた。よくできた作品を前に、他の子が一緒に遊ぼうと声を掛ける場面もあり、徐々に友だち関係に幅が出来てきた。</p>	<p>《新入生歓迎会 17日(水)》 3年生から実行委員を募り、企画から準備まで子どもたちで進めていった。司会進行、新入生紹介、外で行った「宝探しゲーム」などを実行委員が仕切った。</p> <p>《誕生日会 24日(水)》 4月生まれの子の誕生会を行った。1年生は初めての誕生会だった。対象の子はとも嬉しそうだった。子どもたちのリクエストでおやつはアイスパフェだった。</p> <p>《第一回保護者会 20日(金)》 61世帯中42家庭の出席だった。職員紹介と今年度の子どもたちの様子、年間行事、学童クラブからお願い、降所路についてなど話した。グループ別懇談の後、父母会の総会が行われた。</p>	<p>3年女子1名、2年男子1名 退所</p>
5月	<p>夏のような陽気が続いて、光化学スモッグ注意報が発令されたこともあった。気温の変化も大きく、インフルエンザや風邪に罹る子もいたため、手洗いうがいをするように声掛けを行った。</p> <p>外ではドッチボールが人気で、1~4年生まで男女関係なく遊んでいた。野球をやっている子たちもいて、よくヒットを打っては歓声を上げていた。7~8人ほどの子どもたちが毎日砂場で大きな穴を掘って、虫を遊ばせて楽しんでいた。</p> <p>室内ではロッカーにピタゴラスを付けて大きな迷路を作り、ビー玉を転がして遊ぶ事が流行し夢中になっている子が何人もいた。ジャングルジムには子どもたちが鈴なりに上って上っていた。</p> <p>1年生も新しいゲームをたくさん覚え、対戦相手を選ばず遊んでいた。遊びの幅が広がり新たな友だち関係も生まれ始めたようだった。</p>	<p>《避難訓練、引渡し訓練 15日(水)》 避難訓練に続いて災害時における保護者への引き渡し訓練を行った。ダンゴムシのポーズをとって身を守る事を練習した。全員落ち着いて行動する事が出来た。17時から引き渡しを行い、19時までに全員引き渡す事ができた。</p> <p>《ひなの会 10日(金)》 今回は3冊の本を読んでもらった。事前に1年生に読み聞かせを聞くときにはどのようにしたらよいかを確認し、皆よくお話を聞く事が出来た。</p> <p>《誕生会 22日(水)》 5月生まれの子の誕生会を行った。4名の子が皆に祝ってもらった。</p>	<p>2年女子1名、4年男子1名入所</p> <p>2年男子1名退所</p>
6月	<p>野球やドッチボール、氷おになどにたくさん友だちに声をかけて遊ぶ姿が見られた。野球では上級生たちが1年生に打ち方を教えていた。</p> <p>室内では写し絵や塗り絵を楽しむ子がたくさんいた。上手に描けた時は各グループの壁に貼るのが流行っていてお互いの絵を「上手だね」と褒め合ったり、描いてあるキャラクターの話で盛り上がりたりして楽しんでいた。</p> <p>学校から学童クラブに登所する際のトラブルが多く、特に傘を持っている時には傘を振り回したり、喧嘩になって傘を武器にしまったりする事があった。学校からの距離が長い為、大人の目がない場面で子どもたちがどのように安全に過ごしていくか日々の声掛け、安全教室などで伝え続けている。</p>	<p>《個人面談 ~14日(金)まで》 1年生と4年生、その他は希望者の面談を行った。1年生は入所してからの様子を、4年生は卒クラブまでの育成方針等を話し合った。</p> <p>《工作週間 17日(月)~21日(金)》 プラ版キーホルダーを作った。手本を写して絵を描く子もいれば自分で考えて描く子もいて一人一人の個性がよく出た作品が出来上がった。</p> <p>《誕生会 19日(水)》 今月は1名だった。おやつも特別なメニューにしておき、対象の子以外の子たちも誕生会を楽しみにしているようだった。</p>	<p>4年男子1名入所</p>
7月	<p>梅雨明けが遅く、夏休みに入るまでは雨の日が続いたため、外遊びがあまり出来なかった。</p> <p>夏休みと共に梅雨が明け、やっと太陽が顔を出す日が増えた。環境省のサイトで暑さ指数を確認したが、ほぼ毎日「危険」又は「厳重警戒」のレベルに達していた為、なかなか鬼ごっこやドッチボールなどで遊ぶことが出来なかった。「厳重警戒」の日には日陰で遊ぶように声掛けをすると、虫捕りや泥だんご作りを楽しむ子が多かった。</p> <p>室内ではコマ回しが流行し、男女学年関係なく遊ぶ姿が毎日見られた。上手く回せる子は、まだ回せない子に教えてあげる姿もあり、子どもたち同士で譲り合いながらコマ回しを楽しんでいた。</p> <p>夏休みに入ると、グループで活動することが増えた。各グループの3、4年生が中心となり、自分たちの役割を確認しながら過ごす様子が見られた。</p>	<p>《親子交流会 6日(土)》 前日まで雨予報だったが何とか降られずに、親子でドッチボールを楽しむことが出来た。父母会の方が作ったカレーをみんなで食べた。116名の参加があった。</p> <p>《ひなの会 12日(金)》 隔月でボランティアの読み聞かせをお願いしている。1年生を中心にきかせてもらっているが、たのしみになっている上級生もいる。</p> <p>《昼食会 23日(火)》 今年度は各学校の終業式の日程が違ったため、一番多い豊ヶ丘小学校の終業式の日に合わせ牛丼を作って昼食会を行った。</p>	
8月	<p>今年の夏もかなり暑いとの予報だったため、熱中症指数計を購入した。予報通り35度以上の猛暑日が続く、熱中症情報で「危険」となる日がほとんどだった。午前中や夕方風の風が吹いている時には、指数計で庭の指数を測り大丈夫なようであれば、子どもたちは水分補給と休息を十分に取ながら日陰で虫取りを楽しんだ。室内では先月に引き続きコマ回しや、レゴで時間をかけて大作りに励む子がいた。</p> <p>学校のプールが終わり、お盆休みまでの2週間は午前中に水遊びを行った。希望者のみだったが毎回15人ほどの子どもたちが体を冷やして楽しんでいた。</p> <p>昨年度の反省を生かし今年のお昼寝では、寝付く前にプロジェクターを使って天井に映像を投影した。子どもたちは昨年と比べて大分落ち着いて過ごせており、見ながら寝てしまう子もいたため、来年度も続けていきたい。</p>	<p>《セミリンピック 3日(土)》 豊ヶ丘児童館主催でセミ取り大会が行われた。今年度初めての開催だったが8人の子どもが集まりセミ取りを楽しんでいた。</p> <p>《交通安全教室 7日(水)》 多摩市道路交通課の方に来て頂き、自転車の乗り方や交通ルールについてお話して頂いた。</p> <p>《永山学童クラブとの交流会 8日(木)》 貝取に遊びに来る予定だったが、熱中症指数が「危険」だった為中止した。</p> <p>《映画会 27日(火)》 3年生が映画の内容や当日のおやつを考えて貰った。子どもたちが決めた映画が新作で借りることが難しかったため、来年度の課題となった。</p>	<p>夏一時利用入所者 1年男子1名、2年男子1名、4年男子1名 計3名</p> <p>4年男子1名、3年男子1名、2年女子1名 が退所</p> <p>夏一時利用の1年男子と2年男子は継続して利用。</p>
9月	<p>暑い日が続く、子どもたちは汗をかきながら外遊びを行っていた。全学年でドロケイが流行し、3、4年生を中心に自分たちでルールを決めて遊ぶ姿がよく見られた。き野球も人気で男子を中心によく遊んでいたが、途中で抜けてしまう子やルールを守らない子がいたため、後日子どもたちと共に会議を行うことになった。</p> <p>室内遊びではラキューでコマや恐竜を作って遊ぶ子がたくさんいた。おままごとや人形遊びも相変わらず人気で、1、2年生がよく遊んでいた。</p>	<p>《多摩市立児童館・学童クラブ総合防災訓練 3日(火)》 雨のため、室内で地震を想定した避難訓練を行った。子どもたちはとても静かに集合することが出来て、5分ほどで終了した。</p> <p>《誕生会 18日(水)》 今月は誕生日の子が多かったため、通常より時間が掛かった。久々のチョコレートパフェは好評だった。</p>	

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
10月	<p>天候が不安定で気温差も大きい日が続いたため、体調を崩す子が多かった。外遊びでは新しく購入したバドミントンが流行し、男女学年関係なく多くの子が遊んでいた。新しい野球ボールを購入したが、飛び過ぎてしまい施設の外に何度も出てしまったため一度下げることになった。子どもたちにはいつも使っているカラーボールを使うように伝えた。</p> <p>室内ではピタゴラスで作った迷路のようなコースに、ビー玉を転がしてゴールを目指す遊びが再流行した。上級生が難しいコースを作る姿を見て、下級生たちも真似して作る姿も見られた。</p> <p>23日から冬時間降所を開始した。今年度は16:30に降所するコースが一つ、16:45に降所するコースが二つ、17:00に降所するコースが二つとなった。最初の週は子どもたちも戸惑いを見せていたが、月末には慣れた様子が見られた。</p>	<p>《お留守番教室 9日(水)》 「お留守番ノート」を元に学年別で行った。当日参加できなかった子は後日補習を行った。</p> <p>《保護者懇談会 11日(金)》 事前アンケートを参考に、各グループに分かれて降所時間を決定した。台風の前日だったが24名の参加があり、降所路の危険箇所を確認した。</p> <p>《おみせやさん 29日(火)》 お化け屋敷、射的、ストラックアウト、綿菓子、たこ焼き屋の5店舗を出店した。3年生と4年生を中心に各店舗ごとに話し合いを進め、約1カ月間準備をした。当日はどのお店も大繁盛で、みんなが楽しめた良い行事となった。</p>	1年男子1名退所
11月	<p>過ごしやすい気候が続いたため、外遊びをする子が多かった。子どもたちは男女学年関係なく、ドロケイやリレーなど全身を使う遊びを楽しんでいた。また3、4年生の中ではバスケットボールが人気で、タイヤをコーンに見立ててドリブルをしたり、順番に譲り合いながらシュートを打ったりと日々練習する姿が見られた。</p> <p>施設の外になっているみかんを子どもたちと共に収穫した。はさみを使ってみんな上手に収穫し、その日のおやつで食べたがとても好評だった。</p> <p>学童クラブの看板が古くなってきたので、子どもたちと一緒に看板作りを行った。子どもたちからデザインと実行委員を募集し、みんなに選ばれたイラストをポスカや絵の具を使って木の板に描いた。完成した看板は12月中に掲示予定である。</p>	<p>《個人面談 6日(水)～22日(金)》 2、3年生を対象に面談を行った。家での様子や学校での様子を聞くことができた。3年生は留守番をしている子が多く、来年度申請予定の子は今年に比べてかなり少ない様子だった。</p> <p>《ひなの会 8日(金)》 ひなの会の方に来て頂き、1年生を中心に2冊本を読んでもらった。2冊目になるとふざけだしてしまう子がいた。</p> <p>《秋の工作期間 11日(月)～15日(金)》 コマに子どもたちが絵や柄を描いて自分だけのマイコマ作りを行った。作品はのびのび豊ヶ丘祭りに展示した。</p>	4年女子1名入所
12月	<p>寒さが厳しくなり、日も短くなった。夕方には暗くなってしまうため、外遊びができる時間を早めに切り上げて、室内で遊ぶようにした。</p> <p>寒い日も続いたが、子どもたちは外で鬼ごっこをしたり、バスケットや野球をしたりして元気に遊んでいた。</p> <p>室内では人形遊びやレゴ、ラキューをしていたり、工作で剣や鉄砲を作ったりする子がいた。</p> <p>新しい遊具を冬休み前に追加し、人形やぬいぐるみで遊ぶ子やボードゲームやカードゲームで遊ぶ子がいた。特にミニカーリングは人気で、入れ替わりでよく遊んでいた。</p>	<p>《豚汁パーティ 7日(土)》 81名が参加した。スライドを見た後、外でドッチボールを行った。保護者の方も参加して楽しんだ。ドッチボール後は室内でシルエットクイズを行い、豚汁をみんなで食べて、楽しい会となった。</p> <p>《3年生遠足 21日(土)》 新江ノ島水族館に欠席なく全員で行けた。各グループで回るルートを考えた。ロマンスカーでお菓子の交換を行ったり、自分でお金の計算をしてお土産を買ったりとみんな楽しんだ様子だった。</p> <p>《大掃除 27日(金)》 各グループの床・窓・マットをそれぞれ学年ごとに分かれて掃除を行った。雑巾が足りずに交代で使っている子もいた。汚れた雑巾を見て、「1年間でこんなに汚れがたまるんだ」とびっくりしながら掃除していた。</p>	
1月	<p>天気の良い日は外に出てドッチボールをする様子が多く見られた。1年生が上級生を当て、周りの子が褒めるなど子どもたちが良い関係を築いているのが確認できた。室内では新しく購入したレゴで遊ぶことが多かった。特定の子が独占している状況になってしまったので、子どもたちとどのようにしたらみんなが気持ちよく遊べるか話し合った。その結果子どもたち同士で譲り合う姿が見られるようになった。</p> <p>マイコプラズマ肺炎やインフルエンザで欠席する子が多く、月末には学級閉鎖をするクラスが出てきた。対象児童は図書室で過ごすなどして感染が拡大しないようにした。また施設でも除菌噴霧器を設置し環境を整えた。</p>	<p>《ひなの会 10日(金)》 3冊をひなの会の方を読んでもらった。事前にお話しを聞く時のマナーを子どもと確認したこともあり、3冊読み終わるまで集中して聞くことができていた。</p> <p>《誕生日会 22日(水)》 1月生まれの子を対象に誕生日会を行った。天候が悪く寒いためおやつをパフェからロールケーキに変更したところ、好評だった。</p>	3年男子1名、4年男子1名退所
2月	<p>インフルエンザが出て1年生と2年生のクラスで学級閉鎖もあった。閉鎖時の利用は1年生は4名、2年生は2名だった。前半は登所人数も少なく、学級閉鎖があった1週間ほどは30名弱の利用となった。</p> <p>外ではドロケイやドッチボールが流行し、男女学年関係なく遊んでいる姿がよく見られた。3、4年生が遊びの中心となって1、2年生をまとめ、みんなで楽しむことが出来ていた。室内ではレゴやラキューを使って家を作ったり、児童館から借りたポッチャでよく遊んでいた。</p> <p>3年生は卒クラブを祝う会に向けての準備を始めた。保護者へ感謝の手紙を書いたり、卒クラブアルバムを準備をしたり、歌の練習をしたりとやる事がたくさんある中、みんな非常によく頑張っていた。</p>	<p>《防犯教室 12日(水)》 「知らない人に声を掛けられたらどうする？」というシチュエーションをロールプレイング形式で子どもたちと共に考えた。</p> <p>《誕生会 19日(水)》 2月生まれの子を対象に誕生会を行った。おやつは先月好評だったロールケーキを出した。</p> <p>《学年会議 26日(水)》 学年ごとに分かれて今年度の振り返り、次年度の目標を決めた。</p>	1年男子2名 1年女子4名 2年男子3名 3年男子4名 3年女子2名 4年男子1名 4年女子1名 合計17名が退所 そのうち数名は利用自粛のために退所。次年度から利用予定の児童もいる。
3月	<p>新型コロナウイルスの影響でいつもとは違う流れとなったが、子どもたちは柔軟に適應していて特に大きな混乱はなかった。出席率は6割ほどで、登所する子はほとんど毎日同じだった。また割合として2、4年生の利用が多かった。</p> <p>コマ遊びが流行し、長い時間をかけて技を練習する子がたくさんいた。子どもたちの食休みの時間に見れるDVDを児童館に借りてた。</p> <p>学童クラブの対応が日に日に変わるので、保護者の方からの問い合わせが毎日のようにあった。また、感染症対策として毎日遊具の消毒を行った。</p>	<p>《卒クラブを祝う会 14日(土)》 新型コロナウイルスの影響で延期になった。</p> <p>《児童館見学 24日(火)》 新型コロナウイルスの影響で延期になった。</p> <p>《誕生会 25日(水)》 誕生会としては開催せず、メッセージカードのみを渡してパフェを食べた。</p> <p>《進級お祝い会 30日(月)》 予定していた遊びは出来なかったが、登所した子どもたちは事前に用意していたスライドとおやつを食べて楽しんだ。</p>	

2019年度 貝取学童クラブ 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研修 対象	備考
1	施設長	第10回日本学童保育学会	日本学童保育学会	大阪市立大学	6月29日(土) 30日(日)	学童保育における子ども主体の生活・ 文化創造と企業による社会貢献活動		○	
2	施設長	三多摩フォーラム	三多摩連協	首都大学	7月21日(日)	「ただいま!」「おかえり。」 放課後の家族		○	
3	正職員	三多摩フォーラム	三多摩連協	東京都社会福祉保健 医療研修センター	10月1日(火) 2日(木)	「ただいま!」「おかえり。」 放課後の家族		○	
4	正職員	三多摩フォーラム	三多摩連協	東京都社会福祉保健 医療研修センター	10月1日(火) 2日(木)	「ただいま!」「おかえり。」 放課後の家族		○	
5	主任	中堅職員研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健 医療研修センター	10月1日(火) 2日(木)	中堅層研修			
6	正職員	全国学童保育研究集会	全国学童保育連絡協議会	京都パルスプラザ 龍谷大学	10月19日(土) 20日(日)	「働きながらの子育て」		○	
7	主任	中堅層研修	法人幹部研修委員会	こぐま保育園	10月23日(水)	こぐま保育園園長講演			
8	主任	中堅層研修	法人幹部研修委員会	上北沢こぐま保育 園	11月16日(土)	「人材育成について」 「情勢学習」			
9	主任	中堅層研修	法人幹部研修委員会	こぐま保育園	12月11日(水)	ディベート 碓保育園高橋園長講演			
10	施設長	福祉施設経営研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健 医療研修センター	2月4日(火)	施設長のための社会福祉法人会 計入門研修			
11	主任	福祉施設経営研修	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉保健 医療研修センター	2月10日(月)	施設長のための社会福祉法人会 計入門研修			
集計					11				

有期職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリア パス 該当	自主研修 対象	備考
16	有期職員	美術の研修	こぐま保育園	こぐま保育園	9月13日(金)	絵を聴く保育			
集計					1				

2019年度 貝取学童クラブ 参加研修一覧

学童クラブ全体の研修他							
NO.	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	対象者	備考
1	たま研	社会福祉法人多摩福祉会 学童クラブ職員	貝取学童クラブ	6月27日(木)	今年度開催の打合せ	正職員 有期職員	
2	たま研	社会福祉法人多摩福祉会 学童クラブ職員	貝取学童クラブ	7月10日(水)	明星大学名誉教授 垣内先生講演会	正職員 有期職員	
3	学担研修	多摩市	教育センター	9月10日(火)	応急処置	正職員 有期職員	
4	課内研修	多摩市	ベルブ永山	9月17日(火)	特別支援教育について	正職員	
5	学担研修	多摩市	教育センター	10月1日(火)	人権	正職員 有期職員	
6	課内研修	多摩市	ベルブ永山	10月25日(金)	子どもは夫婦の関係性をみて育つ	正職員 有期職員	
7	学担中級編	多摩市	愛和小学童クラブ	10月29日(火)	1日の流れ	正職員	
8	島田巡回相談	多摩市	永山小学童クラブ	10月30日(水)	作業療法 (OT) の視点で子どもと関わる	正職員 有期職員	
9	学担研修	多摩市	教育センター	11月19日(火)	災害時対応	正職員 有期職員	
10	学担研修	多摩市	教育センター	12月10日(火)	発達支援室	正職員 有期職員	
11	学担中級編	多摩市	愛和小学童クラブ	11月26日(火)	行事について	正職員	
12	学担研修	多摩市	教育センター	12月17日(火)	子どもの見立て	正職員 有期職員	
13	学担中級編	多摩市	愛和小学童クラブ	12月19日(木)	保護者対応について	正職員	
14	学担研修	多摩市	教育センター	1月28日(火)	子育て総合センター	正職員 有期職員	
15	学担基礎編 (全3回)	多摩市	市内学童クラブ	5月から9月	1日の流れ・保護者対応・余暇支援	正職員 有期職員	
集計						15	

2019年度 永山学童クラブ事業報告

2020年6月6日

1. 児童状況

- (1) 定員：70名
- (2) 育成年齢：6歳～11歳（小学1年生～4年生）
および、特別支援学級、特別支援学校に通う児童は5、6年生まで対象
- (3) 育成時間：学校下校時～19:00、学校休業時8:00～19:00
- (4) 学年別状況：（3月31日現在 在籍数24名 ※2月末に新型コロナ感染予防措置の影響で次年度継続して利用申請をしている児童6名を含む9名が退所した。）
1年生：7名 2年生：9名 3年生8名 4年生以上0名
- (5) 在籍児状況(3月31日現在)
 - * 要配慮児：7名
 - * モア利用者：月利用 2名（うち要配慮児1名） ※年度当初は8名（うち要配慮児2名）
一時利用 平均 1~2名

2. 職員状況

- (1) 正職員：4名（うち1名は短時間職員）
- (2) 有期契約職員：6名
 - 4時間×週5日 1名
 - 4時間×週4日 3名（うち、2月より採用1名、3月より採用1名）
 - 4時間×週3日 1名（7月より採用）
 - 7時間×週1日 1名（土曜日専任）夏休みアルバイト 1名
- (3) 職員研修・資格取得について(主だったもの)（詳細は別紙参照）
 - ・多摩市の学童担当者会議（学担）6回、中級編3回、基礎編3回、多摩市課内研修2回をそれぞれ施設長と正職員が受講した。
 - ・法人の中堅層研修3回を正職員1名が受講した。
 - ・全国学童保育合同研究集會に正職員2名が参加した。
 - ・三多摩学童保育フォーラムに施設長と正職員3名が参加した。
 - ・法人内三学童クラブ正職員による「たま研」（多摩市法人研究会）で相互に施設見学

を行い、意見交換をおこなった。

- ・ 正職員 2 名が東京都放課後児童支援員認定資格研修を受け資格を取得した。
- ・ 保育試験について未取得の職員が取得に向けて取り組んでいる。
- ・ 新人職員がアレルギー対応の研修を受けた。

3. 2019年度の課題についての取り組み

① 子ども達を 2 つのグループに分けて育成を実施しきめ細やかな育成を目指したことについて

- ・ 昨年度からグループ制に取り組みそれぞれのグループでおやつや帰りの会の進行を子どもに任せる機会を設けたことが子ども達に定着した。日頃、人前に立つことが苦手と思われていた子どもが進行役を務めることも増え、そのことをきっかけに行事などの他の活動においても子ども達が積極的に前に出て活躍することが増えてきた。
- ・ 職員からは、以前よりも子ども達に声がけしやすくなったという感想が出された。在籍人数が少ないということもあるがグループ制でさらに人数を少なくすることによって一人一人をよく把握し、個性に合わせたサポートが出来るようになってきた。このことがさらに子ども達が自分らしく意見を述べたり主体的に活動したり出来るような環境を作ったと思われる。
- ・ 子ども達のグループ制についての意識が高まってきたのか、昨年度はいつも同じメンバーでいることに対する不満の声があったが、今年度は嫌がる子どもは少なかった。ただ、一部の要配慮児童間でトラブルが続くためグループを変える配慮が必要になった。
- ・ 課題としては、それぞれのグループ独自の活動があまりできていなかったことがあげられる。
- ・ 今年度の振り返りを職員で行おこなった際にグループを超えて学童クラブ全体の行事などの活動はよく取り組んできたが、グループ内の活動では子どもが生活班（座席）を考える程度のみで、もっとグループ内で考えて取り組む活動があってもよかったのではないかという意見が出された。次年度は意識的にグループごとの活動について時間をとって取り組んでいきたいと考えている。

② 年間を通じての野菜作りに取り組むことについて

- ・ 夏野菜については、子ども達の意見を取り入れ、定番のトマト、キュウリなどの他にトウモロコシやオクラなどをプランターで育てることに今年も挑戦した。トマト、キュウリ、オクラはとても立派に育ち、おやつや昼食の時間に子ども達自身に調理を手伝ってもらいみんなで少しずつ食べることで食育も兼ねることも出来た。

また、それぞれの野菜の担当の子ども以外に係になっていない子どもも水やりなどの世話を一生懸命手伝ったことによって、子ども達全体で収穫の喜びを得ることが出来、よい経験になったと思われる。しかし年間の野菜作りは今年度も出来ず、一年を通して野菜作りに取り組み季節の野菜を育てて食べるという目標は達成できなかった。その要因は、冬野菜の植え付けを夏野菜収穫後まもなく夏休みの終わりごろから時間のある時に取組まなかったため、二学期に学校が始まってからは授業時間との兼ね合いから春先のように野菜を植え付け育てる時間が十分取れなかったことと、さらに子ども達からも学校で野菜作りをしていたり学校行事の準備に疲れていたりで主体的なやる気を引き出すことが出来なかったためだった。

- ・ 昨年度出来なかったのが今年度こそということで考えた活動であったが、今回も出来なかったことをもう一度職員間で考え直し、次年度は、学童クラブの育成目標と照らし合わせ「自立して生活が出来ること」に主眼をおくことにし、年間を通して野菜を育てることから野菜作りは夏野菜のみとして年間を通じて「料理に携わる」ことで「卒クラブ後に自分で自分のことが出来ることを増やす」という活動に切り替えることとした。

③ 職員会議の実施と職員の協力体制について

- ・ 昨年度に引き続き、毎日の打ち合わせに加え、全職員で会議を行うことで活動内容や支援目標、グループを超えての要支援児を含めた子どもの状況についての意見交換と情報共有に取り組んできた。さらに今年度は 正職員が法人内の職員研修「たま研」で他施設との交流活動の中で学んだ月案会議の方法を取り込んだことで、以前の全職員会議よりも内容が整理され進行がスムーズになり話し合いの時間を多く取ることができた。
- ・ 課題として正職員間の会議の時間についてグループ制の取り組みや行事の事前事後の話し合いにもう少し時間を取るべき点があげられた。
- ・ 行事や日々の育成に関して担当した職員とその職員が不在の時に手伝った職員の間で細やかに意図するところを話し合ったり作業内容や行事の際の配置を引き継ぎ確認したりすることが不足していたことがあった。次年度は、施設長を含め正職員が3名となり、今年度以上に振休や研修、会議の出席などで3人が顔を合わせた会議時間が少なくなると思われるため、会議の設定や伝達方法の工夫をしっかりと考え取組まなければならない。この点に加え、次年度も子どもの主体的な活動をどのようにとらえるか、大人がどのように支援するかなどについても引き続き職員間でしっかりと話し合い共通認識をもって育成にあたるよう丁寧に取り組みたいと考えている。
- ・ グループ担当について、昨年度と同様に正職員は新人職員も先輩職員と組んでそ

それぞれのグループを担当することにしたが、有期契約職員については今年度もグループの担当を決めず主に要配慮児童の様子を交代で見てもらおうようにした。年度の後半は、月目標を意識して育成にあたるように一か月間は同じ子どもに付いてもらうようにした。その結果、子どもの成長や特性にあった関りを心掛けられ会議でその子どもの様子をじっくりと聞き取ることができた。そして、職員間でその状況と関連機関からの情報を共有し協力しながら育成することが出来た。

- ・ 今年度いっぱいまで退職する有期契約職員から仕事や要配慮児童のことを引き継いでもらうために次年度にむけて新規に採用した有期契約職員にはそれぞれ2月、3月から一緒に勤務してもらった。

④ 職員の資質の向上について

- ・ 研修の案内は職員全体に回覧などで周知するように働きかけた。研修内容は職員全体で共有した。
- ・ 今年度は、新人職員だけでなく育休から復帰した職員や今後研修を担う中堅の職員にも基礎を学ぶ研修には参加してもらうようにした。
- ・ 多摩市の学童担当者会議の基礎編、中級編について、多摩市の全施設長が3つのテーマに分かれて講師を担当する形をとっているが、今年度も多摩福祉会の施設長は余暇支援について担当するグループに所属し永山学童クラブの施設長は基礎編の余暇支援の内容の一部の講師を務め職員とともに基礎の内容を再確認した。
- ・ 中堅職員は東社協の中堅層向けの研修や法人、多摩市双方の中堅者研修に参加し、今後施設運営に関わる意識の向上をはかった。
- ・ 正職員は法人合研や「たま研」など積極的に個人の研修に取り組み、他施設の見学もおこない自施設にその内容を持ち帰り情報を共有し取り入れて育成や施設運営に活かした。

4. 子どもたちの様子

- ・ 昨年度と同様に在籍児童数が定員に対して少なくゆったりとした空間の中でのびのびと過ごせていた。
- ・ 外遊びが好きな子どもが多く、隣接する公園だけでなく、時間があるときには小学校の校庭や少し遠いが広いスペースのある公園に出かけてサッカーや鬼ごっこをする機会を設けた。また、今年は野球やバトミントンなどの道具を増やしたところ、それらによって遊びの幅が広がった子どももいた。室内では、LAQなどの工作物やマグネットドールハウスなどで遊んでいた。遊びは、学年男女関係なく、遊びたいもので一緒に遊んでいた。
- ・ 子ども同士で遊べない、大人と遊びたがる子どもや外遊びに行きたがらない子どもも一部いたので、狭い範囲での鬼ごっこなど遊びを工夫し最初は大人も入って

遊ぶようにしてその後は子ども同士で楽しく遊べるようにした。

- ・ 各グループでおやつや帰りの会の進行を子ども達が行うことが定着してきたところで、さらに、その係をどのように交代するかなどのルール作りや生活班を子ども達が主体的に決めるようになった。
- ・ 昨年の3年生の課題であった社会経験が少なかったり自立に向けての準備が出来ていなかったりするという点に関しては今年も同様の課題があるととらえ、3年生に限らず、「お留守番講座」の実施や普段のおやつのお買い物（3年生はお別れ遠足の自分のおやつのお買い物）などの活動を通じて卒クラブ後の生活で自分のことを自分で考えて行動できるようにする機会を設けた。
- ・ 次年度むけて卒クラブする3年生が少なく、4年生になってもひとりでの留守番に子どもまたは保護者が不安で学童クラブに残る意向の家庭が多い。一方で、学校でも放課後の生活が不安だと思われる家庭の子どもだが自由に遊びたいという子どもの意向から1, 2年生で学童クラブを辞めてしまう家庭もあった。学童クラブの利用は保護者が決めるものであるが、面談などで保護者や児童に卒クラブ後の生活がきちんとできるように計画的に取り組むことを働きかけることも上記のような卒クラブ後に自立できる力を在籍中に育成していく活動とともに取り組んでいかなければならないと考えた。
- ・ 子どもの間で自分の気持ちを言葉で適切に伝えられず暴力や暴言がでてしまったり、相手の気持ちが理解できなかったりというトラブルが多くみられた。そこで、島田療育園の先生のアドバイスを受け、職員がそういった日常のトラブルの3つの場面とそれぞれの適切なやり取りの一例を「どらえもん」のキャラクターに扮して演じビデオに撮ったものを子ども達に見せながら一緒にどのようにしたらよいかを考えるという「気持ちの伝え方講座」をやってみた。その後、子ども達がトラブルを起こした時にその内容をフィードバックすることで子ども達も自分のしたことを振り返りどうすれば良かったかを考えるきっかけになっていた。次年度もこの講座は続けていきたいと考えている。
- ・ 夏の一時入所は卒クラブ生を含む、2年生3名、4年生4名だった。そのうち要配慮児童は1名だった。夏のみの利用の子どもも在籍児ともすぐに馴染み一ヶ月を楽しく過ごしていた。

5. 家庭との連絡について

- ・ 毎月の学童クラブだよりを発行したり、行事などの様子を写真に撮ってファイルしたアルバムを用意したりして保護者には子どもたちの様子や行事などを伝えた。アルバムは個人面談で具体的な子どもの様子を伝えるにあたり保護者に分かりやすく次年度も続けていきたいと考えている。
- ・ 保護者会では例年通り日頃の様子をスライドで見せたりおやつを試食をしてもら

ったりすることも継続しており学童クラブの生活の理解を深める機会となっている。さらに今年度は新しい試みとして子ども達の日頃の遊びを紹介しそれで一緒に遊んでいただきながら保護者同士のコミュニケーションを図るきっかけを作った。

- ・ 保護者同士が交流する機会として6月に親子交流会をおこなっていたが、さらに日頃の様子から保護者同士あるいは親子で互いに理解を深める場がもっと必要ではないかと考え、8月に熱中症予防の理由で中止となった貝取学童クラブとの施設間交流の代わりに昼食会と水遊びを兼ねた「水かけ祭り」という親子交流の場を設けた。年間計画に当初入れていない行事であったので参加者は少なかったが、そこで出された保護者からの意見や事前アンケートによると保護者も交流の場を設けることには異論がない様子だった。また具体的に、夕飯を親子で作って食べる行事の提案があったので次年度取り組んでみる方向で検討したい。
- ・ 連絡帳を使って様子を伝え合ったり、送迎のある保護者には直接子どもの様子を伝えたり家庭の状況を聞いたりということは以前と同様に大切にしている。特に子ども同士のトラブルについては電話や直接会って伝えるようにした。怪我につながるようなトラブルに関しては場合によっては双方の保護者に来ていただき子どもも交えて実際に起きたことを伝え、今後同じようなことが起こらないようにどうしたらよいかを一緒に考えていただく機会を設けた。その際は学童クラブとしても怪我に至らないように防ぐことのできなかった状況をきちんと伝え再発防止に努めることもお伝えした。
- ・ 年2回の個人面談期間を設け家庭と協力して子どもの育成に努めた。上記、「4. 子どもたちのようす」にも記したが個人面談では卒クラブにむけての取り組みについても話題とするようにし、特に卒クラブするお子さんと保護者には、三者面談を行い、留守番についての不安を聞いて具体的な留守番の練習の提案をしたり放課後の生活プランや過ごし方の約束を一緒に考えたりした。
- ・ 父母会と協力して親子交流会や昼食会などの行事をおこなった。残念ながら新型コロナウイルスの感染予防のために進級お祝い会は中止とさせていただいた。保護者からは残念に思うとの意見も寄せられたが中止については理解を得られた。父母会からの記念品は学童クラブの記念品などと一緒にひとりひとりに渡す形をとった。

6. 地域、学校、専門機関などとの連携

- ・ 1ヵ月に1回の青少年問題協議会に出席し地域の方たちと情報交換をしたり、乳幼児ネットワーク会議に出席して地域の関連機関との情報交換をおこなった。
- ・ 子ども家庭センター(旧 子育て総合センター)などの関連機関との情報を共有して相互に子ども達と家庭のことを理解して協力し支援することには今年度も努めた。在籍児だけのことではなく、在籍しているときに子ども家庭センターとの関り

があった卒クラブ生からの相談も受けることがあり、児童館と連携しながら支援することが出来た。

- ・ 小学校とも子どもの様子や家庭状況を共有し配慮の必要なお子さんの支援や関連機関につなぐなど協力して取り組んだ。
- ・ 島田巡回相談を受け、子どもの理解の仕方や育成に関する具体的な手法などを学び、日頃の育成に活かしたり「気持ちの伝え方」講座などをおこなったりした。
- ・ 今年度は永山学童クラブと永山小学童クラブを卒業した多摩永山中学校の生徒3名を職場体験として受け入れたり、夏のボランティアで卒クラブ生1名を含む高校生が来所したりした。
- ・ こぐま保育園との交流については子ども達の交流を2回おこなった。その交流会の打ち合わせを兼ねてこぐま保育園の先生方に来所していただき、子ども達の生活や遊びの様子を見ていただく機会があった。また、コロナウイルスの感染予防にあたり職員体制に悩んだ際にはこぐま保育園から応援の申し出をいただいた。実際には利用者が減り、施設内で育成の体制を整えられたので来ていただかなかったが、今後も普段から交流をしていく機会を設け、互いに助け合う関係づくりを心当たたいとおもっている。
- ・ 永山小学童クラブと土曜日の育成時に交流を図り合同で育成をおこなった。

7. その他 環境整備について

- ・ 昨年度、玄関に通じる外階段にすべり止めを付けてもらったが、それが一年も経たないうちに剥がれてきたのでその状況を写真に撮り児童館館長を通じて市に依頼し、しっかりとした形のすべり止めに付け替えてもらった。

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・定員70名に対し入所人数が40名、そのうち1年生は8名だった。 ・例年通り上級生が新入生の世話をよくしてくれることもあったが兄弟が在籍している1年生が大半だったこともあり例年よりも学童クラブの生活に早くから慣れ班の食事後の片づけの係などに積極的に手をあげて取り組んでいる姿がみられた。 ・2019年度も子ども達を住んでいる地域を基本として北組と南組の2つのグループに分け育成を行うことにした。昨年同様4月当初は新入生が慣れるまで大人が帰りの会やおやつ時間の進行をしたがその後は子ども達に任せた。 	<ul style="list-style-type: none"> 11日 避難訓練 地震発生時の身の守り方 17日 新入生歓迎会 2年生女子が作ったメッセージカード、メダル、折り紙をプレゼントしたり4年生の進行でダンスや手品、ピアノ演奏と歌を披露したりクイズを出したりして1年生をたのませた。また外に出てみんなでドロケイをしたり2年生男子が作ったクレープをおやつに食べた。 19日 春の保護者会 おやつを試食をしていただき、各学年の様子、支援目標と年間計画を伝え降所路確認をした。 35 55 中帯中26 世帯出席 24日 誕生日会 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間については学校が始まってから1週間ほど学校まで迎えをし道順や危険箇所を確認した。降所については4月初めから2週間ほど1年生の帰宅路を確認しながらパトロールをおこなった。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・5月にしては暑い日が続く中、多くの子どもが外で学年男女関係なく鬼ごっこ、サッカー、バスケやバドミントンなどで遊んでいた。 ・3年生の男子は虫に夢中になり、蟻を捕まえて卵を産むところまで観察していたり、学校の池で捕まえてきたヤゴを学童クラブに持ってきて自分たちで図鑑で調べ、それでもわからないことがあると職員にき聞きながら育てたりしていた。 ・グループで進行を子どもがするようになり人前に出るのが苦手な子も取り組むようになった。グループによっては進行役が前に立つても静かに話を聞かざるさかつたため子ども達と座席の検討をした。 ・コマやけん玉で遊び検定にも挑戦出来るように検定表を作った。子ども達はお互いにコマの回し方を教え合ったり何度も練習したりする様子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 15日 避難訓練 引き渡し訓練 (地震) 13日~17日 工作週間 木のコマに色を塗ったりシールを貼ったりして自分のコマを作って学童クラブで遊べるようにした。コマ台も子ども達が鋸やトンカチを使って作った。 21日~6月1日 面談週間 1年生と希望者を対象に行い、入所から2カ月間の様子を伝え家庭での様子をうかがった。 22日 防犯安全教室 不審者に遭遇した時の対処法、「いかのおすし」の合言葉の確認 29日 誕生日会 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生1名退所
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨の時期が晴れた日が多く、ほとんどの子どもが外遊びをしていた。特に公園の滑り台の周囲だけで「ぐるぐる鬼ごっこ」を大人数でよくしていた。この遊びは鬼がどんどん代わるため飽きずに楽しく続けられ、走るのが苦手な子もみんなとひとつの遊びを長く続けるのが苦手な子も参加出来ていた。 ・雨の日には 段ボール工作やレゴブロックで遊んだり、ボードゲームをしたりするだけでなく、水曜日と木曜日にはコマやけん玉の検定に挑戦していた。 ・テラスでの菜園作りに今年も取り組み、ミニトマト、キュウリ、オクラ、トウモロコシ、ゴーヤを育て始めた。テラス農園の名前は子ども達が「すくすくのうえん」と決め大人が声をかけなくても水やりなどの世話をしていた。 ・北組では3年生が主体となって席替えをした。 	<ul style="list-style-type: none"> 10日 避難訓練 地震と火災 15日 親子交流会 父母会と共催で永山小学校体育館を借りて親子の交流をおこなった。子ども達が考えた〇×ゲームやしっぽとり、ドッジボールやドッチビーで遊び、そのあとは保護者の作ったカレーを食べた。親子兄弟など77名参加 19日 歯科衛生士による歯科指導 1年生は第一臼歯の大切さ2年生以上は噛むことの大切さを教えていただいた。 26日 誕生日会 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生2名退所 ・3年生1名入所 (海外から夏休みの間のみ入所)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・雨が降ることが多かったため雨の日用の玩具を使って遊んでいることが多かった。特に人生ゲームが人気で男女関係なく遊んでいた。また、剣玉やコマの検定に挑戦し合格する子どもが多かった。 ・7月後半からは急に気温が高くなり、熱中症の危険指数が高い日には室内で雨の日用の玩具を使って遊んでいた。男の子は段ボールやソフトブロックでゲームに出てくるような武器を作って戦いごっこをしたりしていた。夕方熱中症危険指数が下がってから外遊びをした。 ・土曜日に永山学童クラブと交流する機会をもった。 ・テラスで栽培した野菜のうちキュウリやミニトマトができ始め、キュウリは切って塩もみする子ども達も手伝ってみんなで少しずつ食べた。 	<ul style="list-style-type: none"> 10日 プチ映画会 13日 小学校の午前授業のあと永山学童クラブで大人CAP実施 17日 誕生日会 19日 避難訓練 予告なしで地震を想定しておこなった 22日 子どもCAP 26日 学童クラブ主催の昼食会 29日 映画会 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生1名退所 ・熱中症情報をこまめにチェックし、熱中症予防に経口補水液や塩タブレットを用意したり、気温を考慮して外遊びをサッカーや鬼ごっこをしてもよいか、虫捕りや水鉄砲を使った水遊びだけにすることを決めたりした。 ・夏休みに入ってから学校プールもあったので午睡した。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も熱中症危険指数が高く光化学スモッグも発生し外遊びができない日が多かった。 ・子ども達は室内でカプラとドミノでピタゴラスイッチを真似た装置を作ったり、オリジナルのボードゲームを作ったりと遊びを工夫していた。また、育成時間が長いので日頃できない、ファンルーム(ゴムでの編み物)で指輪やブレスレットを作ったり、針と糸を使ってフェルトでカード入れやブックカバーを作ったりして過ごした。 ・夕方少し気温が下がったところで虫捕りやサッカー、水鉄砲を使っての水遊びをした。プラスチックのバットと柔らかいボールを用意し野球が出来るようにしたところ、今まで遊んだことのない子どもも遊ぶようになった。 ・テラスの野菜はキュウリ、ミニトマト、オクラは収穫できたが、ほかの野菜は高温やゲリラ豪雨、台風などにより昨年のように収穫できなかった。 ・簡単な調理を子どもも手伝って収穫した野菜を食べた。今までオクラをあまり食べたことがない子どもが、収穫したオクラを茹でて薄切り醤油とおかかかであえたものを食べたところ「美味しかった」とおかわりしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 8日 貝取学童クラブとの交流会は熱中症の危険から中止 映画会 9日 避難訓練 23日 水かけ祭り 貝取学童クラブとの交流会がなくなったので夏の行事として子ども達の意見も取り入れ水遊びを企画した。親子の交流を図る目的で保護者にも参加を呼びかけ、水鉄砲や水風船を使っての水遊びをしたあとは昼ご飯に保護者が職員と一緒に作った炊き込みご飯のおにぎりや豚汁をみんなで食べた。 26日 父母会と共催行事昼食会 カレーとハヤシを食べた 26, 27日 こぐま保育園の先生方が来所し交流会にむけて学童クラブの子ども達の生活や遊びを見学した。 28日 誕生日会 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の一時入所:2年生3名4年生4名 ・通年入所:2年生1名 ・隣接する公園にスズメバチが多く来るため蜂のよく来る木に殺虫剤を噴霧したり子ども達に蜂についての注意事項を伝えたりした。 ・7月に引き続き熱中症に注意した。 ・ボランティアの高校生3名来所。うち1名は卒クラブ生だった。 ・南組のエアコンの効きが悪かったので段ボールやすだれを使って陽を遮り室温が高くなるのを防いだ。 ・始業式の1週間前午睡を止め生活を戻した。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・長い夏休みの生活から通常の生活にしっかりと戻ることが出来ていた。 ・涼しくなり外遊びの機会が増えた。落ちていた木々を集めて家を作ったり、落ちていたどんぐりに顔や絵を描いたりして遊んでいた。室内でもカプラで大きなタワーを作ったり段ボールで家を作ったり子ども達の創造性が光る場面が見られた。 ・10月に行われるお店屋さんの準備にも取り掛かりどんな店をやりたいかを決め、招待するこぐま保育園生が楽しめる工夫を考え景づくりを始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 3日 多摩市児童館学童クラブ総合防災訓練 11日 防犯安全教室 帰宅時にどこに注意して鍵を開けるか、どんな危険が想定されるかなどをDVDを見ながらみんなで考え学んだのち、クイズ形式でその内容を復習した。また、身を守る合言葉「いかのおすし」(いかにない、乗らない、大声を出す、知らせる)を確認した。 18日 誕生日会 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の運動会の練習で子ども達に疲れが見られるため、学童クラブでは行事は入れず、ゆっくり過ごすようにした。

10月	<ul style="list-style-type: none"> 不安定な天気の日もあったが晴天の日には外遊びでサッカーや鬼ごっこなど体をいっぱい使った遊びに夢中になっていた。雨天時は外に出た室内を走り回る子どもがいたので卓球をしたりポッチャを児童館に借りたり室内で体を使って遊べるものを取り入れた。 こぐま保育園の年長さんを招いてのお店屋さんでは、綿あめ、焼きそばとラムネ、輪投げ、おみくじ、キックターゲツ、衣装レンタルのお店をそれぞれ担当し、優しく保育園生に接しながら自分たちも楽しんでた。 ただ、準備時間に職員が目を見失ったときに要配慮児童と他児の間でトラブルが起き怪我をさせてしまった。この件について、職員間で状況を分析し今後同じことが起こらないように防止策を含めて保護者に事実を説明した。同時に、子ども同士が、同様のことをしないように双方の親子で話し合いの場を持った。 	<ul style="list-style-type: none"> 4日 帰宅別地区懇談会 冬の降所時間を決めてもらった。降所時間は例年通り時間に決まり22日から冬時間降所を開始することになった 16日 お店屋さん 子ども達で準備するものを話し合いこぐま保育園の年長児童40名に楽しんでもらう工夫をしていた。 17日 お留守番講座 事前に家庭で話し合っけて記入してもらった「お留守番ノート」を使って各家庭の約束事を参考にし留守番の約束事のポイントを確認した。鍵を紛失した時はどうするか、友達と遊んだ時の帰宅時間は何時かなどの約束事を確認した。 18日 避難訓練 地震 28日から11月16日 全員対象の個人面談 30日 誕生日会 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生1名退所 4年生1名退所
11月	<ul style="list-style-type: none"> 施設に隣接する公園で落ち葉を集めてベッドを作ったり落ちていた枝を使って基地を作ったりして遊ぶ姿が見られた。過ごしやすい天気の日には全員が外に出て遊ぶこともあった。 時間のあるときには永山小学校の校庭に行き、広い校庭で思いっきりサッカーや鬼ごっこ、ドロケイをして遊んだ。 ドロケイではオリジナルのルールをみんなで考え、泥棒と警察のそれぞれのチームを3年生男子が引っ張り作戦を立て、勝ったときにはチームみんなで遊ぶ姿が見られた。 12月に行われるお楽しみ会について話し合った。自分たちで出し物やケーキ作りや司会などの係を決め、それぞれ練習や準備を始めた。 一部の子ども達が11月に入ってから登所時に落ち着かない様子で部屋の中を走り回り物を投げたりすることが多く怪我をしてしまったこともあったため全体に注意をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 10月28日～11月16日 個人面談実施 全員対象におこなった。3年生の保護者の方には卒クラブに向けての話をした。 11日 避難訓練 火災 13日 「気持ちの伝え方」講座 適切な言葉ではなく暴言暴力で自分の気持ちを表したり相手の気持ちを読み取れなかったりする子どもが多いので、島田療育園の先生のアドバイスをもとにそういう場面を職員が演じたものをビデオに撮って子どもに見せながら一緒にどうするのがよいかを考えた。この後、トラブルがあった際にこの講座の内容を思い返させると子ども達が自分の行動の間違いに気づくことが出来た。 20日 誕生日会 25日～29日 工作週間 プラバンでキーホルダー作り 27日 焼き芋パーティー 児童館のドラム缶オーブンを借りて焼き芋を焼いたりおき火でマシュマロを炙っておやつに食べた。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生1名退所 4年生1名退所 多摩市永山中学校から3名の生徒が職場体験に来所した。永山小学童クラブと永山学童クラブの卒クラブ生だった。
12月	<ul style="list-style-type: none"> 寒さが厳しくなってきたも外遊びが好きで鬼ごっこや棒タッチ(缶蹴りの缶の代わりに棒を使った遊び)などの遊びを楽しんでいた。 室内では お楽しみ会でもらったくるくるスロープや着せ替えドレッサーなどのおもちゃでよく遊んでいた。 1年生はこぐま保育園交流会について話し合いをしたり、保育園生にプレゼントとしてあげられるおもちゃを作ったりした。 3年生は遠足の行き先について職員と一緒に各場所のよいところとそうでないところを比較しながら話し合っけて決めた。今年度も新江ノ島水族館になった。 お楽しみ会では 自分のやりたい出し物を何度も練習して緊張ながらも頑張って本番に披露した子どもがいたり、出し物に参加するのは恥ずかしいが謎解き宝探しには積極的に参加してチームを助ける子どもがいたり、ケーキ係でケーキのデコレーションを頑張る子どもがいたり、それぞれが自分の思いのままの形で参加していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 11日 避難訓練 煙の怖さについて 13日 3年生保護者会 事前に子ども達が書いたお留守番アンケートを保護者にも当日書いていただき、内容を見比べて留守番についての考えの違いを確認してもらった。また、卒クラブ後のことや遠足について意見交換をした。 18日 誕生日会 25日 お楽しみ会 インフルエンザで職員と子どもが欠席したためプログラムの一部を変更したが、1年生から3年生までの有志がピアノ演奏やダンスやクイズやマジックなどの出し物をした。そのあと謎解き宝探しを4チームに分かれておこない宝探しで見つけた答えのプレゼントをサンタにももらった。おやつには職員が手作りで子どもがデコレーションしたケーキを食べた。 27日 大掃除・映画会 	<ul style="list-style-type: none"> 突然、生海老のアレルギーが出てしまった子どもがいたため、念のためおやつから海老を含むものを除去するようにした
1月	<ul style="list-style-type: none"> 室内ではお楽しみ会でもらったおもちゃが相変わらず人気で楽しそうに遊ぶ様子が見られた。 けん玉が流行り始め様々な技に挑戦していた。 外遊びの場面で、サッカーをあまり今までしたことのない子どもに対して周囲の子どもから失敗しても「ドンマイ」や「よくシュートを打ったね」という優しい声掛けがあり、みんなでサッカーを楽しむ様子が見られた。 一時的にグループをやめて1、2、4年生と3年生に分かれてそれぞれ活動するようにした。1、2、4年生は2月に行われるこぐま保育園の年長児童との交流について、3年生は遠足の計画についてそれぞれ話し合いをおこなった。3年生は遠足の準備の一環として今年度も小遣いの計画的な使い方や買い物の仕方を練習するために事前にみんなでおやつの買い物に出かけた。 	<ul style="list-style-type: none"> 10日 冬時間降所終了 14日 こぐま保育園との交流会(1年生) 1年生がこぐま保育園を訪ね、自分たちが作った紙コップ鉄砲や折り紙のプレゼントを渡し一緒に遊んだ。 29日 誕生日会 30日 避難訓練 火災 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生1名退所
2月	<ul style="list-style-type: none"> 遊びでは室内でも外でも学年や男女に関係なく仲よく遊ぶ様子が見られた。 生活班を進級を見据えた班編成にした。1年生は積極的に発言をし、2年生は班や遊びをまとめ、3年生は下の子どもがやりたいときや出来る時には見守り、手助けを必要としているときには助ける姿が見られ、それぞれに進級に向けての自覚が芽生えていると感じられた。 進級お祝い会にむけて、各自が進級にあたり決意を考え布にそれぞれ書き手形を押した。当日それを掲げて保護者に披露することに歌の練習も始めていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 1日 3年生遠足 新江ノ島水族館に全員そろって出かけた。事前に会議を開き遠足の約束事を話し合ったりグループごとに見学のコースを決めたりと準備をおこない、当日は大きなトラブルもなく無事に遠足を楽しんだ。 5日 こぐま保育園との交流会 1、2年生がこぐま保育園の年長児童を招待して学童クラブの遊びを紹介しながら一緒に遊んだ。 6日 避難訓練 地震 19日 誕生日会 29日 進級お祝い会 新型コロナウイルス感染予防のため中止 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染予防のために手洗いを職員も子どもも徹底するようにした。子どもには手洗いチェック表を用いた。また、施設内の消毒に努めた。3年生遠足では3年生にマスクの着用してもらった。
3月	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染予防の為、3月2日から学校が休校となり、学童クラブの利用を自粛する方が増えた。保護者からは子どもが残り1ヶ月間で留守番の練習する予定だったが突然留守番をすることになり不安から家族が帰るまで泣いていたという話や外で遊べないストレスから突然泣き出したという話が寄せられた。また、突然の学校の休業や学童クラブの進級お祝い会の中止で転校や卒クラブする子どもの保護者からお別れも言えなかったことを残念に思うとの話があった 	<ul style="list-style-type: none"> 4日 避難訓練 中止 13日・16日 3年生児童館見学 中止 17日 新入所説明会 多摩市より少人数で感染予防策をとる条件で開催してもよいとのことで 座席を離すなど工夫をし短時間で終わった。 18日 誕生日会 たまたま該当者が登所していたのでささやかながらお祝いをした。 25日 交通安全教室 中止 	<ul style="list-style-type: none"> 職員も子どもも1日3回の検温を実施し体調のチェックをおこなった。また全員マスクを着用するようにし距離をとって勉強や遊び、食事などをするように努めた。消毒はこまめにおこなった。 1年1名2年4名3年3名4年1名退所 外階段のすべり止め付け替えをした

学童クラブ全体の研修他

NO.	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	対象者	備考
1	基礎学担	多摩市	東落合学童・永山小・東寺方クラブ	年3回	学童クラブの仕事の基礎を学ぶ 一日の流れ・個人情報・余暇支援・保護者対応	/	新人および正職員	
2	学担	多摩市	教育センター	年6回	応急処置・人権・災害対応・発達支援室について・子どもの見立て・子育て総合センターについて	/	正職員	
3	課内研修	多摩市	ベルブ永山	年2回	・星山麻木教授「特別支援教育について」 ・子ども達の成長についてお母さんのカウンセリング	/	正職員	
4	中級学担	多摩市	愛和小学童クラブ	年3回	基礎学担の内容を深める	/	中堅正職員	笠井
5	島田1, 2年目研修	多摩市	愛和小学童クラブ	年1回	子どもの見立て・ABC分析	/	新人職員 育休から復帰の正職員	
6	島田エリア研修	多摩市	永山小学童クラブ	年1回	島田療育園OTによる子どもの見立てと関わり方	/	正職員	
7	島田巡回相談	多摩市	永山学童クラブ	年1回	施設内の子どもの行動の見立てと対応について	/	正職員	
8	たま塚(多摩福祉社会学堂クラブ研修会)	法人内学童クラブ	良取・永山学童クラブ	年3回(6・7・11月)	遊びの紹介・垣内理事長の講演・施設間交流	/	正職員	施設間交流は随時

有期職員

NO.	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
1	発達障害理解・啓発講座	多摩市	ベルブ永山	7月13日	堀内拓人・裕子親子の実体験より ADHDと自閉症スペクトラムの自分の見つけた未来 何を考えどう乗り越えてきたか	/	×	
2	救急救命講習	多摩市	ベルブ永山	9月8日	普通救急救命講習 AEDの使い方	/	×	

2019年度 貝取小学童クラブ委託準備事業報告

2020年6月6日

- (1) 委託場所：多摩市立貝取小学校内 多摩市貝取小学童クラブ
(多摩市豊ヶ丘学童クラブより移転と同時に名称変更)
- (2) 定員：80名
- (3) 育成年齢：6歳から10歳（小学1年生～4年生）
〈8月一時入所は6年生まで可
また特別支援学校、特別支援学級に通う児童は6年生まで通年入所可〉
- (4) 育成時間：学校下校時～19:00、学校休業時 8:00～19:00
- (5) 職員状況
正職員4名：施設長1名、支援員3名〈異動者2名、新規採用者1名〉
有期契約職員11名：新規採用者8名（うち豊ヶ丘学童クラブから継続者7名）
異動者3名（貝取学童クラブから）
- (6) 委託準備業務内容

〈児童に関すること〉

- ・ 2020年1月より3月まで豊ヶ丘学童クラブに於いて施設長、支援員1名と市職員とで新入所児38名の面談を実施した。
- ・ 1月より施設長と支援員1名、3月下旬よりさらに1名が育成に入り子どもたちと共に過ごし育成内容を確認し、子どもたちとの関係づくりに努めた。
- ・ 市職員から児童状況の引継ぎを受けた。
- ・ 降所指導に同行し、地域の把握、降所路の確認をした。

〈保護者に関すること〉

- ・ 保護者面談2件に施設長が立ち会い家庭状況の把握に努めた。
- ・ 3月13日（金）に全世帯対象の入所説明会を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため延期とし、3月25日（月）に感染防止対策をした上で豊ヶ丘児童館遊戯室と豊ヶ丘学童クラブ育成室の2か所に分けて実施した。職員も分かれ時間を短縮して行った。出席者は41名だった。
- ・ 保護者の会をなくす動きがあり保護者の会会長と何回か話し合った。多摩市の学童保育連絡協議会の役員が相談に乗り、今後の保護者の会の在り方について検討していたが、その後新型コロナウイルス感染防止のため会合が持てず課題を残したままになっている。

〈施設、備品に関すること〉

- ・ 遊具、医薬品の確認、不足品を購入するなど準備した。
- ・ 3月に入り誕生表等壁面制作に取り掛かった。

- ・ 施設長、支援員 1 名と市の職員とで建物の内装、外装についての打ち合わせを 2 回行った。
- ・ 3 月 23 日（月）より荷物搬入の立ち合い、設備機器取付に立ち合い確認した。
- ・ 3 月 28 日（土）豊ヶ丘学童クラブから貝取小学童クラブへ荷物の引っ越しを行った。永山小、永山、貝取学童クラブから職員が応援に来てくれた。

〈事務作業〉

- ・ 児童データの入力、児童台帳、誕生日リスト等作成。
- ・ 入所説明会の資料を作成。
- ・ 豊ヶ丘学童クラブ職員と消耗品在庫を確認し、不足のものを発注。
- ・ 年間計画の策定…防犯、防災計画、行事計画等。
- ・ 4 月当初の詳細な育成計画を策定。

〈職員に関すること〉

- ・ 貝取学童クラブから施設長が異動予定だったため、引継ぎ業務に専念できるよう貝取学童クラブに於いて 1 月に正職員 1 名を採用した。
- ・ 異動者の所属施設と職員の出張について調整した。新規採用職員募集について本部と調整した。採用面接を行った。
- ・ 採用予定職員を含む全職員での打ち合わせを 3 回行った。最後の打ち合わせ時には 4 月当初の流れと、担当の確認を行った。
- ・ 新採用の正職員 1 名は 3 月末にようやく決まり、新入所説明会で保護者に紹介することができた。

〈全体として〉

- ・ 1 年生の人数が多く、新入所面談の日程調整が大変だったが無事期限内に終えることができた。
- ・ 市の職員と交流を持ちながらの引継ぎは丁寧に行われ、大きな混乱なく進めることができた。しかし、3 月に入り法人内異動の職員も徐々に引継ぎに入れるようになったころに新型コロナウイルス感染症の流行が拡大し、小学校が休校になってしまった。学童クラブへの登所も自粛をお願いする事態となり、登所する子どもの人数が減ったため、多くの子どもたちと会えなくなってしまったことが残念だった。
- ・ 法人職員が豊ヶ丘学童クラブに行くと子どもたちはいつも歓迎してくれた。これから私たちが一緒に過ごす大人になるということもよく理解していて準備期間中は楽しく過ごすことができた。
- ・ 多摩市からパソコンが 2 台貸与されたがインターネットの環境がなく、様々な作業に不便が生じた。職員がそれぞれ所属施設に持ち帰り作業しなければならないこともあった。
- ・ 学校が休校になるという状況の中での受託となり神経を使うことも多かったが、職員の頑張りもあり一通りの委託準備を期限内に終えることができた。